

第2章

事業紹介 鹿沼市協力事業 エピソード

事業紹介

公衆衛生研修会

予防研修会

日 時) 昭和61年2月23日(火)
テーマ) 「成人の為のブラッシングについて」
実習・講義
講 師) 丸森賢治先生

研 修 会

日 時) 昭和62年8月23日(土)
テーマ) 「全身疾患と歯科治療」
講 師) 獨協医科大学口腔外科 笠倉達雄先生

予防研修会

日 時) 昭和63年1月23日(土)
テーマ) 「刷掃用器具の基礎知識」
講 師) 花王第一研究所副主任 辻田 敏先生

予防研修会

日 時) 平成2年6月17日(日)
テーマ) 「高齢者(寝たきり老人を含む)の歯科医療」
講 師) 東京都立老人医療センター 歯科口腔外科部長
渡辺郁馬先生

研 修 会

日 時) 平成10年2月19日(木)
テーマ) 「天然素材甘味料キシリトールの可能性」
講 師) 日本歯科大学 高齢者歯科診療科助教授
鈴木 章先生

公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成11年12月11日(土)
テーマ) 「21世紀に向かって老人問題を考える」
—いかに老人問題をノーマライズにするか—
講 師) 医療法人北斗会 宇都宮病院理事長
尾崎史郎先生

研 修 会

日 時) 平成14年2月28日(木)
テーマ) 「最近のフッ化物応用の考え方」
講 師) 日本歯科大学 衛生学講座助教授
福田雅臣先生

研 修 会

日 時) 平成15年2月27日(木)
テーマ) 「健康日本21と歯科保健」

—成人歯科保健活動の進め方・とらえ方—

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成16年2月11日(水)
テーマ) 「注意して欲しい顎口腔疾患」
—口腔疾患の鑑別を中心に—
講 師) 自治医科大学 歯科口腔外科科学講座教授
草間幹雄先生

研 修 会

日 時) 平成17年3月10日(木)
テーマ) 「動物由来感染症について」
講 師) キンダーケア動物病院獣医師
村田 妙先生

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成18年2月26日(日)
テーマ) 「命をねらう歯周病」
—歯周病と全身疾患との関わり。全身
の健康は口の中から—
講 師) 日本歯科大学 歯学部歯周病学講座教授
沼部幸博先生

公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成19年2月25日(日)
テーマ) 「新しい介護保険は口腔に何を求めているのか？」
講 師) 日本歯科大学歯学部教授・口腔介護
リハビリセンター長 菊谷 武先生

公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成19年7月1日(日)
テーマ) 「明日から導入できる顎機能の診査・
診断システム」
—チェアサイドで行う簡便で有能な顎
関節と筋触診法の実際—
講 師) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴
学第1講座主任教授・日本歯科大学院
新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学
教授 小出 馨先生

研 修 会

日 時) 平成19年7月1日(日)
テーマ) 「明日から導入できる顎機能の診査・
診断システム」
—チェアサイドで行う簡便で有能な顎
関節と筋触診法の実際—
講 師) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴
学第1講座主任教授・日本歯科大学院
新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学
教授 小出 馨先生

公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成20年1月27日(日)
テーマ) 「後期高齢者医療がもつめる口腔の役割」
—その評価と対応—

講 師) 日本歯科大学 歯学部准教授・口腔介
護リハビリセンター長 菊谷 武先生
公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成20年7月13日(日)

テーマ) 「チェアサイドで行う簡便で有効な顎
関節と筋触診法の実際 実技編」

講 師) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴
学第1講座主任教授・日本歯科大学院
新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学
教授 小出 馨先生

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成21年1月25日(日)

テーマ) 「医療安全管理と最近のトピックス」
—改正医療法で求められる医療安全対
策を踏まえて—

講 師) 獨協医科大学 口腔外科学講座教授
今井 裕先生

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成21年7月26日(日)

テーマ) 「エックス線による画像診断と最近の
トピックス」

講 師) 日本歯科大学 生命歯学部歯科放射線
学講座教授 代居 敬先生

公衆衛生・学術合同研修会

日 時) 平成22年7月4日(日)

テーマ) 「口腔ガン細胞解説と実技」

講 師) 東京歯科大学 市川総合病院臨床検査
科病理教授 田中洋一先生

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成23年7月24日(日)

テーマ) 「最近の口腔外科のトピックスと日常臨床
において注意しなければならないこと」
—医療安全管理を踏まえて—

講 師) 足利日本赤十字病院 口腔外科部長
山根伸夫先生

学術・公衆衛生合同研修会

日 時) 平成24年7月1日(日)

テーマ) 上都賀総合病院 歯科口腔外科 開設記念
①「病院連携の意義と将来展望」

②「医療安全管理について」

—医療事故防止と医療事故発生時の対
応を中心に—

学術・企画広報合同研修会

日 時) 平成26年7月27日(日)

テーマ) 「口腔外科の最新情報と医療安全にお
ける注意すべき問題点について」
—骨粗鬆症対応も含めて—

歯科保健指導者講習会

幼稚園・保育所合同歯科研修

日 時) 昭和60年8月23日(金)

テーマ) 「就学前児童のむし歯予防について」

講 師) 上都賀歯科医師会 金子智英先生

テーマ) 「就学前児童のむし歯予防について」

講 師) 上都賀衛生士会 中田和子先生

学校歯科研修会

日 時) 昭和61年8月20日(水)

テーマ) 「ブラッシング指導の実際」

講 師) 上都賀歯科医師会 高崎道子先生

テーマ) 「ブラッシング指導の実際」

講 師) 上都賀衛生士会 保坂弥生子先生

テーマ) 「歯みがきテストの結果について」

講 師) 養護教諭 福田君枝先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 昭和62年8月25日(火)

テーマ) 「おやつについてのアンケート調査結果報告」

講 師) もみやま保育所主任保母 鈴木冨美子先生

テーマ) 「おやつと小児の健康について」

講 師) 上都賀歯科医師会 佐川徹三先生

テーマ) 「ブラッシング指導の実際」

講 師) 上都賀衛生士会 荒井妙子先生

学校歯科研修

日 時) 昭和63年8月25日(火)

テーマ) 「小学校低学年への歯科衛生講話」

講 師) 上都賀歯科医師会 齊須わか子先生

テーマ) 「小学校高学年への歯科衛生講話」

講 師) 上都賀歯科医師会 石崎 誠先生

テーマ) 「中学生への歯科衛生講話」

講 師) 上都賀歯科医師会 鈴木節雄先生
テーマ) 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング
法について」

講 師) 上都賀歯科医師会 田代高志先生
テーマ) 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング
法について」 実習

講 師) 上都賀歯科医師会
幼稚園・保育所合同歯科指導者研修会

日 時) 平成元年 8月24日(木)
テーマ) 「保育所における虫歯予防の実践」
講 師) 中央保育所主任保母 福田勝枝先生

テーマ) 「乳幼児の虫歯予防」
講 師) 上都賀歯科医師会 福島隆夫先生

テーマ) 「乳幼児の歯みがき指導法」

講 師) 上都賀歯科医師会 梅野悦子先生

学校歯科研修会

日 時) 平成2年 8月23日(木)
テーマ) 「小学生の歯列の特徴について」
講 師) 上都賀歯科医師会 中條佐智子先生
テーマ) 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング
法について」 デモ

講 師) 上都賀歯科医師会

幼稚園・保育所等合同指導者歯科研修会

日 時) 平成3年 8月19日(月)
テーマ) 「咬むことについて」
講 師) 藤田保健衛生大学 口腔外科
桑原未代子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成4年 8月21日(金)
テーマ) 「学校における歯科保健」
講 師) 宇都宮市立明保小学校養護教諭
鈴木百合子先生

幼稚園・保育所等合同歯科指導者研修会

日 時) 平成5年 8月24日(木)
テーマ) 「子供の歯の発達とむし歯予防」
講 師) 上都賀歯科医師会 金子 實先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成6年 8月18日(木)
テーマ) 「子供の口腔内軟組織疾患について」

講 師) 藤田保健衛生大学 医学部
桑原未代子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成7年 8月24日(木)
テーマ) 「子供のそしゃく能力と食生活」

講 師) 日本大学歯学部小児歯科学教室 講師
中島一郎先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成8年 21日(水)
テーマ) 「歯の外傷について」

講 師) 日本大学歯学部矯正学教室 非常勤講師
坂入 博先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成9年 8月20日(水)
テーマ) 「乳幼児の口腔内環境について」

講 師) 昭和大学歯学部小児歯科学教室 講師
向山賢一郎先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成10年 8月20日(木)
テーマ) 学校歯科保健—CO, GO中心に一
講 師) 栃木県歯科医師会 学校歯科担当常務理事
岡本全宏先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成11年 8月19日(木)
テーマ) 「乳幼児のブラッシング指導」
講 師) 栃木県衛生福祉大学校
佐藤栄子先生・久保井久子先生
テーマ) 実習「ブラッシング指導のポイント」

講 師) 栃木県衛生福祉大学校
佐藤妙子先生・小川洋子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成12年 8月22日(火)
テーマ) 「キレル理由は歯にあった」
—美しい歯と心を育てる歯科を目指して—
講 師) 歯科医師[東京都開業] 倉治ななえ先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成13年 8月23日(木)
テーマ) 「子育て歯科で美しい歯を育てましよう」
—パーフェクト歯磨きレッスンとキシ

リトールを使った新しいむし歯予防—
講 師) 歯科医師〔東京都開業〕倉治ななえ先生
歯科保健指導者講習会

日 時) 平成14年8月22日(木)
テーマ) 「生きる力と学校歯科保健活動」
一歯・口腔から学ぶ児童生徒等の健康
づくり—

講 師) 明海大学歯科部口腔衛生学講座 教授
安井利一先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成15年8月21日(木)
テーマ) 「未就学児童のための実践的な歯科口
腔保健指導」

講 師) 歯科医師〔東京都開業〕グリーンン せつる先生
歯科保健指導者講習会

日 時) 平成16年8月26日(木)
テーマ) 「スポーツ外傷とマウスガードの有効性」
講 師) 東京歯科大学教授スポーツ歯学研究室主任
石上恵一先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成17年8月4日(木)
テーマ) 「口から育つ子どものこころと身体」
— “食べる” の発達と口の健康—

講 師) 昭和大学歯学部小児成育歯科学教室助教授
井上美津子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成18年8月24日(木)
テーマ) 「学校歯科保健からみた『食育』の意義」
講 師) (社)日本学校歯科医会・(社)東京都学校歯
科医会理事・品川学校歯科医会長・医
療法人アリスバンビーニ小児歯科 歯
学博士 丸山進一郎先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成19年8月9日(木)
テーマ) 「幼児・児童の虐待について」
講 師) 社会福祉法人子ども虐待防止センター
評議員・練馬保健所嘱託医・とよたま
こころの診療所長・精神科医
鷲山拓男先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成20年8月21日(木)
テーマ) 「学校歯科保健の発展のためのアプローチ」
講 師) 前東京都中央区立泰明小学校校長・
現東京都教職員研修センター研修指導員
小暮義弘先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成21年8月27日(木)
テーマ) 「離乳食から乳幼児への咀嚼の重要性と
小児メタボリックシンドロームについて」
講 師) (財)児童育成協会 こどもの城 小児保
健部 技術主任 太田百合子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成22年7月29日(木)
テーマ) 「学校歯科保健の実際 —現在取り組
んでいる事例紹介—」
講 師) (財)ライオン歯科衛生研究所 口腔保険部
チーフ歯科衛生士 黒川亜紀子先生

歯科保健指導者講習会

日 時) 平成23年8月25日(木)
テーマ) 「乳幼児期において上手に食べるために」
—乳幼児の摂食指導を中心に—
講 師) 日本歯科大学 生命歯学部准教授
小児歯科科長 田村文誉先生

学校歯科研修会

日 時) 平成24年8月23日(木)
テーマ) 「学校歯科検診におけるCO・GOの考え方」
—事後措置を含めて—
講 師) 栃木県歯科医師会 学校歯科委員会委
員長 菊地英世先生

学校歯科研修会

日 時) 平成25年8月27日(火)
テーマ) 「一緒に考えてみませんか？発達障害
や特別支援のこと」
—少子高齢社会の中、共に生きる道を求めて—

学校歯科研修会

日 時) 平成26年8月24日(日)
テーマ) 「障害のある児童生徒・学生への合理
的配慮とは」

—学びの困難にどのように取り組むべきかテクノロジーを活用した学習の支援も含めて—

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

口腔ケア研修会

日 時) 平成19年12月9日(日)

テーマ) 「口は元気の素」

講 師) 日本歯科大学 歯科部准教授・口腔介護リハビリセンター長 菊谷 武先生

鹿沼市 市制60周年記念

日 時) 平成20年10月5日(日)

テーマ) 「口をまもる。暮らしをまもる。命をまもる口腔ケア」

—口の中から全身の健康を考える—

講 師) 米山歯科クリニック院長 医学博士 米山武義先生

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

日 時) 平成23年2月11日(金)

テーマ) 「命を守る。暮らしを守る口腔ケア Part II」

—単に長命というだけで良いですか—

講 師) 日本歯科大学歯学部教授・附属病院口腔介護リハビリテーションセンター長・大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学 菊谷 武先生

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

日 時) 平成23年12月11日(日)

テーマ) 「食は地球とのコミュニケーション」
—世界で一番おいしさがわかる日本人の咬み合わせ—

講 師) 日本歯科大学 附属病院准教授 原 節宏先生

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

日 時) 平成24年12月9日(日)

テーマ) 「クイズで語る おもしろ食育 最前線」
—健口から健考、健幸へ—

講 師) 岡山大学 小児歯科講師 岡崎好秀先生

鹿沼市 市制65周年記念

日 時) 平成26年12月8日(日)

テーマ) 「歯がいい人はボケにくい」

—元気ハツラツとした生涯をおくる為に—

講 師) 日本歯科医師会 常務理事 倉治ななえ先生

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

日 時) 平成26年12月14日(日)

テーマ) 「歯周病予防で健康寿命アップ!!」

—全身の健康はお口の中から—

県央4都市歯科医師会合同学術研修会一覧

第1回 今市 (3支部)

日 時) 昭和59年10月7日

場 所) 鬼怒川温泉 松や

テーマ) コーヌスクローネについて

講 師) 日本歯科大学 補綴学第2講座助教授 稲葉 繁先生

第2回 上都賀 (3支部)

日 時) 昭和60年6月30日

場 所) 鹿沼市 ハッピー会館

テーマ) 総義歯におけるオクルージョンについて

講 師) 阿部晴彦総義歯研究所所長 阿部晴彦先生

第3回 宇都宮市

日 時) 昭和61年7月20日

場 所) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ

テーマ) 歯科治療に伴う合併症と医事紛争

講 師) 東京医科大学 麻酔学教室教授 久保田康耶先生

第4回 芳賀

日 時) 昭和62年7月12日

場 所) 真岡市 青年婦人会館

テーマ) 口腔領域に現れる症状の診断を中心に

講 師) 日本歯科大学 新潟歯学部教授 西村恒一先生

第5回 今市

日 時) 昭和63年9月23日

場 所) 今市市 木村屋ホテル

- テーマ) ペリオの審査・診断を中心として
 講師) 日本歯科大学助教授 岡本 浩先生
- 第6回 上都賀
 日 時) 平成元年9月15日
 場 所) 鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター
 テーマ) 最近の小児歯科の動向について
 講師) 藤田学園保健衛生大学医学部歯科
 口腔外科助教授 桑原未代子先生
- 第7回 宇都宮市
 日 時) 平成2年9月9日
 場 所) 宇都宮市 センチュリー平安
 テーマ) 歯内療法の最新情報について
 講師) 日本大学 歯学部教授 斉藤 毅先生
- 第8回 芳賀
 日 時) 平成3年8月25日
 場 所) 真岡市 青年婦人会館
 テーマ) 歯冠修復(充填)学最近の研究から
 講師) 東北大学教授 奥田禮一先生
- 第9回 今市
 日 時) 平成4年9月15日
 場 所) 今市市 木村屋ホテル
 テーマ) 日常臨床における有歯顎の咬合の与え方
 講師) 日本歯科教授 小林義典先生
- 第10回 上都賀
 日 時) 平成5年9月26日
 場 所) 鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター
 テーマ) 歯科医療費の現状と歯科界の将来展望
 講師) 京都大学 経済学部教授 小林周三先生
- 第11回 宇都宮市
 日 時) 平成6年9月24日
 場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ
 テーマ) 歯科医療におけるインフェクション
 コントロールについて
 講師) 神奈川県立こども医療センター歯科医師
 池田正一先生
- 第12回 芳賀
 日 時) 平成7年9月15日
 場 所) 真岡市 グランドホテル清風
 テーマ) 顎関節症への対応について
- ~その病因から治療まで~
 講師) 東京慈恵会医科大学教授
 杉崎正志先生
- 第13回 今市
 日 時) 平成8年8月25日
 場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ
 テーマ) 日常臨床における顎関節の診断と治療
 講師) 日本歯科大学 補綴学級室教授
 小林義典先生
- 第14回 上都賀
 日 時) 平成9年9月28日
 場 所) 鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター
 テーマ) 歯科界の今後の動向について
 講師) 野村総合研究所 医療・福祉研究室室長
 宮崎慶三先生
- 第15回 宇都宮市
 日 時) 平成10年7月5日
 場 所) 宇都宮市 グランドホテル
 テーマ) 歯科医学から宇宙医学へのアプローチ
 講師) 神奈川歯科大学 放射線学教室室長
 鹿島 勇先生
- 第16回 芳賀
 日 時) 平成11年9月26日
 場 所) 真岡市 グランドホテル清風
 テーマ) より確かな科学的根拠に基づいた補綴
 治療を求めて ―義歯やインプラント
 をめぐる最新の動向―
 講師) 広島大学 歯学部補綴哲学第一講座
 教授 赤川安正先生
- 第17回 今市
 日 時) 平成12年9月15日
 場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ
 テーマ) 逆さの視点 ―死から生を見る―
 講師) 元東京監察医務院院長 上野昌彦先生
- 第18回 上都賀
 日 時) 平成13年10月7日
 テーマ) 日本人の清潔がアブナイ
 ―アトピーからO157まで―
 講師) 東京医科歯科大学 医学部教授

藤田紘一郎先生

第19回 宇都宮市

日 時) 平成14年9月8日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 歯周治療の現状と未来

講 師) 日本大学歯学部保存学教室歯周病学

講座教授 伊藤公一先生

テーマ) 臨床家として明日を拓くための歯周治療

講 師) 宇都宮市歯科医師会 開業医

阿久津伸明先生

テーマ) 歯周治療とSPT

講 師) 宇都宮市歯科医師会 開業医

藤橋 弘先生

第20回 芳賀

日 時) 平成15年9月7日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 矯正歯科における診断と治療の実際

講 師) 北海道医療大学歯学部歯科矯正学講座

教授 溝口 到先生

第21回 今市

日 時) 平成16年9月5日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 歯周治療の新しい考え方 ―歯周ポケット(歯周病)と全身疾患の関わり―

講 師) 奥羽大学 歯学部病院教授

岡本 浩先生

第22回 上都賀

日 時) 平成17年9月4日

場 所) 鹿沼市 ウェルサンピア栃木

テーマ) 咬合・咀嚼が創る健康長寿

講 師) 日本歯科大学歯学部歯科補綴学第一講

座教授 小林義典先生

第23回 宇都宮市

日 時) 平成18年9月3日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 歯から読み解く健康長寿
―バイオフィルム除去の意義と術式―

講 師) 国立保健医療科学院 口腔保険部部長

花田信弘先生

第24回 芳賀

日 時) 平成19年9月2日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 命をねらう歯周病 ―歯周病と全身疾患との関わり。全身の健康は口の中から―

講 師) 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座

教授 沼部幸博先生

第25回 今市

日 時) 平成20年9月7日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) ニーズに応える新世代接着修復

―MIとエビデンスをいかして―

講 師) 日本歯科大学生命歯学部歯科保存学

講座教授 奈良陽一郎先生

第26回 上都賀

日 時) 平成21年9月6日

場 所) 鹿沼市 ウェルサンピア栃木

テーマ) 口腔粘膜疾患への対応、口腔がんを見落とさないために

講 師) 東京歯科大学 オーラルメディシン・

口腔外科学講座教授 山根源之先生

第27回 宇都宮市

日 時) 平成22年9月5日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 歯科臨床における知っておきたい咬合の基本 ―シークエンシャル咬合から咬み合わせリエゾン診療科で患者が訴える咬合まで―

講 師) 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講

座歯科補綴学分野診療科教授 附属病

院咬み合わせリエゾン診療科教授

玉置勝司先生

第28回 芳賀

日 時) 平成23年9月4日

場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ

テーマ) 21世紀型一歯利用員プラントに向けた挑戦
―臨床応用できる歯の再生とは―

講 師) 日本歯科大学生命歯学部再生・発生学

講座教授 中原 貴先生

第29回 日光

日 時) 平成24年9月2日
場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ
テーマ) 世界が変わる新しい義歯の考え方
講 師) 埼玉県川口市「かめだ歯科医院」院長
亀田行雄先生

第30回 鹿沼

日 時) 平成25年9月1日
場 所) 鹿沼市 ウェルサンピア栃木
テーマ) 「食物アレルギー・アナフィラキシー」
の対応
～現代のアレルギーについて考える～
講 師) 国立病院機構 相模原病院臨床研究セ
ンターアレルギー性疾患研究部部长
海老澤元宏先生

第31回 宇都宮市

日 時) 平成26年9月7日
場 所) 宇都宮市 ホテルニューイタヤ
テーマ) 歯科から発信する再生医療について
講 師) 東北大学大学院歯学研究科小児達歯科
学分野教授 福本 敏先生

鹿沼地区歯科医師警察連絡会総会特別講演会

第1回

日 時) 平成四年2月24日(月)
テーマ) 「歯科的身元確認について」
講 師) 東京歯科大学 法歯学教室主任教授
鈴木和男先生

第2回

日 時) 平成4年10月31日(土)
テーマ) 「法歯学の現場」
講 師) 東京歯科大学名誉教授 鈴木和男先生

第3回

日 時) 平成5年11月12日(金)
テーマ) 「死体に歯あり」
講 師) 東京歯科大学名誉教授 鈴木和男先生

第4回

日 時) 平成6年11月15日(火)
テーマ) 「法医学及び捜査における歯科医学と

その実際」

講 師) 獨協医科大学 法医学教室助教授
高橋雅典先生

第5回

日 時) 平成7年11月15日
テーマ) 「死体に歯あり」

講 師) 東京歯科大学特任教授 鈴木和男先生

第6回

日 時) 平成8年11月8日(金)
テーマ) 「人の命」

講 師) 東京歯科大学特任教授 鈴木和男先生

第7回

日 時) 平成9年11月13日(金)

テーマ) 「法医学及び捜査における歯科医学と
その実際」

—最近のDNA鑑定について—

講 師) 獨協医科大学 法医学教室助教授
高橋雅典先生

第8回

日 時) 平成10年11月12日(木)

テーマ) 「法医学及び捜査における歯科」
—最近の事例を中心に—

講 師) 獨協医科大学 法医学教室助教授
高橋雅典先生

第9回

日 時) 平成11年11月11日(木)

テーマ) 「人の命の大切さ」

講 師) 東京歯科大学 法歯学教室特任教授
鈴木和男先生

第10回

日 時) 平成12年11月29日(木)

テーマ) 「法医学における個人識別」

—その方法のあれこれ—

講 師) 獨協医科大学 法医学教室助教授
高橋雅典先生

第11回

日 時) 平成13年11月14日(木)

テーマ) 「逆さの視点」 —死から生を見る—

講 師) 元東京都監察医務院長 上野正彦先生

- 第12回
日 時) 平成14年11月7日(木)
テーマ) 「異常心理学について」
一人間の心の光と闇—
講 師) 栃木県カウンセリングセンター所長
日野宜千先生
- 第13回
日 時) 平成15年11月13日(木)
テーマ) 「逆さの視点PartII」 —死から生を見る—
講 師) 元東京都監察医務院長・医学博士
上野正彦先生
- 第14回
日 時) 平成16年11月18日(木)
テーマ) 「身元確認における歯科鑑定の意義」
講 師) 獨協医科大学 医学部法医学教室助教授
高橋雅典先生
- 第15回
日 時) 平成17年11月9日(水)
テーマ) 「少年犯罪の変化とその背景」
講 師) 上智大学名誉教授 福島 章先生
- 第16回
日 時) 平成18年11月9日(木)
テーマ) 「空虚な自己の時代と のび太症候群」
講 師) 東京工業大学 健康管理センター教授
影山任佐先生
- 第17回
日 時) 平成19年11月8日(木)
テーマ) 「日本の殺人：戦後50年の変化」
一人はなぜ人を殺すのか—
講 師) 総合研究大学院大学教授
長谷川眞理子先生
- 第18回
日 時) 平成20年11月13日(木)
テーマ) 「現代の犯罪とプロファイリング」
講 師) 帝塚山学院大学 人間文化学部教授
小田 晋先生
- 第19回
日 時) 平成21年11月11日(木)
テーマ) 「歯科的個人識別」
- その落とし穴と最新技術—
講 師) 東京歯科大学 法歯学講座准教授
花岡洋一先生
- 第20回
日 時) 平成22年11月18日(木)
テーマ) 「家族内の対立と葛藤」
—家族の絆とセイフティ・ネット—
講 師) 総合研究大学院大学教授
長谷川眞理子先生
- 第21回
日 時) 平成23年11月10日(木)
テーマ) 「歯科的個人識別 実習編」
—東日本大震災における活動報告とともに—
講 師) 東京歯科大学 法歯学講座准教授
花岡洋一先生
- 第22回
日 時) 平成24年11月1日(木)
テーマ) 「歯科界の新たな役割」
—子ども虐待の根絶といじめへの取組み—
講 師) 東京歯科大学 法歯学講座准教授
花岡洋一先生
- 第23回
日 時) 平成25年11月7日(木)
テーマ) 「犯罪心理学を使った犯人の行動パターンの分析と予測」
—大量殺傷事件と「黒い未亡人型」連続殺人—
講 師) 法政大学 文学部心理科教授
越智啓太先生
- 第24回
日 時) 平成26年11月12日(木)
テーマ) 『大規模災害時における歯科界の活動と新たな留意点 ～地域防災計画と死因究明関連2法の成立を受けて～』
講 師) 奥羽大学 歯学部生体構造学講座法歯学教授 花岡洋一先生

臨床研修会（調査委員会担当）

第1回

日 時) 平成14年10月29日(火)

テーマ) 「高血圧症について」

講 師) 小野内科循環器科医院 小野彰史先生

第2回

日 時) 平成15年2月17日(月)

テーマ) 「心電図の読み方・考え方」

講 師) 小野内科循環器科医院 小野彰史先生

第3回

日 時) 平成15年7月16日(水)

テーマ) 「糖尿病について」

講 師) 上都賀総合病院 内科 中村 晋先生

第4回

日 時) 平成15年10月27日(月)

テーマ) 「B型・C型肝炎について」

講 師) 上都賀総合病院副委員長 一戸 彰先生

第5回

日 時) 平成16年2月24日(火)

テーマ) 「知っておきたい性行為感染症」

講 師) 小林産婦人科医院院長 小林一彦先生

第6回

日 時) 平成16年7月26日(月)

テーマ) 「老人の特性について」

～痴呆を中心に～

講 師) 鹿沼病院院長・理事 駒橋 徹先生

第7回

日 時) 平成16年11月24日(水)

テーマ) 「脳卒中について」

講 師) 池田脳神経外科院長 池田俊一郎先生

第8回

日 時) 平成17年3月10日(木)

テーマ) 「動物由来感染症について」

講 師) キンダーケア動物病院 獣医師

村井 妙先生

第9回

日 時) 平成17年7月25日(月)

テーマ) 「中高年が注意しなければならない心疾患」

講 師) 上都賀総合病院 内科部長

駒場 明先生

第10回

日 時) 平成18年3月15日(水)

テーマ) 「加齢に伴う眼疾患について」

講 師) 吉沢眼科医院院長 吉沢 徹先生

第11回

日 時) 平成18年9月20日(水)

テーマ) 「血液疾患について」

講 師) 奥山医院院長 奥山明彦先生

第12回

日 時) 平成19年3月20日(火)

テーマ) 「皮膚疾患について」

講 師) 藤沢皮膚科医院院長 藤沢崇行先生

第13回

日 時) 平成19年8月27日(月)

テーマ) 「耳鼻咽喉科の疾患について(歯科関係)」

～歯性上顎洞炎・睡眠時無呼吸症候群
について～

講 師) 細川医院 細川朋子先生

第14回

日 時) 平成20年2月12日(火)

テーマ) 「腎不全患者の歯科治療」

講 師) 竹村内科腎クリニック院長 竹村克己先生

第15回

日 時) 平成20年6月27日(金)

テーマ) 「夏に向かってよく見る小児疾患」

～顎・顔面領域を中心に～

講 師) いとうこどもクリニック院長

伊藤直実先生

第16回

日 時) 平成20年11月26日(水)

テーマ) 「スポーツ医学」

講 師) 鹿沼整形外科院長 大西正康先生

第17回

日 時) 平成21年8月10日(月)

テーマ) 「老健からみた高齢者医療と介護保険」

講 師) 老人保健施設 かみつが施設長

須田啓一先生

第18回

日 時) 平成21年10月26日(月)

テーマ) 「新型インフルエンザについて」

講 師) いとうこどもクリニック院長
伊藤直実先生

第19回

日 時) 平成23年1月19日(水)

テーマ) 「リウマチ膠原病について」

講 師) 上都賀総合病院リウマチ膠原病内科院長
花岡亮輔先生

第20回

日 時) 平成23年5月10日(火)

テーマ) 「放射線被曝 今せまる危機」

講 師) 大井田医院院長 大井田宗継先生

第21回

日 時) 平成24年2月15日(水)

テーマ) 「心の闇について考える……実は精神
科医もよくわからない」

講 師) 特定医療法人 清和会 鹿沼病院院長
駒橋 徹先生

第22回

日 時) 平成25年2月13日(水)

テーマ) 「誤嚥性肺炎の予防に必要な歯科的
アプローチ」

講 師) 上都賀総合病院 リウマチ膠原病内科
部長 花岡亮輔先生
上都賀総合病院 歯科口腔外科
泉さや香先生

第23回

日 時) 平成25年11月11日(月)

テーマ) 「骨粗鬆症の診断と治療」
～歯科と関連性について～

講 師) 倉持整形外科 星野亮一先生

第24回

日 時) 平成27年2月10日(火)

テーマ) 「妊娠時における歯科診療と治療」
～歯科医師は特にどのような点に配慮
すべきか～

鹿沼市協力事業

1歳6ヶ月児健診 於) 鹿沼市民情報センター・西方町保健センター

平成21年 21回 891名 平成22年 21回 851名 平成23年 21回 862名
平成24年 19回 785名 平成25年 18回 670名

3歳児健診

平成21年 21回 866名 平成22年 21回 923名 平成23年 20回 862名
平成24年 19回 844名 平成25年 18回 792名

鹿沼市2歳児教室 (年6回)

平成21年 237名 平成22年 190名 平成23年 245名 平成24年 127名
平成25年 192名

西方2歳児健診(年4回)

平成21年 34名 平成22年 36名 平成23年 32名 平成24年 14名

新米パパママ学級

平成21年 21回 866名 平成22年 6回 28名 平成23年 4回 40名
平成24年 1回 5名

鹿沼市マタニティ教室(年3回)

平成24年 2回 58名 平成25年 18回 792名

休日急患歯科診療所診療

平成21年 日曜日 50回・祭日 11回・特別日 10回 実施した。
平成22年 日曜日 49回・祭日 10回・特別日 10回 実施した。
平成23年 日曜日 49回・祭日 10回・特別日 10回 実施した。
平成24年 日曜日 50回・祭日 10回・特別日 10回 実施した。
平成25年 日曜日 50回・祭日 10回・特別日 10回 実施した。

介護認定審査会 鹿沼市 平成21年～平成25年

木村佐智子・佐川 徹三・福島 隆夫・石澤 隆之・小川 哲弥・手塚 忠雄・田島 雅哉
鈴木 定幸・手塚 史・駒橋 武

介護認定審査会 西方町 平成21年～24年 中田嘉之

鹿沼市「健康づくりのつどい」

平成21年 第29回 知っておきたいがんのこと
相馬 英人・村本 創
平成22年 第30回 運動で毎日楽しく健康づくり～もっと体を動かそう
平成23年 第31回 休養は「こころ」の栄養
相馬 英人・星 雅朗・田島 雅哉
平成24年 第32回 「けんしんは変身の第一歩」
相馬英人・
平成25年 第33回 知らなきゃ損するたばこの話
茂呂 英運・星 雅朗・三浦 秀憲

西方町学校保健委員会

平成21年 2月16日

平成23年 2月1日 西方町 真名子夢ホール 中田 嘉之・斉須 わか子

平成24年 2月3日 西方総合支所 中央公民館 中田 嘉之・斉須 わか子
親子で学ぶむし歯予防教室

平成25年 2月21日 こじか 保育園 茂呂 英運 33名
平成25年10月23日 鹿沼市清洲保育園（おあぞらサロン） 齋藤 由昭
平成25年10月24日 鹿沼市こじか保育園（ひまわりサロン） 茂呂 英運

認知症の方の歯科健診
平成25年 2月28日 鹿沼市民情報センター 鰐原 治子

鹿沼市議会政策・調査・研究委員会
平成24年10月11日 鹿沼市役所 佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫・田代 高志
相馬 英人・手塚 史雄
平成25年 1月10日 鹿沼市役所 佐川徹三・相馬 英人・手塚 史雄

鹿沼市在宅寝たきり歯科保健推進事業連絡調整委員会 鹿沼市民情報センター
平成22年 2月1日 佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫
平成23年 2月1日 佐川 徹三・菊地 均・大貫 真裕
平成24年 2月1日 佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫
平成25年 2月4日 佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫

鹿沼市国保運営協議会 御殿山会館 鹿沼市役所 鹿沼市民情報センター
平成21年 2月27日・8月6日・8月28日・9月18日 福島 隆夫・大貫 真裕
平成22年 2月18日・8月25日 福島 隆夫・大貫 真裕
平成23年 2月18日・8月31日 福島 隆夫・大貫 真裕
平成24年 2月23日・8月3日・8月30日・10月4日 福島 隆夫・大貫 真裕
平成25年 2月22日・8月29日 福島 隆夫・畑 健一

西方町国保運営協議会 西方町 中央公民館
平成21年 6月8日・12月17日 斉須わか子
平成22年 5月27日・12月22日 斉須わか子

西方町地域包括支援センター運営協議会 西方町保健センター
平成23年 2月25日 斉須わか子

鹿沼市要保護児童対策ネットワーク会議〔代表者会議〕 鹿沼市役所鹿沼市民情報センター
平成22年 1月26日 福島 隆夫 平成23年1月27日 大貫 真裕
平成24年 1月26日 福島 隆夫 平成25年 2月28日 大貫 真裕

鹿沼市休日急患歯科診療所運営委員会・鹿沼市民情報センター
平成21年 6月29日 菊地 均・大貫 真裕・田代 高志・佐川 徹三〔管理者〕
平成22年 7月9日 菊地 均・大貫 真裕・田代 高志・佐川 徹三〔管理者〕
平成23年 7月4日 大貫 真裕・福島 隆夫・田代 高志
平成24年 8月7日 大貫 真裕・福島 隆夫・田代 高志・佐川 徹三〔管理者〕
平成25年 7月23日 大貫 真裕・福島 隆夫・田代 高志・佐川 徹三〔管理者〕

鹿沼市自殺対策連絡協議会 鹿沼市民情報センター 駒橋 武
平成23年 7月21日 平成24年 2月7日 平成25年 3月13日

- 鹿沼市社会福祉協議会評議員会 鹿沼市総合福祉センター 大貫 真裕
 平成21年5月28日・12月25日 平成22年11月29日・12月27日
 平成23年3月25日・5月26日 平成24年5月31日・11月28日・12月26日
 平成25年3月27日・5月24日・12月25日
- 鹿沼市長寿計画運営委員会 鹿沼市民情報センター 鹿沼市役所 相馬 英人
 平成21年1月28日・3月25日 平成23年3月28日・10月7日・12月27日
 平成24年3月27日 平成25年3月28日
- 鹿沼市介護認定審査会 辞令交付式 鹿沼市民情報センター
 平成21年・平成23年・平成25年
 木村佐智子・佐川 徹三・福島 隆夫・石澤 隆之・小川 哲弥・手塚 忠雄・田島 雅哉
 鈴木 定幸・手塚 史雄・駒橋 武
- 鹿沼市・栃木市西方地区保健福祉部(課)・教育委員会との合同協議会 鹿沼市総合福祉センター
 平成21年4月24日 県西健康福祉センター 加藤 文彦 次長兼地域支援部長
 鹿沼市健康福祉部：8名 鹿沼市教育委員会：4名
 西方町保健福祉課：2名 西方町教育委員会：1名 役員：18名
- 平成22年4月23日 県西健康福祉センター 栗野 哲実 所長・鹿沼市保健福祉部：9名
 鹿沼市教育委員会：4名 西方町保健福祉課：2名
 西方町教育委員会：1名
- 平成23年4月22日 県西健康福祉センター 栗野 哲実 所長・鹿沼市保健福祉部：9名
 鹿沼市教育委員会：4名 西方町保健福祉課：2名
 西方町教育委員会：1名
- 平成24年4月20日 鹿沼市総合福祉センター 鹿沼市保健福祉部：10名
 鹿沼市教育委員会：4名 栃木市西方総合支所：3名 役員：18名
- 平成25年4月26日 県西健康福祉センター 大原 智子 所長・鹿沼市保健福祉部：10名
 鹿沼市教育委員会：4名
- 障害児口腔衛生指導研修会 あおば園 金子 實
 平成21年6月23日・11月19日 ブラッシング法とおやつについて
 平成22年6月3日・10月28日 ブラッシング指導とおやつについて
 平成23年5月12日・10月6日 ブラッシング指導とおやつ指導
 平成24年5月10日・10月11日 口腔清掃の仕方とおやつ指導
 平成25年5月9日・10月3日 口腔清掃の仕方とおやつの与え方
- 鹿沼市次世代育成支援対策推進協議会 鹿沼市情報センター
 平成21年2月24日 小川 哲弥 (鹿沼市御殿山会館 大会議室)
 平成22年1月18日・2月8日 小川 哲弥
 平成24年5月22日 鈴木 定幸 菊沢コミュニティセンター
- 健康鹿沼21教室・鹿沼市情報センター
 平成21年7月21日 歯の健康について考えよう
 平成22年9月21日 欠損から始まる健康被害について・星 雅朗

よい歯のコンクール一次審査

平成21年5月28日	鹿沼市民情報センター	相馬 英人
平成22年5月27日	鹿沼市民情報センター	相馬 英人
平成23年5月19日	鹿沼市民情報センター	相馬 英人
平成24年5月17日	鹿沼市民情報センター	相馬 英人・岡本 真利
平成25年5月16日	鹿沼市民情報センター	相馬 英人・岡本 真利

在宅寝たきり老人等歯科保健推進事業・歯科ドック事業機器説明会 鹿沼市総合福祉センター

平成21年5月25日	健康課：2名	会員：18名	(市民情報センター)
平成22年5月24日	健康課：2名	会員：15名	
平成23年5月25日	健康課：2名	会員：17名	
平成24年5月21日	健康課：2名	会員：13名	
平成25年5月20日	健康課：2名	株式会社ナカニシ社員：2名	会員：17名

(仮)歯科保健推進条例検討小委員会 鹿沼市総合福祉センター

佐川 徹三・福島 隆夫・田代 高志・鈴木 裕之・鈴木 定幸・相馬 英人
手塚 史雄・岡本 真利・小林 幹夫

平成23年5月27日・6月21日・7月19日・8月19日

平成24年6月7日・8月9日

鹿沼市次世代育成支援対策推進協議会

平成21年2月24日	鹿沼市御殿山会館	大会議室
平成22年1月18日・2月8日	鹿沼市情報センター	小川 哲弥
平成23年5月26日	菊沢コミュニティセンター	鈴木 定
平成24年5月22日	菊沢コミュニティセンター	鈴木 定幸

三師会と鹿沼市子ども支援課との意見交換会

平成22年7月14日 鹿沼市民情報センター

佐川 徹三・菊地 均・大貫 真裕・田代 高志・小川哲弥

よい歯のコンクール二次審査・表彰

平成21年6月11日 今市健康福祉センター 佐川 徹三・菊地 均・大貫 真裕

親と子のよい歯のコンクール

《上都賀歯科医師会表彰》 最優秀賞 神山 孝子・優希

《栃木県歯科医師会表彰》 優秀賞 神山 孝子・優希

3歳児よい歯のコンクール

《上都賀歯科医師会表彰》 最優秀賞 駒場 梨佐・星野 鳳花

《栃木県歯科医師会表彰》 優良賞 駒場 梨佐・星野 鳳花

平成22年6月3日 鹿沼市民情報センター 佐川 徹三・菊地 均・大貫 真裕

親と子のよい歯のコンクール

《上都賀歯科医師会表彰》 最優秀賞 川方 和美・一悟

《栃木県歯科医師会表彰》 優秀賞 川方 和美・一悟

3歳児よい歯のコンクール

《鹿沼歯科医師会表彰》 最優秀賞 小倉 美佑・中田 心愛

よい歯のコンクール二次審査・表彰

平成21年6月11日	今市健康福祉センター	佐川 徹三・菊地 均・大貫 真裕
親と子のよい歯のコンクール		
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	神山孝子・優希
《栃木県歯科医師会表彰》	優秀賞	神山孝子・優希
3歳児よい歯のコンクール		
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	駒場梨佐・星野鳳花
《栃木県歯科医師会表彰》	優良賞	駒場梨佐・星野鳳花
平成22年6月3日	鹿沼市民情報センター・佐川	徹三・菊地 均・大貫 真裕
親と子のよい歯のコンクール		
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	川方和美・一 悟
《栃木県歯科医師会表彰》	優秀賞	川方和美・一 悟
3歳児よい歯のコンクール		
《鹿沼歯科医師会表彰》	最優秀賞	小倉美佑 中田心愛
《栃木県歯科医師会表彰》	優秀賞	小倉 美佑
	優良賞	中田 心愛
平成23年6月9日	今市健康福祉センター	佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫
親と子のよい歯のコンクール		
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	福田 孝高・奈々子
《栃木県歯科医師会表彰》	優良賞	福田 孝高・奈々子
3歳児よい歯のコンクール		
《鹿沼歯科医師会表彰》	最優秀賞	山本 彩乃
《栃木県歯科医師会表彰》	優秀賞	山本 彩乃
平成24年6月14日	県西健康福祉センター	佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	戸来 紀子・綾乃
《栃木県歯科医師会表彰》	優良賞	戸来 紀子・綾乃
3歳児よい歯のコンクール		
《上都賀歯科医師会表彰》	最優秀賞	木村 雪乃
《栃木県歯科医師会表彰》	H 24年11月15日	栃木県歯科医師会館
	優秀賞	木村 雪乃
平成25年6月6日	今市健康福祉センター	佐川 徹三・大貫 真裕・福島 隆夫
親と子のよい歯のコンクール		
《鹿沼歯科医師会表彰》	最優秀賞	黒浜由加里・悠莉
《栃木県歯科医師会表彰》	優良賞	黒浜由加里・悠莉
3歳児よい歯のコンクール		
《鹿沼歯科医師会表彰》	最優秀賞	山本 彩乃
《栃木県歯科医師会表彰》	優秀賞	山本 彩乃

よい歯のコンクール審査会 鹿沼市民情報センター
《第1回 図画・ポスター審査》平成21年6月8日・平成22年6月7日・平成23年6月6日・
平成24年6月4日・平成25年6月3日
《第2回 作文・標語審査》平成21年6月15日・平成22年6月14日・平成23年6月13日・
平成24年6月11日・平成25年6月10日

楽しく学ぶ「親子むし歯予防教室」(第35回～第39回) 鹿沼市民情報センター
平成22年6月19日・平成23年6月18日・平成24年6月16日・平成25年6月15日
打合わせ会) 鹿沼市民情報センター
平成22年5月10日・平成23年5月13日・平成24年5月11日・平成25年5月10日
衛生教育担当打合わせ会) 鹿沼歯総合福祉センター
平成22年6月11日・平成23年6月8日・平成24年6月11日・平成25年6月5日
反省会) 鹿沼市民情報センター
平成22年6月19日・平成23年6月18日・平成24年6月16日・平成25年6月15日

鹿沼市歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会
平成25年6月26日・12月18日 鹿沼市民情報センター 佐川 徹三・田代 高志

西方町学校保健委員会 西方町中央公民館 中田 嘉之・斉須わか子
平成21年7月9日・平成23年7月8日・平成24年2月3日

西方町成人歯科健診 西方町保健センター 中田 嘉之・斉須わか子
平成21年8月2日・8月30日・9月13日・9月27日
平成22年9月26日・10月24日
平成23年7月16日・8月7日・8月27日

歯科疾患実態調査・鹿沼市板荷地区コミュニティセンター・相馬 英人
鹿沼地区在宅医療連絡会議・県西健康福祉センター・福島 隆夫
平成25年8月7日・11月20日

歯科保健指導者講習会
平成21年8月27日 鹿沼市民文化センター 大会議室
平成23年8月25日 鹿沼市総合福祉センター
平成24年8月23日 鹿沼市総合福祉センター
平成25年8月27日 鹿沼市総合福祉センター

西方町成人歯科健診・西方町保健センター
平成22年9月26日・10月24日

西方町成人歯科健診事後指導会 西方町保健センター 総合体育館研修室 中田 嘉之・斉須わか子
平成21年9月2日・9月30日・10月14日・10月28日
平成22年10月29日・11月24日
平成23年8月31日・10月30日

西方町地域包括支援センター運営協議会・西方町保健センター・斉須 わか子

保健福祉部との懇談会

平成21年9月25日 鹿沼市「若駒」 保健福祉部 4名 役員 16名
 平成22年9月28日 鹿沼市「若駒」 保健福祉部 4名 役員 15名
 平成23年9月22日 鹿沼市「若駒」 保健福祉部 4名 役員 13名
 平成24年9月26日 鹿沼市総合福祉センター 生きがい広場 保健福祉部 5名 役員 15名
 平成25年9月27日 鹿沼市「若駒」 保健福祉部 5名 役員 13名

佐藤市長を囲む会

平成21年9月25日 鹿沼市「若駒」 佐藤 信 市長・保健福祉部 4名 役員 17名
 平成22年9月28日 鹿沼市「若駒」 佐藤 信 市長・保健福祉部 4名 役員 17名
 平成23年9月22日 鹿沼市「若駒」 佐藤 信 市長・保健福祉部 4名 役員 17名
 平成24年9月26日 鹿沼市「みしま」 佐藤 信 市長・保健福祉部 5名 役員 15名
 平成25年9月27日 鹿沼市「若駒」 佐藤 信 市長・保健福祉部 5名 役員 14名

鹿沼市介護認定審査会全体研修会・鹿沼市民情報センター

平成21年～平成25年 木村佐智子・佐川 徹三・福島 隆夫・石澤 隆之・小川 哲弥
 手塚 忠雄・田島 雅哉・鈴木 定幸・手塚 史雄・駒橋 武

鹿沼市要保護児童対策ネットワーク会議（実務者会議） 鹿沼市民情報センター

平成22年11月25日 駒橋 武
 平成23年10月6日・平成25年10月3日 岡本 真利
 平成24年12月20日 岡本 真利

鹿沼市健康づくり推進協議会 鹿沼市民情報センター 相馬 英人

平成23年10月26日（水）午後1：30
 平成24年6月20日 佐川 徹三

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

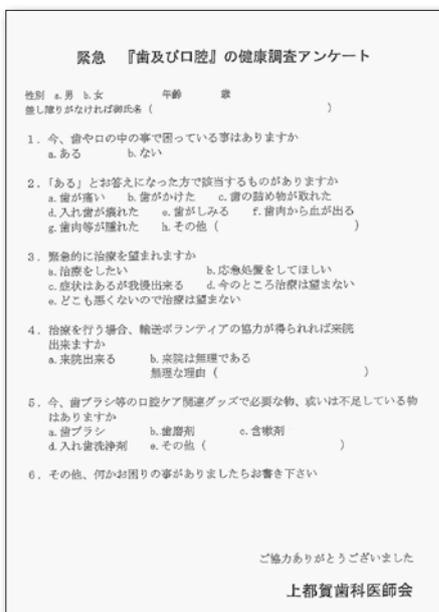
平成22年2月21日 鹿沼市民情報センター
 平成23年12月11日 鹿沼市民文化センター小ホール
 平成24年12月9日 鹿沼市民文化センター小ホール・
 平成25年12月8日 鹿沼市民情報センター〔市制施行65周年記念〕

「東日本大震災における歯科医師会の対応について」

■活動報告

平成23年3月11日発生の東日本大震災及び福島第一原発事故により、福島県相馬市・飯館村から524人が鹿沼市（鹿沼総合体育館：438人・菊沢コミュニティセンター：86人）に避難された。それに伴い、当歯科医師会では緊急対応として、3月22日（火）に鹿沼総合体育館（フォレストアリーナ）に500名分・菊沢コミュニティセンターに100名分の歯ブラシ及び歯磨剤、入れ歯洗浄剤を配付し、避難所に歯科相談所を仮設し、歯科治療のニーズや悩みを知るべく緊急アンケートを実施した。

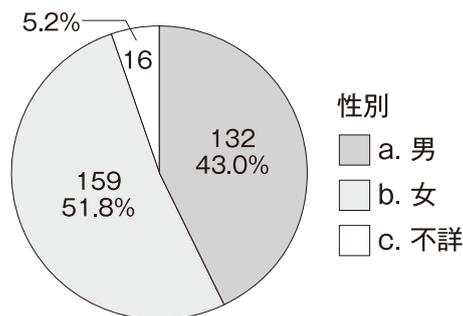
アンケートでは「現在、歯や口で困っていること」「歯科治療を望むか」「治療が必要な場合来院が可能か」「口腔ケア関連グッズで必要な物はなにか」などについて調査した。



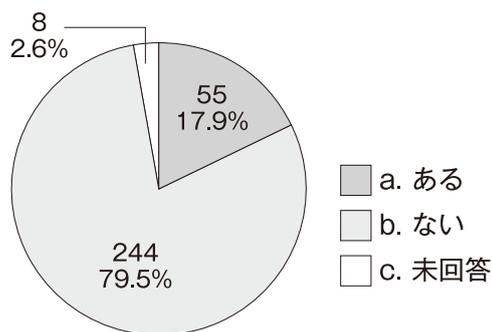
以下に提示するのが第1回活動報告であるが、被災された方々も、早く避難しなければ或いはとるものも取り敢えずという状況が垣間見られ、他のボランティア団体等も駆けつけており、計画停電も度々起こる状態で、色々な面で困惑したのも事実であるが、緊急アンケートは状況把握や今後の対応を考える上で非常に有意義であったように思う。

『歯および口腔』の健康調査アンケート結果

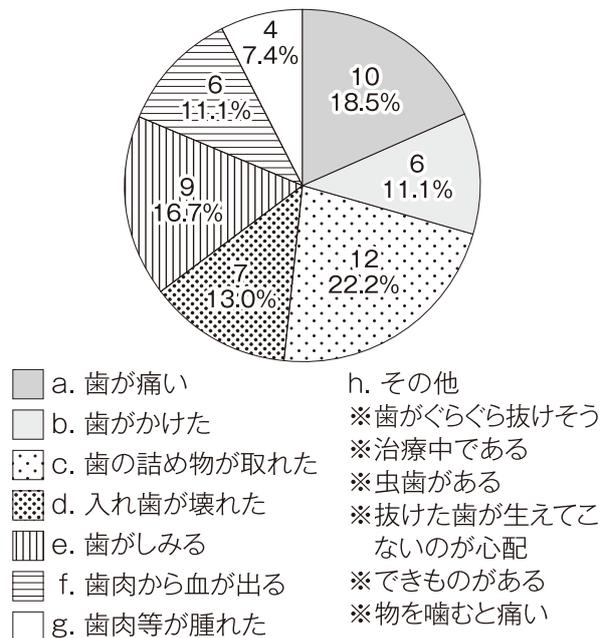
(H23.3.22 実施) 避難場所：鹿沼総合体育館
避難者総数 438人 回答者合計 307人
回収率 70.1%



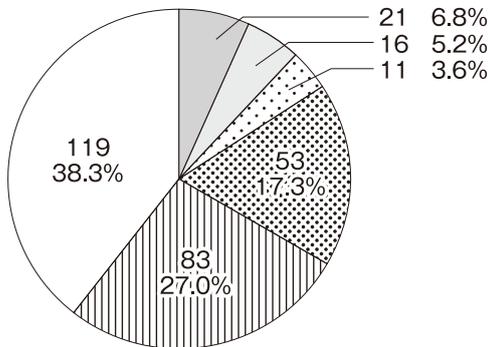
1. 今、歯や口の中のことで困っている事がありますか



2. 「ある」とお答えになった方で該当するものはありますか（複数回答あり）

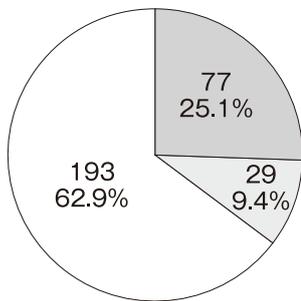


3. 緊急的に治療を望めますか(複数回答あり)



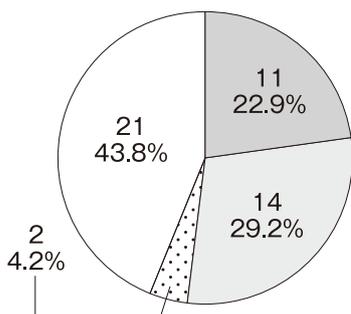
- a. 治療をしたい
- b. 応急処置をしてほしい
- c. 症状はあるが我慢できる
- d. 今のところ治療は望まない
- e. どこも悪くないので治療は望まない
- f. 未回答

4. 治療を行う場合、輸送ボランティアの協力が得られれば来院出来ますか



- a. 来院出来る
 - b. 来院は無理である※
 - c. 未回答
- ※ワーファリンを飲んでいない
※免許がない
※お金が無い
※足が痛い

5. 今、歯ブラシ等の口腔ケア関連グッズで必要な物、或いは不足している物がありますか(複数回答あり)



- a. 歯ブラシ
- b. 歯磨剤
- c. 含そう剤
- d. 入れ歯洗浄剤
- e. その他
 - ※歯間ブラシ
 - ※フロス
 - ※入れ歯ケース

6. 緊急的に治療を望めますか(複数回答あり)

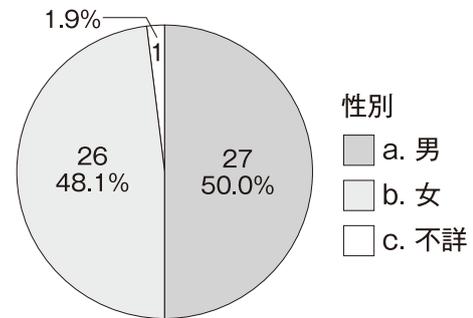
義歯がゆるい
送迎してもらえれば来院したい
新しい義歯を入れたいが完成までに何回かかるか
衛生士さんに磨いて欲しい
物が食べられない(入れ歯が合わない)(嘔むと痛い)

『歯および口腔』の健康調査アンケート結果

(H23.3.22 実施)

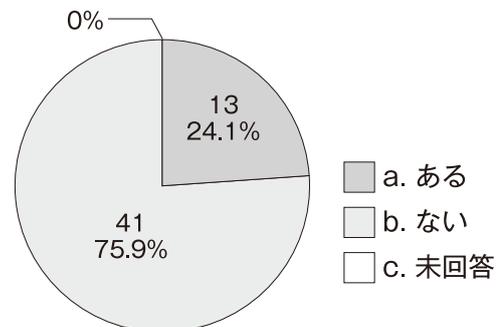
避難場所：菊沢コミュニティセンター

避難者総数 86人 回答者合計 54人
回収率 62.8%



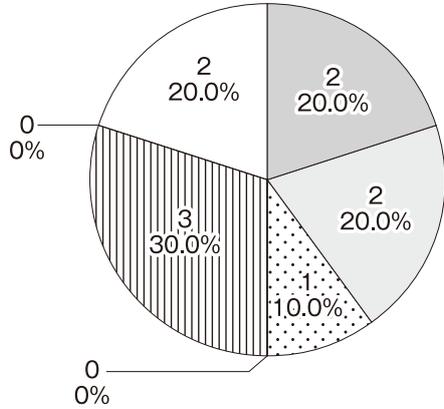
- 性別
- a. 男
 - b. 女
 - c. 不詳

1. 今、歯や口の中のことで困っている事がありますか



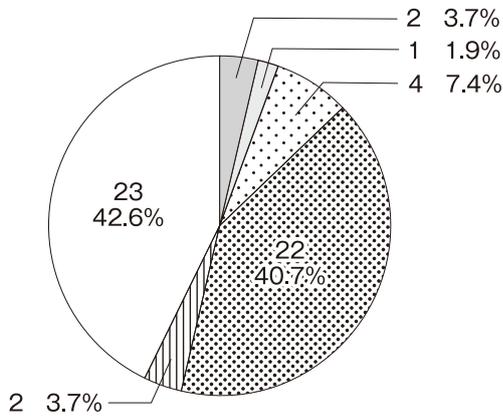
- a. ある
- b. ない
- c. 未回答

2. 「ある」とお答えになった方で該当するものはありますか（複数回答あり）



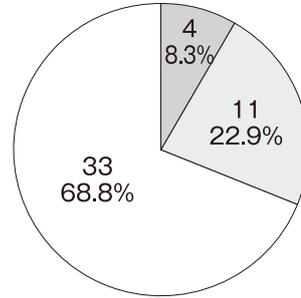
- a. 歯が痛い
- b. 歯がかけた
- c. 歯の詰め物が取れた
- d. 入れ歯が壊れた
- e. 歯がしみる
- f. 歯肉から血が出る
- g. 歯肉等が腫れた
- h. その他
 ※矯正器具がはずれている（下のみ）
 ※口内炎がある（2名）
 ※銀歯がはずれている
 ※治療途中
 ※妊娠中のため、応急処置

3. 緊急的に治療を望めますか（複数回答あり）



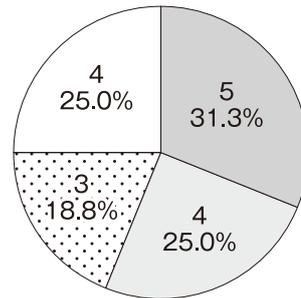
- a. 治療をしたい
- b. 応急処置をしてほしい
- c. 症状はあるが我慢できる
- d. 今のところ治療は望まない
- e. どこも悪くないので治療は望まない
- f. 未回答

4. 治療を行う場合、輸送ボランティアの協力が得られれば来院出来ますか



- a. 来院出来る
 - b. 来院は無理である※
 - c. 未回答
- ※無理だから
 ※お金が無いから

5. 今、歯ブラシ等の口腔ケア関連グッズで必要な物、或いは不足している物がありますか（複数回答あり）



- a. 歯ブラシ
- b. 歯磨剤
- c. 含そう剤
- d. 入れ歯洗浄剤
- e. その他
 ※歯間ブラシ
 ※フロス（2名）
 ※義歯容器

6. その他、何かお困りのことがありましたらお書き下さい

- 治療するのが痛い
- 歯ブラシの仕方を知りたい
- 今後どうなるかわからないので健診のようなものを行ってほしい

上都賀歯科医師会 東日本大震災 被災者支援活動

第1回 活動報告

日 時：平成 23 年 3 月 22 日（火）
時 間：16：15 歯科医師会事務所集合
19：00 解散

参加者：歯科医師 佐川、大貫、田代、畑、
鈴木（定）、相馬、福島、駒橋（武）、
瓦井、〔佐川（敬）〕
衛生士会 保坂、高野

活動内容

①鹿沼市総合体育館避難所

人 員：佐川、田代、鈴木（定）、相馬、
駒橋（武）、瓦井
衛生士 保坂、高野
菊沢避難所終了後、菊沢班 合流

対 象：福島県からの被災者 500 名弱
支援物資：歯ブラシ 36 ダース、
紙コップ 500 個、他（歯磨剤、
義歯洗浄剤、等）若干

活 動：支援物資を担当ボランティアに納品す
る。その後アンケートを行う予定で
あったが、避難所の運営管理上、当日
の実施は難しく、鹿沼市担当職院にア
ンケート用紙を渡し明日実施を依頼す
る。その際、歯科的問題を抱えた被災
者が居るとのことで、急遽、歯科相談
を実施。8名の相談を受け付ける。

主訴～右上6腫れた⇒Dr 瓦井 投薬、明日診察

主訴～上下FDゆるい⇒Dr 瓦井 明日診察

主訴～下顎FDハセツした⇒Dr 瓦井 明日診察

主訴～右上6、左下5抜歯予定⇒Dr 田代

明日診察

主訴～右下3残根痛い⇒Dr 田代 明日診察

主訴～右上3欠けた⇒田代 明日診察

主訴～地震前の抜歯部の糸が気になる⇒Dr 瓦井
抜糸

主訴～奥歯に穴ある、痛みなし⇒診察希望せず

②菊沢コミュニティセンター避難所

人 員：大貫、畑、福島、佐川（敬）

対 象：東北各地からの被災者 80 名強

支援物資：歯ブラシ 8 ダース（その後 小
児用 30 本追加）

活 動：担当者に支援物資を納品後、アンケー
ト実施。回収まで完了。

アンケートの集計や活動報告にもあるように、
歯科的問題を抱えている方や、集団での避難時に
必要なもの等も把握出来たため、執行部で協議し
再度支援に行く場合には可及的万全をを期す事を
確認した。それによって予診表を作成すると共に、
避難所訪問の際の活動マニュアルも整備したの
で、資料を参照されたい。

予 診 票	
平成 23 年 3 月 26 日 上都賀歯科医師会	
氏名	生年月日 T/S/H 年 月 日
〒	
住所	道
① 今、お口（歯）の何にお困りですか？	
a. 歯が痛い b. 歯がかけた c. 歯の詰め物が取れた d. 入れ歯が壊れた	
e. 歯がしみる f. 歯肉から血が出る g. 歯肉等が腫れた	
h. その他（ ）	
② 今、お身体（全身）は健康ですか？	
はい いいえ	
③ いわゆる「持病」はありますか？	
はい いいえ	
⇒「はい」とお答えになった方	
高血圧・糖尿病・骨そしょう症・花粉症	
その他（病名）	
④ 今、飲んでいる薬はありますか？	
はい いいえ	
⇒「はい」とお答えになった方	
（薬の名前）	

- 歯科医師会 使用欄 -	
a. 相談のみ	b. 遠隔予約 c. 応急処置 d. 衛生指導 e. その他

避難所訪問 活動マニュアル

平成 23 年 3 月 26 日
於）鹿沼総合体育館避難所

歯科相談手順

- 1、予診票に記入してもらう
- 2、相談担当医はそれに基づき主訴及び現症を確認する
- 3、相談のみの場合、各先生の判断にて終了。予

診票に内容を記載

- 4、何らかの処置が必要と思われる場合は、必ず佐川会長に報告し相談の上で〔応急処置or通院手配〕を決定する

注) 判断の均一化、混雑具合等を考慮する必要から、勝手に方針決定しないこと！

- 5、患者に回答する

〔通院手配or処置コーナー・衛生士コーナーへ移動して処置〕予診票に結果を記載し終了

※予診票はカルテ的に書き込み可です。後の集計時に分かるように記載しておいて下さい。

会場配置

【相談コーナー（2カ所）、在宅器機コーナー（1カ所）、エンジン作業コーナー（2カ所）、衛生士コーナー（2ヶ所）】をテーブル6～7卓で設営する。

→エンジンは会員が持ち込む予定、配電確認すること

役割分担

- ・ 総括：佐川会長
- ・ 歯科医師：相談コーナーに2～3名、他は予診票記入補助、患者誘導しながら待機、順次交代
⇒相談コーナーで対応した先生が必要に応じて在宅・エンジンのコーナーを使用して応急処置を行う。
- ・ 衛生士：予診票配布記入補助、患者誘導をしながら、必要に応じてコーナーに移動し処置を行う。

何れにしても、アンケートの結果をもとに、3月26日（土）pm 1：00より再度避難所（鹿沼総合体育館）を訪れ、歯科相談・応急処置、義歯の調整／修理等を行ったが、当日は上都賀歯科医師会定時総会が予定されている中、多くの会員にご協力を戴き、また上都賀歯科衛生士会の方々の口腔ケア等のご支援にも心から感謝申し上げたいと思う。

その際、歯ブラシ・歯磨剤・紙コップに加え、アンケートで要望の多かった入れ歯洗浄剤等の支援物資を追加、増量し、更に入れ歯専用ケース・

歯間ブラシ・含漱剤等の少数の要望にも応えるように努めた。

上都賀歯科医師会 東日本大震災 被災者支援活動

第2回 活動報告

日時：平成23年3月26日（土）

時間：13：00～14：30

参加者：歯科医師（14名）

佐川、大貫、鈴木（定）、相馬、福島、駒橋（武）、瓦井、田辺、石崎、新島（康）、駒橋（一）、藤栄、手塚（史）、岡本、衛生士会（3+2名）
保坂、木村、高野、及び鈴木（県歯）、古林（石崎歯科）

場所：鹿沼総合体育館避難所

装備：・在宅歯科診療用機材一式（鹿沼市所有）
・技工用エンジン 2台（会員私物）
・衛生指導用品一式（衛生士会等）
・支援物資（義歯洗浄剤、義歯ケース、歯磨剤等アンケートから個々の症例により必要になると想定される物）
・活動マニュアル、予診票（別紙、新規作成）

活動内容

3月22日に行った緊急アンケートを集計したところ（別紙参照）鹿沼総合体育館、菊沢コミュニティーセンター両避難所の被災者のうち18.8%は口腔内に何らかの問題を抱えており、特に自家用車等の移動手段のない鹿沼総合体育館避難所の被災者には早急な対応が必要と判断された。

そこで今回は、前回訪問時の経験から人的、物的に応急処置対応可能な装備、体制を整え、行政との連携のもと2回目の避難所訪問を行った。

当日は栃木ブレックス（プロバスケットボールチーム）の慰問と重なり、被災者の分散も見られたが、12名からの相談があった。

症例 a. 相談のみ 2件

- (・口がネバつく→義歯洗浄剤渡す・歯が動く→歯冠ハセツ?通院希望せず)
- b. 通院手配 4件
 - (・動揺歯→EXT?・PUL→単治、要麻抜・根治途中・インレーダツリ→単治、要新製)
- c. 応急処置 6件
 - (・FCKダツリ、仮封剤ダツリ→FCK再装着、単治・PUL→単治・義歯フテキ→リベース・義歯フテキ→上顎一修理、下顎一調整
 - ・義歯フテキ→調整・Hys→PMTc(DH)、Hys処置)

尚、今回の歯科相談で治療が必要な避難者には、可及的避難所近くの歯科医院を紹介すると共にその送迎を鹿沼市保健福祉部健康課を通して、輸送支援ボランティアに担って戴き、治療を受けて貰うように配慮した。何れにせよ、不自由な避難生活の中、口腔内を健康に保ち、快適に食事が出来るように、そして集団生活でのインフルエンザ等の感染症予防の為に、少しでも物心両面から支援出来ればと願い、歯科医師会として一致団結して協力したものである。

以下、避難者支援や健康調査のアンケートの実

第3種郵便物認可

下野新聞

避難所で口腔ケア

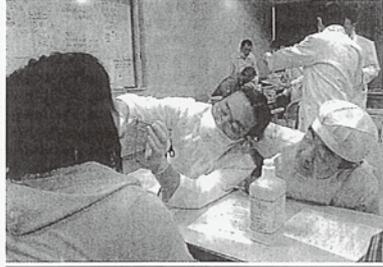
鹿沼 県境を越え 心づなをこつ

【鹿沼】福島県避難者 村から約420人が集結している鹿沼総合体育館(フオレストアリーナ)で26日、避難者の口腔ケアと激励の牛井差し入れが行われた。

口腔ケアを行ったのは、上部歯科医師会(佐川徹三会長)。22日、歯ブラシや紙コップなど支援物資を届けられた避難者の2割近くが「歯や口の中のケア」を希望する。

「激励に牛井の差し入れも」

回答したを受けた育部(倉谷悟郎部長)が同避難所を関係者と共に実地調査し、牛井差し入れも好評で、おかわり並に50名で牛井600食分を作り、同体育館と兼沢コミュニティセンターの2カ所の避難所で配った。牛井差し入れによる本格的な味付けが好評で、おかわり並に50名で牛井600食分を作り、同体育館と兼沢コミュニティセンターの2カ所の避難所で配った。牛井差し入れによる本格的な味付けが好評で、おかわり並に50名で牛井600食分を作り、同体育館と兼沢コミュニティセンターの2カ所の避難所で配った。



施に関して、下野新聞(4月5日朝刊)、日本歯科新聞(4月5日発行)、歯界報知(4月11日発行)に取り上げられたので紹介したい。

日本歯科新聞 (第3種郵便物認可)

歯などで困っている「2割

栃木上部歯科 福島からの避難者にアンケート

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

歯が痛い	10人
歯が欠けた	6人
歯の詰め物が取れた	12人
入れ歯が壊れた	8人
歯がしみる	8人
歯肉等が腫れた	6人
歯肉から出血	6人
その他	6人

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

歯ブラシ	11人
入れ歯洗浄剤	21人
歯磨剤	2人
その他	3人
歯フロス	1人
入れ歯入れ歯ケース	1人

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

歯界報知

避難所で支援激励

栃木上部歯科がアンケート調査

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

「歯や口の中のごとで困っていること」(回答者55人、複数回答可)

「必要または不足する歯科関連グッズ」(複数回答可)

また、会長に対して栃木県を通してNHKラジオ『とちぎ6時です！「すこやかダイアリー」』への出演依頼があり、3月31日に収録し4月6日に放送されたので、その要旨を記載する。

まず、冒頭で避難が長くなると、健康管理が重要になることや阪神淡路大震災以降「震災関連死」として肺炎がクローズアップされており、適切な口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に重要であることを力説した。

Q1、上都賀歯科医師会の避難者の支援はどのようなものであるか、教えて下さい。

- ①鹿沼総合体育館と菊沢コミュニティセンターに、合わせて600名弱の方々が原発事故に伴い福島県南相馬市や飯館村より避難されてきた為、会員による支援チームを編成し、口腔ケアの徹底を図るべく歯ブラシや歯磨剤等の支援物資を供給した。
- ②歯や口の中で困っている事はないか、今必要なものは何か、治療の必要性はないか等々を把握すべく、「歯及び口腔」の健康調査アンケートを実施した。
- ③相談コーナーを設けて、喫緊に困っている避難者へのフォローを行い、治療を要する場合は歯科医院を紹介、手配した。
- ④簡単な処置を行った。

↓

2度目の支援を行う前に下記について検討、留意したが菊沢コミュニティセンターに避難されている方々はほとんどが自主避難で自家用車があり、実際に通院しているという情報を得た為、訪問は行わなかった。

- ①上都賀歯科医師会全会員に支援協力要請を行った。
- ②アンケートを踏まえて、入れ歯洗浄剤、入れ歯専用ケース、含漱剤等の支援物資の補充を行った。また、相談コーナーを始め、在宅器械、エンジン作業、衛生指導各コーナーを設置、ある程度のフォローが出来る体制をとった。

③避難所訪問活動マニュアルを作成し、作業の円滑化、均一化を図った。

④予診表を作成し、最終的に a、相談のみ b、通院手配 c、応急処置 d、衛生指導及PMTCを行った。

Q2、ニーズ調査ということですが、避難者の方はどのような支援を必要としていましたか？

- ①歯が痛い→インレー脱離、根管治療途中、抜歯が必要etc
- ②歯がしみる→歯周病、知覚過敏
- ③義歯関係→破折、ゆるい、慌てて避難してしまった為下顎義歯を紛失etc
- ④歯ぐきが腫れた、口がネバネバetc

実際には治療を要する人は一部かもしれないが、中には遠慮や我慢をされている方も見受けられ、不自由で精神的にもきつい状況、しかも集団生活である事を考えると、一人ひとりが口腔ケアをしっかりとやることを推奨した。

また、物資的には、高齢者が多い事から、思いのほか入れ歯洗浄剤や専用ケースが必要である事を再確認した。尚、前々年の新型インフルエンザ対策の一環からか、手指の消毒液は各所に設置されていたが、含漱剤等の不足を痛感した。

Q3、実際に避難者の方に接してみて、どのような印象を持ちましたか？

地震による家屋等の崩壊、原発問題等が根底にあり尚且つ集団で避難を余儀なくされ、また長期化すると精神的にもダメージが大きくなると思う。食事等は生活の基本であり、せめて「食べる」事に苦痛を感じないよう、少しでも歯科的問題は解決して行きたい。

Q4、避難所での生活という事で、歯科保健分野では特にどのような事が問題となるでしょうか？

①まず、食事が制限されたり、栄養が偏ったりという問題があり、実際にも差し入

れは十分にあるようだが、パン、おにぎり、カップラーメン等の炭水化物が多いようだ。

ビタミン不足は口内炎等を引き起こしやすい。

- ②歯磨きや義歯の手入れ等、普段通りのケアが出来ない問題もある。
- ③乾燥などの環境変化による影響や、避難生活による免疫力の低下等も問題である。一人ひとりが自分の健康を守る、規則正しい生活のリズムを作るという観点からも、またインフルエンザ等の感染症対策からも、ブラッシング等の口腔ケアは必要！

Q5、避難所の生活は制約も多いでしょうが、歯や口のケアに関して、自分で出来る事を教えてください。

- ①もし仮に歯ブラシがなかったり、何らかの事情でブラッシングが困難な場合は、ガーゼ等を指に巻き付けて拭くのも有効。
- ②唾液腺マッサージ、口と顔の体操、舌体操も有効。
- ③どうしても避難所は乾燥しやすい為、免疫力も低下する事が考えられ、水分補給やうがいをごまめに行う事を推奨。
- ④状況からして難しいかもしれないが、話しをしたり、笑う事も免疫力アップに効果的。

Q6、子供やお年寄りなど、自分でケアするのが難しい人に対してはどうしたらよいでしょうか？

口腔ケア＝ブラッシングだけではなく、注意したり、世話をしたり、手入れや介護をする事も含まれており、周囲の人の助け合いが必要では。

Q7、口腔ケアは歯磨きや入れ歯の手入れという事だけではなく、噛むことや飲み込むこと、全身の健康への影響等、健康管理の上で大切な事なのですね。まとめをお願いします。

- ①ケアとは辞書によると、世話、注意、介



護、手入れ、配慮とある。つまり口腔ケアとは口腔衛生改善の為のケア、口腔清掃を指す。しかし最近ではもう少し範囲を広げて、歯石の除去、義歯の手入れ、簡単な治療まで含まれる。更には摂食・咀嚼・嚥下訓練まで含まれる場合もある。

- ②言い換えれば、口腔ケアとは口腔清掃、歯石の除去、義歯の調整・修理・手入れ、また簡単な治療等により、口腔の疾病予防・機能回復・健康の保持増進、更にはQOLの向上を目指した技術である。

〈まとめとして口腔ケアの目的は〉

- i、誤嚥性肺炎の予防
- ii、インフルエンザ等の感染症の予防
- iii、口腔疾患の予防
- iv、全歯疾患の予防
- v、QOLの向上

鹿沼歯科医師会 専務理事 田代 高志：記
会長 佐川 徹三：補筆

上都賀総合病院歯科口腔外科について

平成21年より、栃木県主導の県西地域医療再生コンソーシアム等によって、県西地域の今後の医療をどう再構築するかが論議されてきた。そのメインとなる上都賀総合病院の建て替えは、それに伴う2次救急や災害時対応、或いは総合病院のみならず市民病院としての機能の充実、近隣地域への休日急患診療所の移転など、県西医療圏とりわけ鹿沼市にとっては真に中核となるものであり、更なる充実、強化を図るべく独協医科大学口腔外科 講座・今井教授より一つの提言がなされた。

それは上都賀総合病院に独協医科大学口腔外科の分室という形で医局員を常駐させることである。

- 1、原則、入院患者限定の口腔ケアを行う。(有病者のみ)
- 2、入院患者の救急処置を行う。ただし、口腔外科的に重篤化が予想され処置困難な場合は責任を持って独協に搬送する。
- 3、上都賀歯科医師会会員の外科的術後の治癒遅延、或いは困難な場合は紹介状により対応する。
- 4、会員の依頼により、小手術(埋伏智歯抜歯、小帯整形 etc.)が実施可能な場合はそれを行う。
- 5、原則として、入院患者・紹介状のある患者以外の初診は受け付けない。
- 6、口腔ケア、外科的対応以外のいわゆる一般診療は行わない。
- 7、入院患者の口腔ケア等を通じて、一般診療が必要と認めた場合には、原則としてかかりつけ歯科医院に情報提供と共に依頼をし、患者やその家族に治療を勧める。
- 8、日曜祝祭日を除き、医局員を常駐させる。尚、当初常駐1名とする。

以上の事が実現可能かどうか、双方が互いに検討し、更には上都賀総合病院 十川病院長を加えて懇談することとなり、将来展望を鑑みると決して無意義なことではなく十分に議論していくこととなった。

その後、2回の懇談会を開催し、平成24年開設に向けてある程度の方向性を見出すことができた。懇談の中、十川病院長より「地域がん診療拠点病院」としての上都賀総合病院に於いて周術期口腔ケアを含んだ入院患者の口腔ケアは重要性を増しており、誤嚥性肺炎の予防の観点からも歯科口腔外科開設を要望する旨の話があった。

- A) 名称は上都賀総合病院歯科口腔外科とする。
- B) 常駐歯科医師を上都賀歯科医師会の準会員とし、会の例会や研修会、行事等に可及的に参加を要請する。
- C) 外来初診は原則的に受け付けないが、緊急時のみ診療時間内に限り対応可とする。
- D) 会員が入院患者の要望により義歯の調整等、往診治療の要請があった場合でも分室の使用は不可とする。責任の所在を明確にする為にも従来通り病室で行う。
- E) 今後、三者の良好な関係を維持すべく、最低年に一度の懇談会を開催する。

以上のことを確認した中で、平成24年4月2日（月）に、上都賀総合病院歯科口腔外科が開設開院された。それに先立ち赴任した泉さや香先生と4月6日（金）鹿沼市総合福祉センターにおいて、歯科医師会執行部との相談会という形で面談し、今後の交流について意見交換を行った。4月9日（月）には診療情報提供書（紹介状）60冊〔1冊50頁〕が、上都賀総合病院事務局より届き、1診療所1冊を原則として、上都賀歯科医師会会員に配布を行った。

今後の課題としては次のことが考えられるが、その都度、三者が連絡連携を密にして順次対応することとなった。

- 1、情報提供書を媒介としてスムーズな連携が図られるように、相互が周知徹底の努力をする。そのための窓口をどうするか？
- 2、仮称〈鹿沼歯科医師会&上都賀総合病院歯科口腔外科懇談会〉を早急に立ち上げて年1～2度の開催を継続的なものとして構築する。懇談会には可及的に独協医科大学口腔外科学講座教授にも加わっていただく。
- 3、赴任されたドクターには上都賀歯科医師会準会員になって戴き、会の情報の共有を図る。

※会員の資格や会費等に関しては、上都賀郡市医師会、佐野歯科医師会、自治医科大学、独協医科大学の例を参考にし、今井教授の要望により、十川病院長と協議の上、個人会員ではなく歯科口腔外科医局員(独協からの派遣医師)として鹿沼歯科医師会のみ会の会員、即ち準会員とする。

この地区独自のしかも効率的な配慮の元、入会金は徴収せず年会費もリーズナブルなものとする。会の研修会・行事等、会員とほぼ同様の資格を持つが、視察研修等では他の会員との公平感を保つため相当の受益者負担を求めることとする。

尚、準会員となられた泉先生は会の例会や研修会、歯科医師会視察研修にも積極的に参加され会員との親睦を十分に図られている。また下記研修会には上都賀総合病院 十川康弘 病院長と共にオブザーバーとして参加された。

記

☆学術・調査合同学術研修会(平成24年7月1日)

テーマ) 上都賀総合病院 歯科口腔外科 開設記念

- 1) 病診連携の意義と将来展望
- 2) 医療安全管理について

～医療事故防止と医療事故発生時の対応を中心に～

講師) 独協医科大学 口腔外科学講座

今井 裕 主任教授

また、下記研修会に於いては講師を務められる等ご活躍されており、口腔外科医としては勿論のこと、今後益々重要性を増してくるものと思われる病診連携やがん医科歯科連携事業の先導者としても期待されている。

記

☆臨床研修会〔調査委員会担当〕（平成25年2月13日）

テーマ) 誤嚥性肺炎の予防に必要な歯科的アプローチ

講 師) 上都賀総合病院 リウマチ膠原病内科部長 花岡亮輔 先生

上都賀総合病院 歯科口腔外科部長 泉さや香 先生

何れにせよ、上都賀総合病院歯科口腔外科が開設されてもうじき3年になるが、会員にも患者にとっても近距離圏の、文字通り身近な歯科口腔外科として、歯科医師会会員の情報提供(紹介状)は多岐にわたり、かつ相当数の紹介がなされてきたという経緯がある。今後もその良好な関係並びに連携を維持していきたいと考えている。

《平成27年3月現在の状況》

平成26年3月31日をもって、今井教授が退任し特任教授になられた。

その後、平成26年7月12日(土)には、宇都宮グランドホテルに於いて退任祝賀会が開催され平成26年7月27日(日)に教授退任を記念して鹿沼市総合福祉センターに於いて、学術・企画広報委員会合同研修会「口腔外科の最新情報と医療安全における注意すべき問題点について」を医療安全講習会を兼ねて行った。

平成26年4月1日より 独協医科大学医学部 口腔外科学講座 主任教授に川俣均先生が就任された。それに伴い上都賀総合病院歯科口腔外科の継続性と有効性を確認すべく、十川病院長にお願いし、平成26年9月1日(月)に川俣教授、十川病院長、佐川会長、泉先生四者による懇談会を開催した。

泉先生は平成27年3月末日で独協本院に戻られるが、交代し新しく赴任される先生にも今まで同様の緊密な関係を維持すると共に準会員として活動されることを確認した。同時に最初の取り決めにもあるように入会金は徴収しないこととしたい。また、着任後可及的速やかに、相談会を開催し、当会の事業を紹介、ならびに申し合わせ事項を確認、そして何よりも親睦を図るべく、我々執行部との懇談会を開催していきたいし、その際には勿論言うまでもなく独協医科大学口腔外科 川俣教授並びに上都賀総合病院 十川病院長にも同席して戴きたいと考えている。

鹿沼歯科医師会 副会長 福 隆 夫：記

法人化（総論）について

法人化の経緯説明の前に、簡単に会の歴史を振り返ってみたい。

上都賀歯科医師会は大正14年発足の長い歴史があり、当初は上都賀郡即ち現日光市も包含した形の中で歯科医師会活動も行われていたようだ。詳細に関しては、創立85周年記念誌を参照して戴きたいが、親睦を中心に相互扶助と研修(勉強会)が行われており、しかも会場は持ち回り制という現代では考えられないような大らかさがあったらしい。

その後、会としての熟成度が年々増していき、対外的な事業や市民・町民に対して歯科の立場から健康保持増進を図るべく、その一翼を担っており、行政からの委託という事業も増大していった事は、想像に難くない。

昭和30年に会の一大転機即ち会の分離があった訳だが、当時鹿沼地区は鹿沼市・栗野町・西方村の一市一町一村、日光地区は今市市・日光市・足尾町・藤原町・栗山村の二市二町一村という行政区画を有し、余りにも広範囲な対応を迫られており、きめ細かな対処には困難さを伴っていて、同時に保健所の地域単位という考え方へと変遷した事を踏まえ、当時の諸先生方の大所高所の決断のもと、今市歯科医師会(現日光歯科医師会)が分離し、鹿沼地区はそのまま上都賀歯科医師会として活動してきたという経緯がある。

尚平成18年になって、栃木県歯科医師会より、県歯100周年記念誌に対する支部担当分の資料提出並びに原稿執筆依頼があり、それを機に上都賀歯科医師会史を作ろうという事で、編纂委員会を立ち上げ、足掛け6年に渡る悪戦苦闘の日々が続く事となった。まずは、取り組むべき姿勢として、次の三点に留意した。一つ目は大先輩の先生方や奥様のお宅に訪問して、どのような内容の事でもいいから聞き取り調査をすること、二つ目は会にある資料やお借り出来るものをなるべく多く収集すること、そして三つ目は県歯の「栃歯会報」を初期のものから全て借りて、上都賀関係のものを可及的に拾い出すことであり、その膨大な資料の分類と分析に多くの時間を費やすこととなったのである。

関係各位の尽力により、平成23年3月31日に上都賀歯科医師会史「創立85周年記念」を発刊する事が出来、同年7月1日(金)には福田屋鹿沼店3Fコンベンションホールにおいて、出版記念祝賀会を開催したのは記憶に新しい。

即ち、本来ならば「上都賀歯科医師会」という呼称は永く親しまれてきたという経緯もあり、また医師会は現在でも鹿沼市と日光市を包含した形での上都賀郡市医師会として活動している関係から、そのままの名称で推移してもよいのではないかと逡巡もしたが、標記の法人化の事と栗野町が平成18年1月に鹿沼市に編入合併、また西方町が平成23年10月に栃木市に編入合併された事から、対外的により存在を明確に特化すべく、平成25年4月1日より「一般社団法人 鹿沼歯科医師会」として、新たなスタートを切ったものである。

閑話休題、平成20年当時において、ご存知の通り日本歯科医師会、栃木県歯科医師会は既に法人として活動していた訳だが、県内の支部歯科医師会においては、宇都宮市並びに小山を除く9支部歯科医師会は、法人格を取得しておらず、任意の団体であり、正式

には栃木県歯科医師会の支部という形態であった事は論を俟たない。何れにせよ平成20年12月に施行された国の公益法人制度改革関係3法の発布に伴い、栃木県歯科医師会は移行期限の平成25年11月末迄には公益か一般の何れかを選択し、申請しなくてはならなくなったのである。

尚、何故この改革が必要かと言えば、公益を名乗る一部の組織が、その立場を利用し利益を図る団体が出現、公益性の判断基準が不明確であったという指摘に端を発したようだ。また、この改革によって「民間非営利活動」が社会に活力や安定をもたらし、将来に渡って活力ある社会にしていく為には必要と判断されたものらしい。

栃木県歯科医師会としては上記の事を踏まえ、公益か一般かの選択、かつ三層構造の維持を主たる目的に、県歯役員・郡市歯科医師会会長・代議員の3者構成によって、法人改革検討委員会を立ち上げ検討する事となった。

第1回は平成21年10月29日に開催され、以下の事について検討した。

(委員長 小林宇都宮市歯科医師会会長、副委員長 佐川上都賀々会長)

検討事項

1. 移行を目指す法人形態の仮選択（公益社団法人または一般社団法人）
2. 移行期間（平成20年12月1日～平成25年11月30日 5年間）
移行時期： 可及的平成23年末迄には決定
3. 定款、その他関係規則の検討
4. 役員選挙の見直し（会長、監事選挙方法及び理事の選出方法）
5. 社員総会の位置づけ（総会・代議員会）
6. 役員の任期（3年から2年に変更済み）
7. 事業及び会計基準
 - ①事業の区分(公益事業・共済事業・収益事業)
 - ②収支相償及び法人会計基準
8. 遊休財産の取り扱いと事業比率(公益事業比率50%以上)
9. 県歯共済部の今後のあり方について
10. 支部組織のあり方について（一般社団法人化、会計基準の導入、支部間の統合など）
11. 日歯・他県の動向について
12. その他必要事項の検討

尚、この法人改革検討委員会は都合3回開催され、栃木県歯科医師会も一般社団法人移行認可申請を行う事となり、また第3回検討委員会において、郡市歯科医師会も任意団体から一般社団法人への移行を確認した為、平成23年6月9日より、法人改革委員会へと名称変更を含めて継続し対処する事となった。従って、これより先は県歯も含めて法人の為の必須要件及び適正な運用について、足並みを揃えて検討する事となったのである。

上都賀歯科医師会においては、期限も決められており、県歯や他の歯科医師会とも歩調を併せるべく、というよりは寧ろ他に先駆けて平成22年11月開催の定例役員会において、法人化に向けての検討委員会（委員＝佐川、大貫、田代、鈴木裕、畑、鈴木定、瓦井）

を早急に設立し対応する事が承認され、第1回を平成22年12月20日に開催し、先ずは下記について検討した。（補足ではあるが第5回より福嶋副会長も検討委員に加わる事となった）

記

☆法人化にあたり検討すべき事項

1. 特別会計等の財産の処分、適正化→現有財産の処理(スリム化)
2. 定款の見直し（上都賀歯科医師会規則・規程の改正）→法人に則したもののへ
3. 法人化に関する総会での承認
4. H21、H22年度分会計を法人会計基準に則って処理→新会計基準の導入

この検討事項に対応すべく、顧問税理士の選定、共済制度の導入検討、連盟設立の検討、事務処理の法人への適応等も併せて思量吟味する事となった。

この中でも、最も熟慮を要したのが現有財産の処理についてであり、計10回程度委員会の中で検討を重ねたが、会運営に必要な年間予算の2年分を留保し、全ての会員にとって、可及的公平感が得られるように配慮されたものと自負している。尚、この会員に対しての分配金は平成23年9月30日迄に全て完了した事を付記しておきたい。

また、定款の見直しに関しては検討委員会のその殆どを費やし、法人申請直前で計27回を数える事となった。その後も細部の規則や規程について検討を重ね見直しを常に行っている為、平成27年3月時点で39回の委員会（平成25年4月23日開催の委員会より、法人検討委員会に名称変更）を開催している。

尚、法人化に対しては、定款の為の規定・規則・規程の検討、日歯や県歯との整合性、登記の問題等多くの難問を抱えている為、平成24年2月17日開催の第14回検討委員会より、オブザーバーとして司法書士の佐伯全弘先生にも臨席戴いている。詳細については法人化(各論)を参照されたい。

ここで、非営利型一般社団法人選択の意義（主に社会的影響）と認定・監督について確認しておきたいと思う。

1. 国民の目線は、公益事業を通じ公益的な法人としての認識が広まる可能性がある。
2. 国県市町の委託事業は、他に公益法人がなければ委託される。
3. 認定委員会の定款審査における主たる事業は、収益事業ではないこと。
4. 認定委員会の審査内容は、一般社団法人法に必要条項を備えているかで判定される。
5. 監督官庁は公益目的支出計画が完了するまで、文書学事課で監督される。
6. 認可の条件として、①公益目的支出計画は提出しなければならない。

②公益事業50%比率の達成は、必ずしも達成しなくてよい。

③会計基準は公益法人会計に則り、貸借対照表、損益計算書等事業報告並びに付属明細書、財産目録

7. 会員の会費等の取り扱いに関しては、①入会金は譲渡出来ない為、本来5年で償却繰延資産に該当する。②会費の内、研修費、広報活動費、通常の業務運営の分担金は必要経費として処理する。③会費の内、懇親会費用は使われた時点で交際費として計上する。

8. 定款条文の前提条件として、余剰金の分配、解散時の分配は出来ない。

9. 税金の比較としては、国税・地方税共に、法人税率の優位性があり、収益事業の所得のみ法人税が課税される。

何れにせよ、法人化検討委員会（現在は法人検討委員会）では、毎回議論に議論を重ね、佐伯司法書士からも的確なアドバイスを得て、定款等の見直し、というよりも法人に則した形で検討しなければならず、ほとんどが新たに策定したといっても過言ではない。その要旨は下記の通りであり、内容の委細については「定款等諸規則集」を参照して戴きたい。

☆一般社団法人 鹿沼歯科医師会 定款等諸規則集

1. 定款

2. 規則

①役員選挙規則 ②委員会規則 ③入会規則 ④終身会員規則 ⑤会費等規則

⑥準会員規則 ⑦常務理事会規則 ⑧役員報酬等規則

3. 規程

①役員選挙規程 ②委員会規程 ③旅費会議費規程 ④慶弔見舞金規程

4. 鹿沼歯科医師連盟 規約

5. 鹿沼地区歯科医師警察連絡会 会則

また、法人化に向けての手続きや流れについては次の通りとなっている。

H24.11.28 臨時総会開催 設立当初の役員の承認（代表理事 佐川徹三）

また、役員の任期をH25.6 開催予定の総会までとする承認

法人設立前の上都賀歯科医師会会員の法人化以降の身分保障

12.10 一般社団法人 鹿沼歯科医師会設立の為、定款を作成し設立時

社員 8 名が記名押印

* 設立時社員

佐川徹三、大貫真裕、福嶋隆夫、田代高志、鈴木裕之

畑健一、鈴木定幸、瓦井昭二

H25. 2. 1 公証役場において定款の認証

2.15 会長予備選挙実施

2.28 立候補締切

3.23 上都賀歯科医師会定時総会開催

3.25 関係機関への名称変更の挨拶状送付

4. 1 法務局に法人登記完了

5.24 上都賀歯科医師会解散式及び財産の移譲完了

6.11 鹿沼歯科医師会定時総会開催

鹿沼歯科医師会 会長 佐川 徹三：記

法人化（各論）について

【1】法人設立までの歩み

大正14年4月19日に上都賀郡歯科医師会として発足以来87年12ヶ月の歴史を刻んだ上都賀歯科医師会は、平成25年4月1日をもって一般社団法人鹿沼歯科医師会へと生まれ変わった。法律的には、任意団体であった上都賀歯科医師会は解散し新たに一般社団法人を立ち上げるという形式となったが、諸先輩が築き上げた伝統と精神を純然と引き継ぐ団体であることは言うまでも無い。この稿では、その法人化までの道程について述べたい。

〔1〕法人化の必然性

平成12年12月に閣議決定された「行政改革大綱」にはじまり、その後を受けた小泉純一郎総理による「聖域なき構造改革」の一環として公益法人制度改革が行われた。この制度改革の目的は、民間非営利部門をして日本の社会システムの中でその健全な発展を促進させるために明治29年の民法で定められていた公益法人制度を抜本的に見直すこと、すなわち寄付金税制の抜本的改革を含めて「民間が担う公共」を支えるための税制の構築を目指すものであり、法人税制の改革と同時に進められた。この改革は平成18年5月の通常国会において「公益法人制度改革関連3法案」が成立、平成20年12月から施行され新制度に移行したわけだが、これに伴い日本歯科医師会も新制度に基づく法人への移行が求められた。それは、いわゆる日歯・県歯・郡市歯による「三層構造」の下部組織である栃木県歯科医師会、そして上都賀歯科医師会にも改革を求めるものであった。

ここで、いわゆる「公益法人」について復習してみたい。

- 1) 明治29年に制定された民法においては「社団法人」と「財団法人」の二種類をもって公益法人といった。これ以外の各種の特別法に基づき設立された「医療法人」「社会福祉法人」「宗教法人」等は広義の公益法人とされ、この民法上の公益法人改革には含まれない。そして平成20年12月1日の公益法人制度改革3法施行以降は「公益社団法人」「公益財団法人」「一般社団法人」「一般財団法人」の四種類となった。ただし、施行から5年間は移行期間とされ特例民法法人として従前の扱いが継続されたので、新法人への移行への最終期限は平成25年11月30日までとなっていた。
- 2) 従来の公益法人と新制度での公益法人の違いは、従来は主務官庁による許可制であったが、新制度では公益法人認定法に定める23種の事業であって不特定多数の者の利益の増進に寄与するものを内閣総理大臣又は都道府県知事が認定するものとなった。認定の条件はいくつかあるが、公益目的事業の費用の比率を50%以上（ちなみに、公益法人認定法第5条第6項及び第14条の定めから「赤字事業でなければ認定されない」という説が一時流布されたが、この認識は誤りであり、経常収益－経常費用が黒字であっても認定の支障とはならない）、理事や社員から雇用される者に至るすべての関係者に特別の利益を与えないことなどがあげられた。
- 3) 公益法人と一般法人の違いについては、準則主義に従い法令の要件を満たし登記に

より法人格を取得した一般法人（一般社団法人・一般財団法人）と公益法人（公益社団法人・公益財団法人）は法人格としては同一である。2）で述べたように、一般法人のうち認定要件を満たし認定申請し行政庁により認定された法人が公益法人となる。

4）税制に関しては、従前の公益法人は単純な収益事業課税であったが、新制度では公益目的事業として認定された事業は収益事業から除外される。寄付については、法人内部での「みなし寄付」が従前の上限は収益事業の20%までであったものが100%まで可能となった。また、新制度においては公益認定を受けたものはすべて自動的に特定公益増進法人となるため、公益目的事業に対して行う寄付について個人は所得控除、法人は法人税に関し一般の寄付金とは別枠で損金算入することができるようになった。これに対し、一般法人については、法人税法上の「非営利型法人」の要件を満たす法人は収益事業課税、それ以外の法人は全所得課税とされ、公益法人に認められる「みなし寄付」は認められず、寄付を行う個人や法人への税の優遇措置もない。また、公益法人には所得税や都道府県民税の源泉徴収はないが、一般法人については非営利型であっても源泉徴収の対象となる。

このような流れのなか、平成22年段階で、日本歯科医師会は公益社団法人を目指す方針が示されていたが、栃木県歯科医師会においては公益認定を受けるか否かの判断はまだ検討中であった（後に県歯は一般社団法人を選択。我々も一般社団法人を目指すこととした）。しかし、公益・一般いずれの法人にせよ、三層構造の一部である県歯と郡市歯の関係において、我々郡市歯科医師会が任意団体のままでは、県歯の会計処理に税法上の問題が生じる可能性が指摘され、県歯と連結決算をしなければならない可能性等、郡市歯の独立性が損なわれる恐れが予想された。そこで、各郡市歯科医師会（既に法人であった宇都宮市・小山を除く）は法人を設立する必要に迫られたのである。

〔2〕法人化検討小委員会の設立

上都賀歯科医師会の法人化を検討するため、平成22年11月1日付にて会長以下庶務理事までの7名と瓦井県歯常務理事の8名にて法人化検討小委員会を発足させた。

同年12月20日の初会合では、佐川会長より法人化にあたり検討すべき事項として

①「法人化」への会員の合意形成（総会での承認） ②現有財産の処理 ③定款の見直し ④法人規準での会計処理への対応が示された。個々の課題について、①については、法人化は時代の趨勢であり、ある程度形が見えた段階で会員に説明すれば理解は得られるものと考えられる。④は専門家（税理士）に相談しなければ我々では解決出来ない部分であることから、委員会にてまず我々が検討すべき課題は②、③であることを確認した。

〔3〕法人化への議論

1) 法人化の承認

平成23年3月26日の上都賀歯科医師会定時総会にて法人化の承認を得た。これにより本格的に法人化への議論がスタートした。

2) 現有財産の処理

法人設立にあたり、まず現有財産の移行についてが問題となった。当時、公益性の認められない財産は国庫に収納されてしまう恐れがあるといった考えが流布していたのである。（旧法法人から新法法人への移行と新法人設立の混同、特例民法法人における公益目的財産額の公益目的支出計画への不理解によるものと考えられる）

そこで「特別会計」として貯えた多額の現金資産の扱いについての議論が行われた。他郡市では上記の考えのもと、すべての「特別会計」を会員に分配したところもあったようだが、当会としては（当時の考えで）認められうる最大限の金額と思われた年間予算2年分程度を新法人の資産として移行することとし、残る2年半分を会員に分配することとした。また、入会金に関しても周辺他郡市の動向から現行の「個人100万・診療所100万」から「個人50万・診療所50万」に変更することとした。

これらを踏まえ、余剰金の分配方法について如何に公平に分配するか、どのような方法が最も公平と言えるのか、論議の結果選択した方法は以下のものである。

— 余剰金分配方法 —（総会資料より、尚、具体的金額は割愛した）

〔試算条件〕

本案は①分配すべき金額を〇〇万円 ②すべての計算の基準日を平成23年4月1日
③分配対象は基準日に在籍する現会員 として試算したものである。

〔分配方法〕

分配に際し、3つのステップをもって算定する。以下、具体的方法を記す。

ステップ1 「過払い金の返却」

〔論 旨〕

法人化後の入会金を〈個人50万・診療所50万〉にするのなら〈個人100万・診療所100万〉を支払った者の不公平を解消する為〈50万・50万〉を超える分を過払い金として返金する

〔解 説〕

初めに、現在、当上都賀歯科医師会では新規に入会する者に対し〈診療所入会金100万円・個人入会金100万円〉を徴収している。（但し、会員の継嗣一名が同一診療所に勤務する場合は入会金免除…等の規程あり）しかし、法人化にあたりこの入会金も「社会通念上妥当な金額」であることが求められる。そこで当委員会では宇都宮等周辺の歯科医師会を参考に、法人化後の入会金を〈個人50万円・診療所50万円〉と改定する方向で検討を進めている。

さて、別表のように〈診療所・個人〉の二本立て入会金となったのはS57年以降である。また、現行の〈100万・100万〉となったのはS61年以降である。

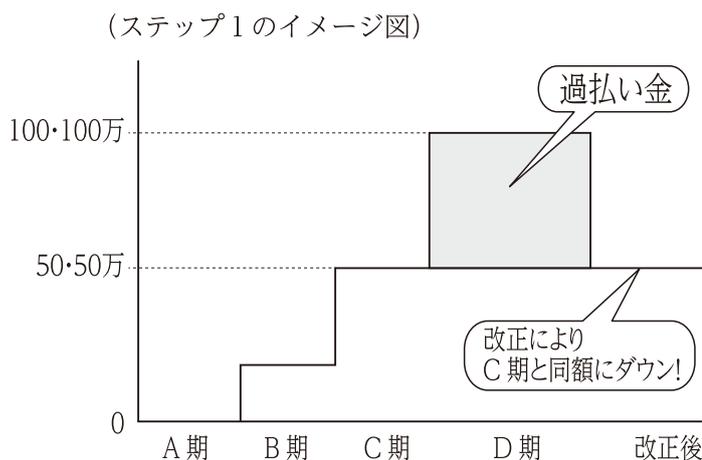
つまり現在同じ会員資格を得る為に入会時期により{A期〈費用負担なし〉10名、B期〈少額負担〉4名、C期〈50万・50万〉15名、D期〈100万・100万〉29名}（但し、実際支払った人数と異なる）と4種類の条件による会員が混在している状態である。もし、法人化以降の入会金を〈50万・50万〉即ちC期と同一まで減額とするのであれば、D期〈100万・100万〉に入会した者、特に実際お金を支払った23名（診療所・個人一方のみ100万の者5名含む）の会員（現会員の39.6%）には割高感、不平等感が発生すると考えられる。しかも十分な原資がある現状でこの不合理を看過することは適

切とは言えないだろう。

そこで法人化以降の入会金を〈50万・50万=C期と同一〉に改定するのならば〈100万・100万=D期〉を支払った者は「(入会金を) 過払いである」と解釈し、D期状態を解消すべく改定後の入会金〈50万・50万〉を超える金額を返金する事により入会条件の統一を図ることは合理的であり異論はないものと考えられる。

この「過払い金の返却」によりC期・D期・改定後が均一化され、S57以降の入会者44名、実に現会員の75.8%が同一条件で会員資格を得た事となり「公平感」は最大と考えられる。また、以降の入会者の増加によりこの比率は高まって行くので、全会員が同一条件となる日が早まることも利点である。

⇒イメージ図右記



ステップ2「余剰金の分配」

〔論 旨〕

余剰金の分配は会への功労を加味し慰労金として在籍年数比例で分配する

〔解 説〕

「過払い金の返却」は会員資格の公平性を推進する必要経費であり、真に分配すべき余剰金は「 $¥○○万 - ¥△△万 = ¥□□万円$ 」である。

この金額(¥□□万)を単純に会員(57名)に分配するのであれば1人あたり約¥▽▽万円となるが、67年余会員であった者と1年に過ぎない者が同一と言うのは「会への貢献度」の観点から「不平等」と言わざるを得ない。会として築いた財産である以上、やはり「会への貢献度」を考慮したいわば「慰労金」として分配する方が正当であろう。しかし「会への貢献度」を客観的かつ公平に数値化することは不可能であり、便宜的に「在籍期間をもって貢献度とする」ことは皆が承認し得る評価法ではないだろうか。

そこで「(余剰金) ÷ (全会員の在籍期間 [月数] の和) = (1ヶ月当たりの慰労金)」を算出し、「(1ヶ月当たりの慰労金) × (在籍月数)」をもって個々の「貢献度に見合った慰労金の金額」とすることを提案したい。

ただし、藹藹会会員(満70歳で迎える最初の4月1日に入会)に関しては、すでに現在、毎年36万円の祝い金(慰労金)を贈呈しており、慰労金が重複することになるので、藹藹会入会前の3月末日までを今回の分配の対象期間とする。

〔計算式〕 $¥□□万円(余剰金) ÷ 16327ヶ月(全会員の在籍月数の和)$
 $≒ ¥◇◇円$

よって、小数点以下を四捨五入し1ヶ月当たりの慰労金を¥◇◇円とする
 例) 上都賀 太郎 (昭和51年6月入会) の場合
 基準日までの在籍期間34年10ヶ月=418ヶ月なので

$$\text{¥◇◇円} \times 418\text{ヶ月} = \text{¥〇▽◇}$$
 よって、慰労金分配額は ¥〇▽◇円となる。
 このステップ2に要する費用は 合計¥△〇□円 である。

ステップ3 「分配金の確定」

このステップ1、ステップ2で算出された金額の合計を個々の会員に対する最終的分配金とする。

よって、分配金の総合計は ¥〇〇〇〇円 となる。

この案は平成23年7月22日の臨時総会にて承認され、同年9月に分配を実施した。

3) 定款の作成

法人登記とはすなわち「法人の定款の登記」のことであり、その内容は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の定めを踏まえたものでなくてはならない。委員会では栃木県歯科医師会の定款を基本とし、上都賀歯科医師会規程との整合性をとりつつ新時代にふさわしい内容とするために議論を重ねた。そして定款と並行して、上都賀歯科医師会規程に記載されていた内容で定款に載せるにはふさわしくない点や、いままで慣例として明文化されていなかった点を規則・規程として纏める作業を行った。この過程で、我々だけの論議では法的問題に正解を見出すことが難しいことから平成24年2月より佐伯全弘司法書士をオブザーバーに迎え（後に顧問司法書士となっていた）作業に法的観点からご意見を頂きながら諸条文を作成した。また、平成23年10月1日より西方町が栃木市と合併したことにより上都賀郡は鹿沼市1市のみとなったことを受け、法人化を機に名称を「鹿沼歯科医師会」と改めることとした。

定款内容の方向性が決まり、次に定款に記載する設立時社員（法的には定款を作成した者）をどうするかという問題に関しては、法人の理事と設立時社員の違いについて説明し、法人化検討小委員会の委員8名を設立時社員とすることを平成24年3月24日の定時総会にて承認を受けた。また、平成25年4月1日付で法人設立するとした場合、定款では「法人の定時総会は6月に開催」することとしており、任意団体上都賀歯科医師会の役員任期は平成25年3月31日までであったことから、4月1日からの6月定時総会までの役員を決める必要が生じた。そこで法人の役員について「上都賀歯科医師会の現役員の任期を平成26年6月に行われる一般社団法人鹿沼歯科医師会定時総会まで延長し、4月1日設立の法人役員とする」ものとし、それを付則に記載した定款（最終案）は平成24年11月28日の臨時総会にて承認された。

4) 新会計基準への対応

任意団体であった上都賀歯科医師会では単式簿記にて会計処理をおこなってきたが、法人となると複式簿記での会計が必要となる。また、本会は「校医手当プール制」

という独自の会費制度をとっており、この制度が法人化後も適用できるのか、或いはなんらか見直しが必要なのかも検討しなければならない。これらはとても素人に解決できる問題ではなく、専門家に依頼するしか方法はない。そこでプール制導入以来の流れをご存知の顧問税理士安納攸昌先生に相談すべきであるが、当時体調を崩しており、ご子息の弘昌先生に顧問をお願いする運びとなった。ここで ①プール制の会計処理 ②県歯の会計とは必ずしも一致しないであろう上都賀に適した勘定科目の仕訳 ③分配金の取り扱い（雑収入か一時所得か）④当會会計担当者が作成するのは技術的に単式簿記が限界であり、その資料を基に複式簿記を作成してもらえるか等を相談した。また、県歯は経理ソフトにJDL社製を採用したことから当會もJDLを採用することとした。そして安納先生の協力のもと、試験的に平成23年度及び平成24年度の会計報告は従来の単式簿記によるものと併せて参考用に複式簿記によるものを作成し会員に提示した。

【2】法人設立後の動き

こうして平成25年4月1日に一般社団法人鹿沼歯科医師会は設立されたわけだが、この時点ではまだ不十分な点が多々あり、体制を整えるべく活動を行った。

〔1〕上都賀歯科医師会解散式

平成25年4月1日付で法人は設立されたが、法的には「新法人の設立」であり任意団体からの移行ではない。よって平成25年5月24日に上都賀歯科医師会として、臨時総会の形式により解散の決議をとり、ここに任意団体としての上都賀歯科医師会の解散を宣した。

〔2〕役員選挙

前述のように法人設立時の役員は上都賀歯科医師会の役員任期を6月定時総会まで延長することで対応した訳だが、初めての定時総会となる平成25年6月11日には定款に則った方法にて新しい役員を決めなければならない。但しこの時点では役員選挙規則・役員選挙規程も総会の承認を得ていない状態であった。しかし既に委員会案として上都賀歯科医師会役員会では役員選挙規則・規程案は承認されており、これに基づいて平成25年3月23日の上都賀歯科医師会定時総会時に「会長予備選挙」を行い佐川徹三氏を次期会長に推薦することを決めていた。また同日、来る6月の法人定時総会時には選挙管理委員会が発足していないため、中田嘉之氏を選挙管理人として各種選挙を行うことを決議した。このように法人設立第1回目の選挙の一部は上都賀歯科医師会としての決定事項を根拠に行われた。定時総会当日は、まず役員選挙規則・規程を決議し、それに従って法人設立後初の役員を選出した。

〔3〕顧問税理士の変更

法人が設立される平成25年年初より、安納弘昌先生も体調を崩されたことから顧問辞

任の申し出があり、平成25年6月7日の理事会にて顧問税理士を染宮剛太先生に変更することを決定し、法人化後の決算書類は染宮先生によって作成されることとなった。

〔4〕委員会名の変更

法人化検討小委員会は、法人が設立されたことを受けて平成25年7月1日付にて法人検討委員会と改称した。

〔5〕規則・規程の承認

法人設立後も、定めるべき規則・規程のうち総会の承認を得たものは役員選挙規則・規程だけの状態が続いた。これは「上都賀歯科医師会からの延長による役員でなく、法人として選任された役員によって法人の規則・規程は定めるべきである」という配慮によってであった。しかし、すでに委員会案は理事会にて協議されており、未承認ながらこの規則・規程に基づいて会務を運営していた。そして平成26年3月20日の臨時総会にて委員会規則・規程、入会規則、終身会員規則、会費等規則、準会員規則、常務理事会規則、役員報酬等規則、旅費会議費規程、慶弔見舞金規程が承認され、ついに法人運営の基盤が整った。

〔6〕連盟の設立

法人設立後、その政治活動についても日歯・県歯・鹿歯の三層構造を維持しなければ、円滑に活動出来ないことが明らかとなった。そこで鹿沼歯科医師連盟を設立する運びとなり、平成25年7月19日の例会後「鹿沼歯科医師連盟開設準備委員会（仮称）」の立ち上げ、及びその委員については「法人検討委員会の委員」を当てることの承認を得た。そして平成25年9月20日に鹿沼歯科医師連盟設立臨時総会を開催し、満場一致でその設立を決めた。この件の詳細な経緯については別稿に譲りたい。

〔7〕鹿沼地区歯科医師警察連絡会

上都賀歯科医師会から一般社団法人鹿沼歯科医師会へと組織、名称が変わったことに伴い、平成25年11月7日に開催された総会において会則の変更を行った。

【3】法人化検討小委員会 委員及び会議日

平成22年11月1日 法人化検討小委員会 発足

発足時委員 佐川徹三、菊地 均、大貫真裕、田代高志、鈴木裕之、畑 健一
鈴木定幸、瓦井昭二 (敬称略)

第1回 平成22年12月20日 佐川、大貫、田代、畑、鈴木（定）、瓦井

第2回 平成23年 1月27日 佐川、田代、畑、鈴木（定） obs.安納弘昌税理士

第3回 平成23年 1月31日 佐川、大貫、田代、畑、鈴木（定）、瓦井

第4回 平成23年 3月 9日 佐川、大貫、田代、畑、鈴木（定）、瓦井

※ 3月31日 (退任) 菊地 均

	※ 4月1日	(新任) 福島隆夫
第5回	平成23年 4月13日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第6回	平成23年 5月16日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第7回	平成23年 6月13日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第8回	平成23年 7月19日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井、obs.安納弘昌税理士
第9回	平成23年 8月 5日	佐川、大貫、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第10回	平成23年 9月20日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第11回	平成23年11月14日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井
第12回	平成23年12月19日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井
第13回	平成24年 1月23日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井
第14回	平成24年 2月17日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯全弘司法書士
第15回	平成24年 3月 7日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井、obs.佐伯司法書士、手塚史雄
第16回	平成24年 4月27日	佐川、大貫、福島、田代、鈴木(裕)、畑、鈴木(定) 瓦井、obs.佐伯司法書士
第17回	平成24年 6月12日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第18回	平成24年 7月10日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第19回	平成24年 8月20日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第20回	平成24年 9月11日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第21回	平成24年10月15日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第22回	平成24年11月12日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井
第23回	平成24年12月10日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第24回	平成25年 1月21日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第25回	平成25年 2月25日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士
第26回	平成25年 3月18日	佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木(定)、瓦井 obs.佐伯司法書士

☆ 平成25年4月1日 一般社団法人 鹿沼歯科医師会 設立

第27回 平成25年 4月23日 佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木（定）、瓦井
obs.佐伯司法書士

第28回 平成25年 5月14日 佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木（定）、瓦井
obs.佐伯司法書士、相馬英人

第29回 平成25年 6月10日 佐川、大貫、福島、田代、畑、鈴木（定）

※ 6月30日 (退任) 鈴木裕之

※ 7月1日 (新任) 相馬英人

※委員会名を「法人化検討小委員会」から「法人検討委員会」に改称

第30回 平成25年 7月19日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

第31回 平成25年 8月19日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

第32回 平成25年 9月25日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

第33回 平成25年10月21日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

第34回 平成25年11月18日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

第35回 平成25年12月16日 佐川、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）

obs.佐伯司法書士

第36回 平成26年 1月21日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

obs.佐伯司法書士

第37回 平成26年 2月 5日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

obs.佐伯司法書士

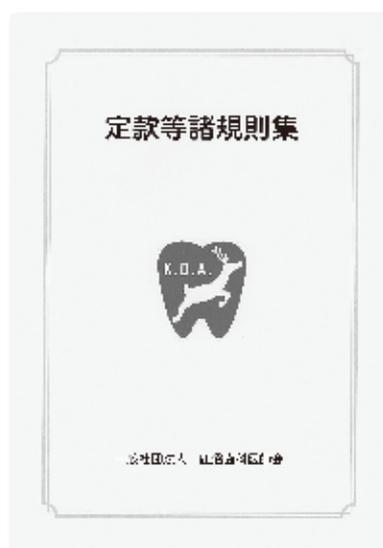
第38回 平成26年 3月 3日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

obs.佐伯司法書士

第39回 平成27年 2月27日 佐川、大貫、福島、田代、相馬、畑、鈴木（定）、瓦井

obs.佐伯司法書士

鹿沼歯科医師会 常務理事 鈴木 定幸：記



定款等諸規則集

鹿沼市歯科保健推進条例制定について

栃木県歯科医師会が自民党栃木県県議会議員の全面的バックアップにより、歯科議連の立ち上げ、更には全議員の賛成のもと議員立法による『県民の歯及び口腔を守る健康づくり推進条例』が2010年12月10日に可決制定、2月11年4月1日に公布された。（小林県議を仲介に県歯と自民党歯科議連の良好な連携の賜物であろう）

又国においても10年来の歯科界の悲願であった『歯科口腔保健の推進に関する法律』⇨略称『歯科口腔保健法』が2011年8月10日に公布され、これによって施策に関する基本理念や国及び地方公共団体の責務が定められた訳である。

◎何が謳われているのか（要約）

- 1、歯科疾患の予防
- 2、口腔の保健に関する調査研究
- 3、国民が定期的に歯科健診を受けることの推奨
- 4、障害者や介護を必要とする高齢者が定期的に歯科健診や治療を受けられる体制づくり
- 5、国民が生涯を通して最適な歯科・口腔保健医療サービスを楽しむ環境整備
この法律が制定されたことにより、国や地方公共団体の責務、推進に携わる人の責務、歯科医師の責務のみならず[国民の責務]が加わったことは、より普及推進が図られると期待したいところである。

◎歯科口腔保健法の構成

- 第1条 目的
- 第2条 基本理念
- 第3条 国及び地方公共団体の責務
- 第4条 歯科医師等の責務
- 第5条 国民の健康の保持増進のために必要な事業を行う者の責務
- 第6条 国民の責務
- 第7条 歯科口腔保健に関する知識等の普及啓発等
- 第8条 定期的に歯科検診を受けること等の推奨等
- 第9条 障害者等が定期的に歯科検診を受けること等のための施策等
- 第10条 歯科疾患の予防のための措置等
- 第11条 口腔の健康に関する調査及び研究の推進等
- 第12条 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の策定等
- 第13条 歯科口腔疾患等の実態調査等
- 第14条 財政上の措置等
- 第15条 口腔保健支援センター

国や県において歯科口腔保健に関する法律や条例が整備されたことにより、今後の歯科口腔を基盤にした様々な取り組みがなされていくものと思われるが、注意しなければ

ならないのは、これらはいくまでも『理念法』であって実行の伴うものを地域・地区においては如何に条文に組み入れるかが課題であると言える。

➡条文そのものは国の歯科口腔保健法や栃木県の条例が下敷きになるであろうし、当然のことながら連動させなければ意味がない訳で、実行法をどのように組み入れるか、より鹿沼らしさを言い換えれば独自性をどのようにすれば盛り込むことが出来るかが課題であり、歯科医師会、行政、意志の明確な関係者（市民）に委ねられたといっても過言ではなく、我々も職責を全うする覚悟が必要ではないか！

条例制定における手法は様々あり、行政に直接働きかける、ある特定の議員に陳情して議会にかけてもらう、協議会等で問題提起をし上程する……ここで今一度原点に帰って何故歯科保健推進条例が必要かを考えた時に、換言すれば推進条例有りきではなく、歯科口腔を通して市民の健康保持増進を担う我々がどういう処を訴えたいかを誠の真情として吐露し、対外的にも理解をして戴くには 市民の代表である市議会議員の先生方にまずは共鳴をして戴き、歯科口腔保健の現状や問題点等を正しく理解させ得るかが鍵となるのではなかろうか！

◎上都賀歯科医師会としての取り組み及び進捗状況

1、（仮）鹿沼市歯科保健推進条例検討小委員会を立ち上げる。

委員として 佐川、手塚（史）、福島、田代、鈴木（裕）、鈴木（定）、相馬、岡本を選任、大貫副会長、瓦井監事には事ある度にオブザーバーとして加わって貰う。

本来ならば、調査担当の手塚（史）がリーダーシップをもって委員長的に活動して貰いたい、というのが本音だが時間的な制約もあり、進め方も難しい為佐川が委員長的に運営する。又、小林顧問にも適宜参加して戴く。

2、委員会で協議した結果、又それ以前より佐藤市長との共通認識も存在していた為鹿沼市議会議員による[議会立法]による成立を目指す事となった。

2011年7月14日（木）に飯塚議長、を表敬訪問し、要望書を手渡す。

…佐川、大貫、福島、田代、手塚（史）出席、大島議員、松山事務局長同席。

議会サイドでも議長を中心に幹事会や常任委員会を開催して戴き、26名全員の勉強会参加についての賛成という回答を得た。よって順次推進条例策定の為の歯科議連の立ち上げ及び勉強会開催の日程等も決定した。

3、8月8日（月）にまずは顔合わせ的に歯科議連の懇談会をという事で決定していたが大震災後の原発問題による節電中でもあり、9月初旬には市議会議員の選挙が予定されている為、選挙後にという延期の申し入れがあり受諾した。

4、その後新議長の決定を待ち、また秋祭り等の諸行事が終了次第という両者の確認を経て、新たに要望書を提出する事とする。

5、11月7日（月）富久田議長、橋本副議長に面談し勉強会開催のお願いを提出する。

出席者は佐川、手塚（史）、福島、相馬であり、今後の日程や進め方について協議を行った。その中で1回目の勉強会について、1月18日（水）pm7：00より総合福祉センターで行う事を確認。テーマは毎回2つずつで決定！ 松山事務局長同席。

6、テーマ及び日程について

1回目 1月18日（水） pm7：00 於、総合福祉センター

テーマ ① 総論『何故今(仮) 歯科保健推進条例が必要か?』	佐川
テーマ ② 生涯にわたる口腔ケア	福島
2回目 3月15日(木) pm4:30 於、まちなか交流プラザ	
テーマ③ アンチエイジングについて	相馬
テーマ④ 唾液について	岡本
3回目 6月7日(木) Pm4:30 於、総合福祉センター	
テーマ⑤ 命をねらう歯周病	鈴木(定)
テーマ⑥ 口腔癌の恐怖 [口腔癌検診の必要性について]	田代
4回目 8月9日(木) Pm5:00 於、総合福祉センター	
テーマ⑦ スポーツマウスガードの普及を目指して	手塚(史)
テーマ⑧ ライフステージを通じた健診(検診)システムの構築に向けて…健康寿命を伸ばすには…	大貫

7、経過報告

鹿沼市市議会の「政策・調査・研究委員会」の中で条文や内容について検討をして戴く事となった。⇒18名の議員で構成

①まずは県の推進条例を下敷きにして、よりコンパクトに、より分かり易さを目指したようである。

②その間には、政策・調査・研究委員会と鹿沼市保健福祉部各課(厚生、健康、介護、子ども支援、高齢福祉、障害者福祉)課長とのヒアリングを行った。

③2012.10.11(木) pm1:00より、市議会常任委員会室において歯科医師会に対してのヒヤリングが行われ、名称も含めて条例の骨子(素案)が示された。

その席上、私の方から再度確認を含めて「何故歯科保健に関わる推進条例が必要か」について話をさせて戴いた。

出席者は 佐川、大貫、福島、田代、相馬、手塚(史)であり、素案については会に持ち帰り検討することとなった。

→政策・調査・研究委員会の委員長は赤坂議員、副委員長は大島議員である。

④10/19(金)開催の役員会に素案を含めた資料を呈示し、意見を求めたが、若干の文言の修正や貴重な提言を戴き議会事務局長を通じて回答する事とした。

⑤10/22(月)に局長に拙宅までお越し戴き、歯科医師会の意向を伝え、可及的に会の考え方が反映されるべく最善を尽くすよう依頼した。

⑥2013.1.10(木) pm1:00に再度政策・調査・研究委員会において条例の最終的確認を行い、2月からの定例議会において議員立法により上程すべく、検討を行った。出席者は 佐川、手塚(史)、相馬

⑦大筋では合意したものの、国や県と同様に理念法である為早急に推進条例の為の協議会的なものを設置すべく議会から市長に要望して戴くよう要請した。従って実効的なものは協議会(実際には策定委員会となった)の中から発信する事とした。

⑧2月からの定例議会において、3/19(火)の最終日に議員提案の議員立法により

可決制定された。

⑨「鹿沼市歯と口腔の推進条例が2013.4.1（月）に施行された。

8、今後の課題等について

- i. 18歳若しくは20歳の健診を行う。
- ii. 60歳若しくは65歳の健診を義務化する。
- iii. 特定健診としての口腔がん健診を行う。
- iv. 中学生（特にコンタクトスポーツ）のマウスガードの普及を図る。
- v. 歯周疾患健診の対象者（25、30、35、45歳等）の拡大を図る。
- vi. 介護施設等も含めた介護・在宅関係者の歯科を通しての連携を図るべく、歯科医師会が接着剤となって協議会を立ち上げる。

以上の事を踏まえ行政、歯科医師会それぞれが、どのように実施施策を計画立案をするかの検討に入った訳だが、歯科医師会理事会において検討した結果、条例が成立した以上は行政側が政策立案をすべきであるという結論に達し、我々はその助言やフォローに徹する事とした。尚、保健福祉部との協議において、アンケートの実施と基本計画策定委員会の立ち上げについては要望させて戴き、快諾を得た。参考までに行政側の取り組みについて列記し理解を求めたいと考えるが、その段階毎の報告は逐一なされ、アドバイスをさせて戴いた事も付記したい。

- 4/18 保健福祉部課長会議 基本計画策定に向けて説明
- 5/8 政策調整会議 庁内ワーキング、策定メンバー、スケジュール協議
- 5/30 第1回健康づくり検討会・歯科保健基本計画庁内ワーキング会議
- 6/26 第1回歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会
- 7月～9月 アンケート調査実施・回収
- 9月～10月 アンケート回収・集計
- 10/8 第2回健康づくり検討会・歯科基本計画庁内ワーキング会議
- 11/5 第3回 々
- 11/28 第4回 々
- 12/19 第2回歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会
- 平成26年1月～2月 パブリックコメント
- 3/13 第3回歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会
- 3月 市長に報告、決定
- 最終的に議会へ報告

鹿沼歯科医師会 会長 佐川 徹三：記

鹿沼歯科医師連盟設立について

栃木県歯科医師会並びに郡市歯科医師会は平成25年4月より一般社団法人へ移行又は登記を完了し、ガバナンス（内部統制）を重視した団体として、新たな活動を始めた処であるが、政治活動に関しては、今まで政治団体設立がなされている栃歯連盟を中心に活動し、役員にも各郡市歯科医師会会長及び青年・女性部長が就任し、県内の全てを包括して国政・県政等に対応する事で効率を高めてきたという歴史がある。

この度、各郡市歯科医師会が法人化した事により、組織の再構築、機能の分化、県歯との連携体制の強化等、今後の政治活動の在り方について、検討する必要が出てきた。というのも、日歯連盟より毎年郡市歯科医師会に交付されていた地域政治活動費（連盟支部事務費）も、栃歯連盟の支部という考えのもと歯科医師会の一般会計の中で流用していたが、平成23年以降、受皿が無い為に交付されておらず、かと言って法人格を取得している団体が、政治的活動を行う訳にもいかず早急に対応する必要が出てきたものである。

従って、鹿沼歯科医師会としても可及的早期設立に向けて平成25年7月より、常務理事会、理事会において連盟規約を含めた関係届出書類等の検討に入った処である。その際に基本的な考え方と会員の負担軽減を目指しての指針並びに理念を列記したいと思う。

「政治団体設立に向けての基本方針」

- 1、政治活動に関しては、今まで既存の『栃歯連盟』の支部という位置づけのもとで行ってきたが、法人格を取得した事により、各歯科医師会が独自で判断、或いは行動しなければならない状況となってきた。
- 2、勿論、日歯・県歯との三層構造は今後も維持されるべきで、地域政治活動費（連盟支部維持費）即ち支部交付金に関しても、その受け皿がなければ平成24年度分も含めて今後も受領する術がなく、会費を徴収されているのにも係わらず会としては大きな損失となる。
- 3、全会員＝連盟加入という訳にはいかないし、賛同出来ない者に対して強制的に加入をとという事も出来ないであろうが、現在の歯科界或いは将来展望を考えても政治的な活動は必要不可欠である。
- 4、よって、鹿沼歯科医師会の方針として、政治活動の為の別組織即ち政治団体を設立する事を前向きに考えて行かなければならないのではないか。
- 5、7月3日（水）開催の常務理事会において、日歯との綿密な連携並びに政治活動の上での受け皿となるよう理事会に諮る事を全会一致で確認した。
- 6、連盟の運営資金としては、会費、寄付金、その他の収入（連盟主催の催しの祝い金等）があるが、設立当初は2年分の栃歯連盟からの支部交付金で賄い、会費を徴収せずに活動したい。また、今後も運営費が枯渇しない限り、原則的に会費は徴収しない。

- 7、7月12日（金）開催の鹿沼歯科医師会理事会に、政治団体設立に関する件を上程し、その主旨をよく説明し、賛意を得たいと思うが、併せてその後の作業としては敢えて総会に諮る事をせずに、理事会決議を以って周知する事も理解を求めたい。
- 8、但し、周知と並行して会員一人ひとりの承諾書への押印や運営費における規約の中に会費等に関するものの記載漏れがないよう、細心の注意をはらう必要はあろう。
- 9、理事会の承認が得られれば、可及的早急に政治団体設立届を作成し、認可を得たい処だが、綱領、規約（任意様式）或いは設立後の年度報告書等は、栃歯連盟のものを参考にしたい。尚、最終的には規約及び人事面等の承認を得る為、臨時総会を開催する事とする。
- 10、同時にこの連盟はあくまでも会とは別組織であることの周知徹底を図ると共に、政治的活動の受け皿も必要欠くべからざるものであることを強調したい。
しかし、実際問題としては会と全く乖離しては、有効な活動が困難になることも予想され、役員の人事に関しては十分に配慮すべきである。

何れにしても、連盟は決して余計なもの、厄介なものではなく、現代を担う会の執行者はその必要を深く認識し行動に移すべきである。それは歯科保健推進条例、休日急患歯科診療所問題をみても明らかだし、政治に媚びることなく協調融和し、或いは時には切磋琢磨し、諸問題解決の大きな一助になるからである。

上記基本方針に則り、7月12日開催の定例理事会に連盟設立に関する議案を上程し、全会一致をもって承認された。その後、会員に対して連盟設立の理解を戴き、賛同して戴いた会員に署名捺印を戴くべく、8月23日付けで連盟設立のお願いとして趣意書を発行したので参考資料として、ここに呈示したい。

鹿沼歯発 207号
平成25年8月23日

会員各位

一般社団法人 鹿沼歯科医師会
会長 佐川 徹三

鹿沼歯科医師連盟設立に向けてのお願い

謹啓、処暑の候益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また会務運営に関しましては日頃より特段のご支援ご協力を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げる次第であります。

さて、今般7月19日開催の例会においてご報告致しました通り、この度鹿沼歯科医師連盟を設立する運びとなりました。尚、例会を欠席された会員もいらっしゃいますので、ここで改めまして連盟設立への経緯について簡単にご説明させて戴きます。

ご存知の通り、本年4月より（任意団体）上都賀歯科医師会是一般社団法人鹿沼歯科医師会へと移行致しました。従来の任意団体であれば、通常の会務と同様に政治活動を行うことも可能ですが、法人となりますと政治資金規正法等の関係上、政治活動と見做される支出は認められなくなります。

この影響で、例年県歯連盟から給付されていた「地域政治活動費（支部連盟維持費）」が前年度も本年度も交付されておりません。これは鹿沼歯科医師会では、栃歯連盟からの『受け皿』になれない為なのです。つまり、日歯→県歯→郡歯という三層構造同様、連盟活動についても日歯連盟→栃歯連盟→鹿歯連盟という三層構造を維持して行く必要があるのです。

このような状況下、マクロ的な視点で歯科界の現状や将来展望を考えた場合、或いはミクロの視点でも、本年4月より施行された「鹿沼市歯と口腔の健康づくり推進条例」制定過程での鹿沼市議団との連携等を鑑みた場合、共に政治的な取り組みが必要不可欠であることは自明の理であり、更には県歯より各郡市歯科医師会に連盟設立の要請を受けている状況に答えるべく、鹿沼歯科医師会の全理事の賛同を得た上で、別組織としての鹿沼歯科医師連盟設立準備を進めて参った次第であります。

尚、連盟の運営資金と致しましては、会費、寄付金、その他の収入によるものとされており、会費に関しましては徴収せず、県歯連盟からの地域政治活動費や寄付金等により賄いたいと考えております。また、連盟役員の人選に関しましては、別組織とは言えたと全く乖離しては、活動自体に支障をきたすことも予想される為、熟慮して参る所存であります。つきましては、諸事情をご勘案の上、ご理解賜り入会同意書に署名捺印を戴ければ幸甚に存じ、ここに慎んでお願い申し上げます。

結びにあたりまして、残暑厳しい折柄、御身ご自愛の程、心より念じ上げご挨拶と致します。
謹言

☆後日事務員がお伺い致しますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

尚、この件に関しましては、ご意見やご質問のある方は佐川会長までお願い致します。

☆鹿沼歯科医師連盟設立なる

9月20日に連盟臨時総会を開催し、連盟規約ならびに会長、役員、監事選任の承認を得た為、県に赴き届出文書、連盟規約文書、同意署名・捺印文書、総会議事録、役員名簿を提出し、平成25年10月1日をもって認可、鹿沼歯科医師連盟が設立された。

連盟設立に関して、上記文書の写しを添付し栃木県歯科医師会に報告。その後、県歯より1月29日付けで、平成25年度の地方政治活動費の送金案内を受領した。

1、交 付 額 612,000円

(交付内訳) i、支部割 200,000円

ii、人数割 112,000円

(人数割：対象会員×1,000円×2) H24、25年度分

※対象会員：H25年9月末栃歯連盟及び郡市連盟所属者

iii、政治団体設立準備金 300,000円

2、対象者人数 56名

3、送金年月日 平成25年12月2日

鹿沼歯科医師連盟 会長 佐川 徹三：記

歯と口腔の健康づくり基本計画について

鹿沼市歯と口腔の健康づくり推進条例が議員立法により、平成25年3月19日に可決制定され、4月1日に施行されたが、それに先立ち鹿沼市議会政策調査・研究委員会に平成24年10月11日と翌年1月10日の2回出席「佐川、大貫、福島、田代、相馬、手塚(史)」し、条例について原案をもとに意見交換を行い、方向性についての確認を行った。

また、それらの集約されたものを鹿沼市議会から「(仮称)鹿沼市歯と口腔の健康づくり推進条例施行にあたっての要望について」という要望書の形で、平成25年3月に鹿沼市長に提出された。その内容については下記の通りである。

1. 条例第8条の規定に基づき基本計画を策定する場合には、下記の項目について検討されたい。

- ・新成人(20歳)対象の歯科検診
- ・歯周疾患検診の対象者の拡充・整備(25歳、30歳、35歳)
- ・60歳か65歳到達者の歯科検診の義務化
- ・特定疾患検診としての口腔がん検診
- ・中学生からのスポーツマウスガードの普及
- ・歯周疾患検診の検診率向上のための方策
- ・在宅介護に関し関係者が連携できる仕組みの構築
- ・障がい者歯科対策の整備

2. 条例第8条第3項の市長が基本計画を定め、または変更する時に、あらかじめ意見を聴く場として、既存の協議会等の活用もしくは新たな協議会等の設置により実施されたい。

その後、平成25年5月10日付で市長名により「歯と口腔の健康づくり推進条例に基づく、基本計画策定委員の推薦」依頼が広く意見を徴収すべく、各方面に出され当会は2名の推薦依頼があった為、会長と専務理事がその任を担う事となった。

- | | | | |
|-----------|-----------------|-------|------|
| ・保健医療関係団体 | 鹿沼歯科医師会 | 佐川 徹三 | 委員長 |
| | | 田代 高志 | 副委員長 |
| | 上都賀郡市南部地区医師会 | 奥山 明彦 | 々 |
| ・地域の代表 | 鹿沼薬剤師会 | 梅野 和邦 | |
| | 鹿沼歯科衛生士会 | 高野 敬子 | |
| | 鹿沼市議会(議長) | 富久田耕平 | |
| ・教育関係団体 | 々(政策調査・研究委員長) | 赤坂日出男 | |
| | 自治会連合会 | 鈴木 節也 | |
| | 鹿沼市養護教諭会 | 江村 江世 | |
| ・福祉関係団体 | 鹿沼地区幼稚園連合会 | 堀川 照子 | |
| | 鹿沼市民間保育園連盟 | 篠原真奈美 | |
| | 鹿沼市特別養護老人ホーム連合会 | 福田 英夫 | |
| ・健康づくり団体 | 鹿沼市食生活改善推進委員会 | 常盤 利子 | |

・行政機関	県西健康福祉センター（所長）	大原 智子
	鹿沼市市民部（部長）	櫻井 進一
	々 経済部（々）	福田 義一
	々 教育委員会（次長）	佐藤 昭男
	々 保健福祉部（部長）	小森 基伊
☆助言者	自治医科大学公衆衛生学教授	中村 好一
★オブザーバー	鹿沼商工会議所事務局長	中山 裕二

6月26日に第1回鹿沼市歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会が市民情報センターで開催され、上記委員全員参加のもと、推進条例の位置づけや骨子の説明更には今後の進め方等について協議が行われたが、オブザーバーの商工会議所に関しては、働く世代の意見を集約するには必要ではないか、という委員の要望により、2回目から加わったものである。

尚、推進条例の位置づけを要約すると、「第6次鹿沼市総合計画」及び市民の健康づくりを推進する「鹿沼市健康増進計画健康かぬま21」や「栃木県民の歯と口腔を守る健康づくり推進条例」の規定と、それに基づく県の施策との整合性を図っており、また市民が歯や口腔の健康づくりに取り組めるよう「鹿沼市健康増進計画健康かぬま21第2期計画」の部門計画として、具体的に推進する為の計画となっている。

推進条例の骨子としては

- | | | |
|-----|-----------------|---|
| 第1条 | 目 的 | 市民がずっと健康で元気に暮らせるように |
| 第2条 | 基本理念 | 歯と口腔の健康づくりの基本的な考え方 |
| 第3条 | 役割分担 | 基本理念に基づきそれぞれの立場で行う |
| | 市 | 歯と口腔の健康づくりの施策を総合的に作って実施する |
| 第4条 | 健康.医療.福祉.教育の関係者 | 各業務で、歯と口腔の健康づくりの推進に努め、お互いに連携を図りながら推進する |
| 第5条 | 市民 | 歯と口腔の健康づくりへの関心と理解を深め、生涯にわたり自分の歯と口腔の健康づくりに積極的に取り組む |
| 第6条 | 事業者 | 事業所で雇っている従業員が歯科検診等を受ける機会を確保すること、その他当該従業員の歯と口腔の健康づくりの取り組みを支援する |
| 第7条 | 基本的施策 | 市が実施する |
| | | ①乳幼児期、学齢期のむし歯の予防対策等を推進する |
| | | ②成人期の歯周疾患の予防対策等を推進する |
| | | ③高齢期の口腔機能の維持と向上策等を推進する |
| | | ④障がい者、介護を必要とする方に対する適切な歯と口腔の健康づくりを推進する |
| | | ⑤歯と口腔の健康づくりについての情報の収集と普及啓発を推進する |
| | | ⑥この他、歯と口腔の健康づくりを推進する為に必要な事を実施する |

第8条 基本計画 市長が計画を定める

- ①歯と口腔の健康づくりの基本的な方針
 - ②歯と口腔の健康づくりの目標
 - ③歯と口腔の健康づくりについて、市が総合的かつ計画的に行う施策
 - ④この他、歯と口腔の健康づくりについての施策を総合的・計画的に推進する為に必要なこと
- ☆基本計画を定めるときは、あらかじめ、歯科保健医療に関して知識経験を有する者の意見を聴き、広く市民等の意見を求める
- ☆基本計画を定めたときは、速やかに公表する
- ☆必要に応じて基本計画の見直しをする

基本計画は

☆基本方針

生涯にわたり自分の歯でおいしく「食べる」ことができるように、市民一人ひとりが歯と口腔の健康づくりに取り組むことを推進し、歯科に起因する疾病や心身の機能低下を予防するように努める

☆基本目標

- ①歯科疾患の予防
むし歯や歯周病の予防に取り組み、歯の早期喪失を防止し、8020の実現を目指す
- ②口腔機能の維持・向上
口腔機能の維持・向上により豊かな食生活の実現と生活の質の向上を目指す
- ③歯科受診しやすい環境づくり

☆推進目標

- ①妊娠期 妊娠期の中で健全な歯や口腔の状態を維持する
- ②乳幼児期 むし歯の予防習慣を身につけ、歯や口腔の健全な成長を支える
- ③学齢期 歯や口腔の役割を理解し、健全な口腔状態の維持・向上を図る
- ④成人期 自分の口に関心を持ち、健口意識を高め、歯周病の予防と歯の喪失防止を行う
- ⑤高齢期 口腔機能を維持し、いつまでも口から食べることが出来るよう、8020の達成を図る
- ⑥要介護・障がい者
歯や口を良好な状態に保てるよう口腔ケアに努め、口腔機能を維持する
- ⑦働く人・事業所 働いている人達自らが歯や口腔機能の維持・向上を図り、いつまでも健康で働ける環境づくりを行う

これらの計画や骨子案を解説、説明した後各委員から意見や要望を、それぞれの立場で話して戴き、結論的には出来るだけライフステージを通した検診or健診システムの構築を目指すという事になったが、アドバイザー等の指摘もあり、可及的広範囲にかつ年代的にも遺漏の無いようにアンケートを実施する事となった。

次にアンケート調査の概要について提示したいと思う。

「歯と口腔の健康づくり基本計画」アンケート調査概要

1. 調査の目的

歯と口腔の健康づくりのための基本計画や施策に反映するために、鹿沼市民の歯科保健の現状や意向を把握し、併せて意識啓発を図る。

2. 実施主体

鹿沼市 保健福祉部健康課

3. 調査対象

- ・鹿沼市に居住する幼児の保護者（3歳児・5歳児）
- ・市内の小学5年生・中学1年生、市内の高校1年生
- ・20歳～80歳までの市民(無作為抽出)
- ・市内の商工会議所、商工会及び鹿沼工業団地立地企業加入事業所
- ・障がい者入所施設
- ・介護施設

4. 調査期間

平成25年7月～9月（3歳児）7月（幼稚園・保育園の5歳児）8月～9月（小中学校）9月（高校）8月(市民・施設・事業所)

5. 調査・回収方法

- ・調査用紙によるアンケート方式(無記名) 但し、住所は記入
- ・幼児の保護者（3歳児は郵送し健診で回収、5歳児は幼稚園・保育園で配布し回収）
- ・小・中・高校生は学校で配布し回収）
- ・市民は、返信用封筒・はがきを同封し郵送し返送、その後可及的電話や訪問等で回収
- ・施設は、返信用封筒を同封し、返送回収
- ・事業所は商工会議所や工業団地管理組合などを通じて返信用封筒を同封し、返送回収

6. 調査内容

- i. 本人の状況（基本情報）
- ii. 歯みがきや歯周病について
- iii. かかりつけ歯科医の有無
- iv. 歯や口の健診についての意識
- v. 歯の本数（判る範囲で）
- vi. 歯科保健知識の理解

7. 調査対象者

以下にアンケート調査区分に基づき、回収率及び備考について報告する。

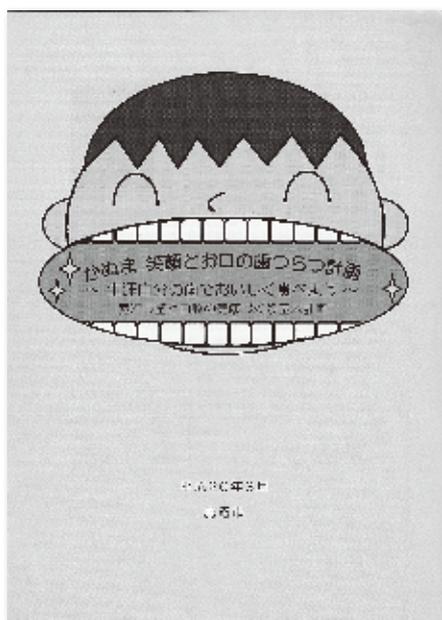
☆回収数／調査数＝回収率

- ・幼児（3歳児） 238/269＝88.5% 3歳児健診時にて回収
- ・幼児（5歳児） 341/432＝78.9% 幼稚園依頼
- 々 220/278＝79.1% 保育園（民間）依頼
- 々 136/191＝71.2% 々（公立）依頼

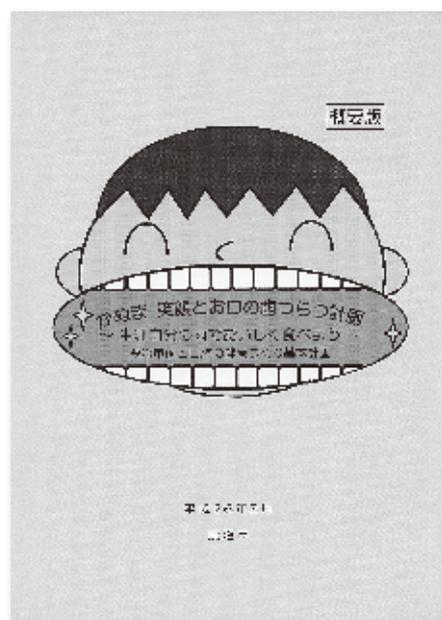
- ・小学5年生 845/926=91.3% 学校依頼
- ・中学1年生 965/1008=95.7% 々
- ・高校1年生 862/883=97.7% 々
- ・20歳～84歳 496/710=69.9% 対象者79569人からランダム抽出（各年齢層から110人、80～84歳は50人抽出）
- 20～64歳 306/496=61.7%
- 65歳～ 185/214=86.4%
- ・事業所 199/3202=6.2% 鹿沼商工会議所は会報と同封（郵送）、栗野商工会は訪問配布、鹿沼工業団地管理組合に依頼
- ・障がい者入所施設 3ヶ所=100% 施設に依頼
- ・介護施設 21ヶ所/23ヶ所=91.3% 特別養護老人ホーム、老人保健施設、地域密着型施設に依頼

その後、市役所内部での都合4回の健康づくり検討会・歯科保健基本計画庁内ワーキング会議が開催され、アンケート集計結果報告及びその分析が行われ、歯科医師会のアドバイスを元に素案の検討に入り、12月19日開催の第2回策定委員会に提示された。それと共に平成26年1月～2月にはパブリックコメントを募集し、第3回策定委員会において「かぬま 笑顔とお口の歯つつ計画～生涯自分の歯でおいしく食べよう～」鹿沼市歯と口腔の健康づくり基本計画が了承確定されたものである。尚その計画にはライフステージを通しての数値目標も掲げられ、計画の適正度及び進捗状況については年2回開催の「鹿沼市健康づくり推進協議会」において報告検討する事も義務付けられたが、詳細に関しては基本計画小冊子及びその概要版を参照されたい。

鹿沼歯科医師会 会長 佐川 徹三：記



かぬま 笑顔とお口の歯つつ計画



かぬま 笑顔とお口の歯つつ計画 概要版

成人歯科健診について

鹿沼市歯と口腔の健康づくり推進条例が制定され「歯と口腔の健康づくり基本計画策定委員会」の中で、ライフステージを通じたアンケート集計結果をもとに、基本計画となる「かぬま 笑顔とお口の歯つらつ計画～生涯自分の歯でおいしく食べよう～」が策定され、乳幼児期→健全な歯・口腔の育成、学齢期→口腔状態の向上、成人期（19～64歳）→健全な口腔状態の維持、高齢期（65歳～）→歯の喪失防止、要介護者・障がい者→定期的な歯科検診・歯科医療の推進、働く人・事業所→歯科口腔保健の推進体制の整備等の目標が設定された。

それに伴い、具体的指標と数値目標も掲げられ、毎年度検討する事となったが、詳細に関しては「かぬま 笑顔とお口の歯つらつ計画」概要版を参照されたい。

何れにせよ、ライフステージを通じた中で、可及的欠落する年代の無いように、言い換えれば様々な角度から目標を達成すべく、健康課と歯科医師会との間で何度も検討が加えられた。

尚、この度の推進条例制定、基本計画策定に端を発した標記の成人歯科健診を紹介する前に、鹿沼市との委託契約或いは施設や企業の依頼により、現在まで行ってきた検診（健診）事業や健康教室等を振り返ってみたい。

1、楽しく学ぶ「親子歯と口の健康教室」

平成25年度の第39回までは「親子むし歯予防教室」として実施

2、マタニティ歯科教室→初妊婦を対象

3、1歳6ヶ月児健診

4、2歳児教室

5、3歳児健診

6、肢体不自由児の検診

7、産業歯科検診→主に酸蝕症検診で企業より依頼があった場合

8、歯周疾患検診→健康増進法によるもので、40、50、60、70歳対象

9、歯科ドック（お口の人間ドック）→鹿沼市国保加入者を対象

10、介護・福祉施設の検診及び健康教室

※平成27年度からは、後期高齢者（75歳）歯科健診も実施予定

勿論その他にも、市内にある小学校27校、中学校10校、高等学校4校と養護学校分校のいわゆる学校歯科検診も行っており、当歯科医師会会員が主校医及び学校規模(生徒数)に応じて副校医も加わり検診等を担っている。また、公立保育園(児童館2館を含む)14園に関しても福祉事務所からの委託という形で連携し、幼稚園8園・民間保育園9園に関してもそれぞれ当会員が関与している。

従って、ライフステージを見渡すと一目瞭然、高校卒業後の比較的若い世代、しかも働く世代は健診等の機会がほとんど皆無であり、まずスポットを当てる事となった。

もう一つの特筆すべき点は、高齢社会が進捗している中で、リタイアされた方が少し

でも元気に活力ある生活が送れるように、ひいては健康寿命の延伸を図るべく、歯や口腔の再チェックを目的として65歳を対象にした「歯と口のいきいき健診」を導入出来た事である。

平成26年7月からの実施に向けて、健康課と歯科医師会による検討会・打ち合わせ会を数度開催し、口腔内診査内容、問診票、口腔診査票、紹介状、担当表、健診記録票及び口腔がん検診票や会場レイアウト、健診の流れ、役割分担等について確認し、万全を期す事となった。

① 40歳未満の健診概要

- ・対象人数 80～100名/day am9：30～11：30
- ・対象年齢 当該年度20、25、30、35歳になる方
- ・実施期間 7～12月の中で集団特定健診に併せて5回実施
- ・実施場所 市民情報センター
- ・スタッフ 歯科医師2名、歯科衛生士2名、保健師2名
尚、当日は特定健診（身体測定、血圧、採血、心電図、眼底検査）も栃木県保健衛生事業団により実施
- ・結果説明 別の日に保健師により実施

② 歯と口のいきいき健診

- ・対象人数 毎回30名程度 pm1：00～3：00
- ・対象年齢 当該年度65歳になる方
- ・実施期間 7～12月までの月1回、計6回実施
- ・実施場所 市民情報センター
- ・スタッフ 歯科医師1名、歯科衛生士3名、保健師2名
- ・健康教育 歯周疾患、口腔ケアと誤嚥性肺炎等の講話、実践としてお口の体操、健康体操
- ・特記事項 健診時に口腔がん検診（スクリーニング）を実施

尚、平成26年度は初年度でもあり、健診結果の集計をもとに、平成27年2月13日pm6：30より歯科医師会執行部と健康課（矢部健康課長補佐、根本保健師）並びに鹿沼歯科衛生士会（保坂会長、柴野DH）三者によって、成人歯科健診事業打ち合わせ会（反省検討会）を行った。

その中で、実施日より健診人数のばらつきや待機時間の問題、或いは周知及びPR不足による低受診率が顕在化した為、次年度に向けての建設的な協議が行われた。また、結果表をもとにした集計の考え方も再考する必要がある事が判明した。

協議の結果を下記に列記したいが、より良いものに昇華すべく更に緊密な連携と、一つ一つ丁寧な吟味を怠らない所存である。そして、何故歯科保健推進条例が出来たのか、歯と口腔の健康づくり基本計画がどうして必要なのか、「更には40歳未満の健診」と「歯と口のいきいき健診」が今後充実した結果、何をもたらすのか、等々真摯に議論して行ければと願っている。

〈検討結果〉

1、40歳未満の健診

来年度は 20、25、30、32、34、36、38歳で実施し受診率アップを図る
会場は集団特定健診の関係で従来通り市民情報センター

2、歯と口のいきいき健診

来年度は45、55、65歳に拡大
平成27年4月オープンの新休日急患歯科診療所にて実施予定

3、感染症対策の一環として、健診時に一人ひとりグローブを変更

各サイズを網羅し、行政が負担

4、PR・周知の徹底を図る

広報かぬま、鹿沼市ホームページ、ケーブルTVの活用

鹿沼歯科医師会 会長 佐川 徹三：記



鹿沼市休日急患歯科診療所について

鹿沼市には現在、鹿沼市民文化センター内に、休日夜間急患診療所と休日急患歯科診療所があり鹿沼地区の住民の方々或いは他地区の方も有効に活用され、30年以上が経過したことは周知の事実である。そもそもこの休日診療の機運が高まったのは、昭和53年秋頃からであり、休日の急患を如何に対応するかということで、医師会・歯科医師会共にその運営や対処法に関して論議を進め、昭和54年3月11日にまずは医科が、そして昭和57年4月11日に歯科が当時万町にあった鹿沼保健所の建物内に開設されたという経緯がある。

(詳細に関しては、上都賀歯科医師会 創立85周年記念誌 P405を参照)

当時、行政においては住民の救急医療対策は2次救急も含めて重要な最優先課題であり、1次救急的な対応も急務となった訳である。一方歯科医師会としても自由経済社会とは言え、コンビニのように日曜日や祝日診療を会員個々が受容するには、ばらつきがあっても混乱を招くであろうし、日頃の心的及び肉体的侵襲から解放され、鋭気を養う観点からも祝休日診療を原則行わないというスタンスに立って行政側と意見の一致をみた次第である。

その後、保健所建築物も前々から老朽化が指摘され、また新たに県西健康福祉センターとして名称も新たに他の場所（旧鹿沼市立西中学校跡地）に移転し、時を同じくして鹿沼市民文化センターが新築開館されたため、当初からの予定であったようだが、休日診療所もそれに併せて昭和59年10月7日に同センター内での新規開設に漕ぎ着けたものである。

冒頭で記述したように1次救急への対応として、市民に便宜を図り、あくまでも応急処置を主眼として歯科医師会会員の当番制により運営されてきたものであり、ようやく市民にもその主旨が理解され、かつ浸透してきた感があるが、30年余を振り返ってみると全く問題が無かった訳ではなく、市の中心地から少し離れているため利便性が悪い、また文化センターの性格上祝休日に各種イベントが多いこと、そしてインフルエンザの流行時等では駐車スペースが足りない、更には経年劣化による診療機器の老朽化等、常にその改善を行政に訴えてきたことも、また事実である。

尚、この度の休日診療所の新築移転に関しては様々な要因が重なって実現したことであり、その経緯について正しく認識して戴きたく若干の説明を加えたいと思う。

発端は平成21年8月12日に遡るが当時民主党政権下にあつて、急遽上都賀庁舎に医療や福祉等の関係者が招集され、地域医療再生計画（骨子案）に係わる説明会が開催され、皆同様に訳のわからないまま、とにかく栃木県においては県西と県南地区がその該当らしいこと、2次救急をメインに1次救急を含めての計画なんだということが臆げではあるが判明、かつ急を要する話であったように思う。

その後、栃木県保健福祉部の主導により、県西地域医療再生コンソーシアムにおいて、広く様々な意見を聴取すべく行政は元より、医療、介護、福祉等の関係者や学識経験者による会議が都合4回を予定して行われ、そのうちの1回は、かの東日本大震災直後の為やむなく休止となったものの何が一番必要で、どうすれば県西地域の医療再生が図られ、ひいては地域住民が安心した日々の生活を享受し、健康保持増進に繋げることが出来るかに方向性が集約して行ったことは論を待たない訳だが、ここで一つ注意したいのは、初めに上都賀総合病院の建て替えありきではなく、また休日急患診療所の新築移転ありきでもない、という事である。

ご存知の通り、県西医療圏とは鹿沼地区と日光地区を包含したものであるが、日光地区は2次救急を担う病院がある程度整備されており、鹿沼地区には上都賀総合病院、西方病院、御殿山病院の3院のみで、2次救急に関しては県内一手薄な状況が現実的にも、将来的にも浮き彫りになっている為、市民病院的な色合いも濃く、また2次救急の拠点病院でもあり、かつ老朽化した上都賀総合病院の建て替えが医療再生の根幹を成したという次第である。その他にも再生計画としては県西地域の医療ネットワークの形成や連携、地域の医療課題の解決等が挙げられるが、改めてその目標を列記すると、中核的な2次医療機関の診療機能の強化、急患センターの機能充実、「病病、病診、介護・福祉」との連携体制の構築、医師や看護師等の確保対策の充実、医師等の労働環境の改善、県民協働による活動の推進があることも忘れてはなるまい。何れにせよ、こういった経緯の中で休日急患診療所の新築移転も上都賀総合病院建て替え問題に付随する形で浮上してきたものであり、行政側もこの問題に関わざるを得ない状況になったものである。何故ならば繰り返しにはなるが県西地域医療再生＝上都賀総合病院建て替えではなく「地域医療再生特例交付金」を可及的満額獲得する為には、換言すれば地域医療課題の解決の一つとして「休日急患診療所」の改善・整備は必須なものだからである。

鹿沼市においても相当額の拠出を決定したことから、大きな目標が掲げられた。それは市民の利便性、ハード面・ソフト面の改善、高齢者対策、インフルエンザ等の感染症対策である。

更には鹿沼市より歯科医師会としての要望等のヒアリングがあった為、理事会における意見の集約を次に示すような所感として提出した。

鹿沼市休日急患診療所移転に関する所感(要望)

1. 移転問題を論ずる前に、県西地域の医療再生とりわけ上都賀総合病院の建替問題より派生した事であり、主体性が明確ではないというイメージがあります。巷においても、様々な憶測が飛び交っており『うまくいけば』『あわよくば』的な印象からは脱却して戴きたい。

2. 移転をするからには 利便性や快適性そして医療機器等の充実が図られなければ意味がありません。是非とも十二分に協議をして戴きたいと思えますし専門的見地を取り入

れて戴きたい。

3. 市はもっとリーダーシップを発揮して、推進すべきであり、間違っても上都賀総合病院の付属施設的なイメージにならないようお願いしたい。

4. 建物が平屋建てのみというのは、経済的にも効率的にも考えにくく、どういう構想があるのか可及的早期に提示して戴きたい。

5. 建物や土地の所有を明確にすると共に、もし市が借用する場合にはその後の契約やメンテナンス或いは、将来の建替え時に支障を来たさぬように存分に研究して貰いたい。

6. 実際の設計特に診療室関係は医師会共々協議に加えて戴きたいし、日照を含めた方角についても配慮をして戴きたい。

7. 現在、新たに診療所を開設する場合にはバリアフリー化が義務付けられており盲導犬の搬入可や車椅子のまま診療可等、高齢者や障害者に優しい休日急患診療所を目指して貰いたい。

8. 既存の文化センターの場合、イベント等があると駐車場が直ぐに満車となり、患者に不便を強いている事が多い為、考慮して戴きたい。

9. 今流れは院外処方に向かっており、院外処方を採用する場合には患者の利便性を考慮して戴きたい。(薬局も日曜祝祭日休診の処が多く、こちらから指定指示する事は禁じられている)

そして可能であるならば、薬剤師会にも協力要請し薬剤の管理及び処方をお願いしたい。

10. 市民が場所も内容も出来る限りわかり易いように周知や広報には、より以上の努力をして戴きたい。又、リーバス等の交通機関とも十分に協議して戴いて 超高齢社会への対応を行って貰いたい。

以上、所感を述べさせて戴きました。私見のみならず理事会で出た意見も陳述させて戴きましたので、歯科医師会の総意と申し上げても過言ではありません。

ただ、一つだけ間違いなく申し上げる事が出来るのは、歯科医師会のスタンスとして、私達は歯や口腔を通じて市民の健康維持増進の為に、行政の皆様と綿密な連携を図りつつ、職責を全うすることであり、市民の目線に合った新たな休日急患診療所体制が実現出来れば無上の喜びであり、そのためのご協力並びに自らの努力は惜しまない決意でありますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。肅々と進捗させましょう。

上都賀歯科医師会 会長 佐川 徹三

この休日急患診療所に関する協議は、その性格上平成24年度からの「鹿沼地区保健医療協議会」の中で論議することとなり、あくまでも上都賀総合病院の建て替えに付随した形で急浮上した案件の為、上都賀厚生連の企画設計を見守ることとなった。

まず初めに呈示されたものは、建て替え予定の施設内ということであったが、使用可能なスペースが十分に確保することが出来ず、現施設より極度に縮小せざるを得ないこと、また受付等の機能や管理面での困難さが露呈し、更には上都賀総合病院が2次救急の担当日でない場合、果たして別の2次救急病院に行く事に心理的抵抗があるのでは?等々

厚生連による計画案の練り直しが必要となった。間もなく続いて、病院に隣接して建築する案、別の厚生連所有地に建築する案、病院の敷地内ではあるが別棟で建築する案等々、二転三転し混迷を極めたが、どの案も帯に短し襷に長し的な要素を含んでおり、かと言ってあくまでも上都賀総合病院の新築設計と連動していなければならない、何故かとも難しさを伴わなければならないのか、関係者が頭を抱えたのも、また事実である。

そうこうするうちに、国の地域医療再生交付金は新築病院の中に休日急患診療所があってこそという前提で交付されるものであって、病院建設と一体化でなければ助成が得られないと判明、暗礁に乗り上げたのである。しかし行政としても、1次救急の重要性を認識し、国の補助金無しでも上都賀総合病院に対しての診療所建設、土地提供を前提とした市の補助金を減額することによりかつ、県の補助金を可及的確保し、一歩前に進めることとなった。

本来ならば、上都賀厚生連や上都賀農協が責任を持って休日急患診療所の敷地を確保することが理想ではあるが、先の見えない状況を打開しなければならず、市としても救急医療体制の確立の早期実現を目指し、新たに土地の選定を含めて保健医療協議会にて検討することとなったものである。尚、この誌面において責任の所在を明らかにすること、何処で歯車が狂う状況になったかについては言及を避けたいし、鹿沼市議会での議員質問、議長・副議長と保健医療協議会正副との話し合い、行政を交えての医師会会長、歯科医師会会長との協議等々が何度も行われ、関係者によって善後策を講じていたことはご理解を戴きたいと思う。そして、一番ネックとなっている建設予定地と休日急患診療所の運営主体が明確になるならば、早期解決を図ることを前提に、平成25年2月18日開催の保健医療協議会にて、草案の骨子が固まったものである。

その後、平成25年3月鹿沼市議会において、市の所有地（貝島町）に新築することが承認され、行政においては実施設計を、そして医師会・歯科医師会においては備品等の選定作業が始まった。それに伴い、平成25年6月20日付けで、健康課より正式な「休日急患診療所の整備に係る施設等の意見・要望」提出依頼があり、ソフト面・ハード面にわたって理事会等で協議し提出した。

また、並行して「休日夜間急患診療所並びに休日急患歯科診療所の整備に係る打ち合わせ会」が7月29日を皮切りに都合3回開催され、互いに課題を持ち帰り検討しながら進行出来たことは有意義であったように思う。因みにこの打ち合わせ会の出席者は医師会が奥山会長と石橋救急医療担当理事、歯科医師会は佐川会長と田代専務理事であり、更には消防本部・建築課も加わり、健康課が事務局となって協議したことを付記したい。

そして、平成25年度中に実施設計が完了し、26年6月24日に新築工事入札「落札業者：神谷建設(株)」、7月25日着工となり平成27年4月オープンを目指すこととなった。

建設地	鹿沼市貝島町5027番地5	敷地面積	1010.29㎡
構造	木造平屋	建設面積	264.99㎡
駐車場台数	30台弱		

その間、10月31日には休日急患診療所両管理者を交えた健康課との打ち合わせ会が開

催され、運営委員会の組織の見直しについて協議が行われた。と言うのもこれまで運営委員会は別々に開催していたが、医師会・歯科医師会の委員(各々3名)を除くと他の委員(県西健康福祉センター所長、鹿沼市議会議長、市議会文教民生常任委員長、副市長、保健福祉部長)は同一メンバーであることまた、新規開設に伴い懸案であった薬剤の管理及び調剤の為に鹿沼薬剤師会より当番薬剤師が加わることになった為、運営委員会は休日診療所運営委員会として一本化し、委員は医師会・歯科医師会は1名減の2名づつに、そして薬剤師会より1名を出して戴きスリム化を図ったものである。

尚、開所に向けて薬剤に関しての運用を的確かつ有効に行う為、医師会・歯科医師会・薬剤師会による事前会議を平成27年2月12日に開催した。

また、1月15日には現地において、休日診療所新築工事・工事状況の確認を行い、また2km以上離れた新築移転の場合には新たな保健医療機関の指定申請が必要な為、当番歯科医師の必要書類を提出することになった。(平成27年2月末日締切)

- ①歯科医師免許証の写し(A4サイズに縮小可)
- ②保険医登録票の写し(紛失の場合再発行可)
- ③個人票

何れにしても、紆余曲折はあったものの平成27年3月29日(日)am10:00より新休日急患診療所において落成式が行われ、順調に行けば4月より開所の予定であるが、ハード面の整備のみならず、ソフト面においても更なる充実、即ち少子高齢者対応、障がい者に対してのハードのみならず、心のバリアフリー化、感染症対策等々を真摯に取り組んで行くことが、我々医療人に求められているのではなかろうか。

鹿沼歯科医師会 会長 佐川 徹三：記

鹿沼市と一般社団法人鹿沼歯科医師会の 災害時の歯科医療救護に関する協定締結される

平成26年7月28日（月）午後1時より鹿沼市役所2階特別会議室にて上記協定の締結式が挙行された。

当日は、鹿沼市の小野口利之総務課長の司会のもと厳粛に行われたが、鹿沼市から

市長 佐藤 信 副市長 松山 裕 総務部長 福田 義一

鹿沼歯科医師会からは

会長 佐川 徹三 副会長 大貫 真裕 副会長 福嶋 隆夫 専務理事 田代 高志
理事 駒橋 武

が出席した。

まず、協定書及び協定実施細則それぞれ2部（計4部）に署名、押印し市長と会長によりその文書の確認と受け渡しを行った。

次に市長より挨拶があり、「災害はない事が一番ではあるが、全国的にみても比較的災害の少ないといわれている鹿沼市においても、大雪や大雨による土砂災害も現実問題として発生しており、備えあれば憂いなしの格言のとおり、鹿沼歯科医師会には歯科という専門的分野を生かして是非とも協力、支援を頂きたい。」と話された。

また、「鹿沼市に限らず姉妹都市の足立区、葛飾区、台東区の住民に対しての緊急時受け入れ体制も視野に、今後歯科医師会と共に検討して参りたい。」とのことであった。

次に佐川会長から挨拶があった。要旨は以下のとおりである。

「歯科、言い換えれば歯や口腔の特殊性を鑑み、摂食・咬合の維持保全と口腔ケアの徹底が災害時においても必須であり、その事を念頭に歯科医師会としては対処、活動して参りたい。」

①歯牙や義歯等の破折や口腔内損傷に対して、搬送等が不可能で緊急を要する場合、現地での応急処置や対応を行いたい。

②集団で避難を余儀なくされている方々への応急処置や口腔ケアの徹底を図りたい。

とりわけ口腔ケアに関しては、阪神淡路大震災において高齢者の多くの方々が口腔ケアの不徹底により誤嚥性肺炎で亡くなられ、同じ轍を踏まぬよう新潟中越地震（平成16年10月23日）では口腔ケアが十分行われた為、比率において誤嚥性肺炎は40%、死亡者は50%も減少したという報告もあり、“命を守る口腔ケア”を肝に銘じて真摯に取り組んでいきたい。

③救護とは異なるが、不幸にもお亡くなりになり、尚且つ身元が判明していないご遺体がある場合には、歯科的個人識別による身元判定を行えるよう、警察とも連携を図りながら対処したい。

因みに、当会には平成4年設立の“鹿沼地区歯科医師警察連絡会”を有しており、活発な活動を行っていることから、行政と警察との円滑な連携が図れるよう一翼を担えればと思う。

とのことであった。

この協定は鹿沼市地域防災計画に基づき、鹿沼市が行う歯科医療救護活動に対する鹿沼歯科医師会の協力に関して、必要な事項を定めるもので協定の一部（項目）を紹介すると

- (趣旨)
- (歯科医療救護活動計画)
- (歯科医療救護班の派遣)
- (歯科医療救護班に対する指揮)
- (歯科医療救護班の業務)
- (歯科医療救護班の輸送)
- (医療品等の供給)
- (医療費)
- (費用弁償等)
- (細則)
- (協議)

(有効期間) からなっており、この協定を行う際の実施細則も別に定めた。

この協定を締結するまでには鹿沼市の実務担当者との事前の協議の場を何度も設け、栃木県と栃木県歯科医師会との間で取り交わした「災害時の歯科医療救護に関する協定」、鹿沼市と上都賀郡市南部地区医師会との「災害時の医療救護に関する協定」（案）、日光市と日光歯科医師会との「災害時における歯科医療救護活動に関する協定書」等を参考に検討を重ね締結に至った。

ふりかえれば、平成23年3月11日に1000年に一度ともいわれた東日本大震災が起き甚大な被害をもたらした。震災によって避難を余儀なくされた福島県飯館村の方々約520人以上が一時的に、鹿沼のフォレストアリーナ（鹿沼総合体育館）や菊沢コミュニティセンターに避難をされた。3月22日には鹿沼歯科医師会（当時は上都賀歯科医師会）の会員が避難所に向いて歯ブラシや紙コップなど支援物資を届け、緊急アンケートを実施し26日には応急処置、口腔ケアや歯科相談を行った。

この時の様子は下野新聞3月27日号や栃木県歯科医師会の栃歯会報No.625号にも掲載された。

また、その後鹿沼市に避難された方々の何人かは、歯科医師会会員の各診療所で歯科治療も継続して行った。

福島第一原子力発電所事故による放射能汚染は震災後間もなく4年が過ぎようとしている現在（平成27年3月）もいまだに解決、収束に至っていない。

東日本大震災以降も大型台風、竜巻、大雪、御嶽山の噴火などの災害による被害もあって、天変地異、大規模災害はいつ何時起こっても不思議はないといわれている。

また、日本歯科医師会では、平成25年6月に“大規模災害時の歯科医師会行動計画（平成22年8月の改訂版）”を作製し、全国7地区日本歯科医師会災害コーディネーター研修会を実施し、災害歯科コーディネーターとして災害対策全般にわたる課題について精通し、それぞれの地域でコーディネーター機能を果たせるような人材を養成する

ことで、より多くの歯科医師が災害時歯科保健医療や身元確認に貢献できるよう取り組んでいる。この研修会には当歯科医師会からも駒橋武理事が既に出席している。

不慮の事故や大規模災害等の際に歯科医師会の会員が適切に対応するためには、鹿沼市、鹿沼警察署、栃木県とも普段から協力体制を整備し築き上げることが重要であると考える。

この“鹿沼市と一般社団法人鹿沼歯科医師会の災害時の歯科医療救護に関する協定”はまさしく時代が求め、現代に即したものであり、必ずや会員の指標となるものである。

不慮の事故や大規模災害が起きないことを願いつつ、佐川会長の「何れにしても、自助・共助・公助が叫ばれている昨今、歯科医師の責務として共助の部分で鹿沼市民の安心安全に寄与していくことをお誓い申し上げたい。」との言葉をお借りして結びとしたい。

鹿沼歯科医師会 副会長 大貫 真裕：記



上都賀総合病院歯科口腔外科開設から現在まで

上都賀総合病院歯科口腔外科は、1. 院内口腔ケアの向上、2. 周術期患者の口腔ケア、3. 職員の福利厚生を主軸として、平成24年4月9日に開設されました。

今まで、すでに整えられた環境内での診察しか経験のない私は、材料や道具、それぞれユニットの配置など全くわからない、戸惑いしかない状態でのスタートでしたが、周囲スタッフや医局からのサポートもあり、何とか開設の日を迎えることができました。歯科医師1名、歯科衛生士1名、受付1名というスタートでした。

当科は医師からの依頼のある院内患者の他や、他院からの紹介患者の診察に対応するという診療体系であったため、診療初日は院内紹介患者3名、翌日2名、翌々日1名と右肩下がりになってしまい、今後のことを考えると、不安でいっぱいだったことを記憶しています。しかし、鹿沼歯科医師会（当時の上都賀歯科医師会）の先生と密に連携をとることで、紹介患者さんも徐々に増加してきました。鹿沼・日光方面の患者さんを、なるべく自宅に近い病院で対応できれば、通院の負担軽減を図れますし、また、ご依頼から処置までの期間を短縮することで、紹介医での補綴などの歯科治療を可及的速やかに行えるよう心がけました。

院内では、栄養サポートチームや、人工呼吸器サポートチームに加わることで、歯科の介入が必要な症例をひろいあげ、入院中は当科にて治療を、退院後は、開業医の先生方へ必要な情報とともに紹介することで、円滑な歯科医院受診をサポート出来たのではないかと考えております。全身麻酔による手術症例も、平成26年度は60件程度になり、地域の中核を担う病院としての歯科の役割を多少は果たせるようになったのではないかと考えております。

また、もう一つの目標である院内口腔ケアの向上については、まず、院内職員を対象に口腔ケアについての講習会を開催し、口腔ケアがなぜ必要か、その効果についてお話させていただきました。それまで行われていた口腔ケアは、自立している患者さんはセルフケアを、介助が必要な患者さんは、看護師が行うものでした。しかし、その方法は統一しておらず、手技もバラバラでした、そのため、院内に口腔ケア委員会を発足させ、各病棟から口腔ケア委員を選出し、口腔ケア方法を習得し、各病棟にフィードバックしてもらおうようにいたしました。

上都賀総合病院は、要望や提案に対するレスポンスが早く、そして前向きに取り組む姿勢のある医療スタッフが多く、大変働きがいのある病院です。働きやすい環境に加え、地域の先生方のご協力があり、3年間はあるという間に過ぎてしまいました。今後、よりいっそう地域医療に貢献できるよう、歯科医師会の先生方と連携をとり頑張りたいと思いますのでよろしく願いいたします。

上都賀総合病院 歯科口腔外科 泉 さや香：記

県歯総会の歩み

栃木県歯科医師会、総会、日時、会長、出席者数、会場の変遷

- 大正15年 6月15日 設立総会 会長：宮原武二郎
出席者数：58名／会員数149名 会場：不明
- 3月17日 歯科医師会令が勅令14号で公布され3月20日から6ヶ月以内に道府県歯科医師会を、又新しく日本歯科医師会を設立しなければならなくなった
小野重三郎、会長に選任されるも高齢の為辞任し、投票2位の宮原武二郎会長に就任
- 7月 6日 第1回総会 会長：星野幸治 出席者数：48名 会場：県会議事堂
岡安恒輔会長に選任されるも、副会長、理事選挙し、当選者何れも辞任した為、辞任す
- 9月17日 旧栃木県歯科医師会解散総会、会長：天沼浦之助 出席者数：25名
会場：日本赤十字社
第1回臨時総会 会長：星野幸治
7月29日栃木県歯科医師会認可さる
- 11月22日 第2回臨時総会 会長：星野幸治
出席者数：21名／会員数：143名 会場：日本赤十字社栃木県支部
12月4日 日本歯科医師会設立に際し日歯議員岡安恒輔、予備議員星野幸治
- 昭和元年12月27日 第3回臨時総会 会長：星野幸治
出席者数：28名／会員数：145名 会場：日本赤十字社栃木県支部
健康保険部設置する
- 2年 3月28日 第2回定期総会 会長：星野幸治
出席者数：49名／会員数：147名 会場：日本赤十字社栃木県支部
健康保険部設置を削除する
- 4月30日 臨時総会 会長：星野幸治
出席者数：42名／会員数：160名 会場：日本赤十字社栃木県支部
健康保険部（現社会保険審査会）設置復活す
8月17日 前事務所 宇都宮市江野町3123より
新 〃 〃 四条町1455-2に移転す
- 9月 1日 臨時総会 会長：星野幸治 出席者数：24名 会場：県会議事堂
会長は健康保険部の部長を兼任する
- 昭和 3年 3月14日 第3回定時総会 会長：星野幸治
出席者数：52名／会員数：166名 会場：県会議事堂
役員全員留任
- 4月23日 臨時総会 会長：星野幸治

- 出席者数：29名 会場：日本赤十字社栃木県支部
- 昭和 4年 3月22日 第4回定時総会 会長：星野幸治
出席者数：63名／会員数172名 会場：栃木県商品陳列所内公会堂
会費15円を10円に減額
- 5年 3月28日 第5回定時総会 会長：推見敏郎
出席者数：44名／会員数：182名 会場：宇都宮市商工会議所
4月8日より事務所宇都宮市馬場町に移転
- 5月24日 臨時総会 会長：推見敏郎
出席者数：44名 会場：栃木県商品陳列所内公会堂
学校歯科医設置の建設書を県知事宛に提出
- 6年 3月22日 第6回定時総会 会長：推見敏郎
出席者数46名／会員数165名 会場：宇都宮商工会議所
- 7年 3月25日 第7回定時総会 会長：星野幸治
出席者数76名／会員数191名 会場：宇都宮市商工会議所
- 8年 3月25日 第8回定時総会 会長：星野幸治
出席者数56名／会員数171名 会場：宇都宮市商工会議所
会費10円を8円に減額
- 9年 3月20日 第9回定時総会 会長：星野幸治
出席者数：148名／ 会場：宇都宮市商工会議所
- 10年 3月28日 第10回定時総会 会長：星野幸治
出席者数：76名／会員数192名 会場：宇都宮市商工会議所
郡市歯科医師会設立議案可決
日歯議員 岡本秀忠 予備議員 林 陸蔵
- 11年 3月26日 第11回定時総会 会長：黒崎 博
出席者数：169名／会員数190名 会場：県教育会館
保険歯科医は県歯会を経由して日本歯科医師会に届出るものとする
- 12年 3月25日 第12回定時総会 会長：黒崎 博
出席者数：76名 会場：県教育会館
日歯議員 長井末吉 予備議員 今村義郎
小幡英之助胸像建設に10円寄付する
- 13年 3月23日 第13回定時総会 会長：黒崎 博
出席者数：145名／会員数：230名 会場：県教育会館
支部設置法案可決 県下8郡市支部とする
- 11月 2日 臨時総会 会長：黒崎 博
出席者数：73名 会場：県教育会館
国民健康保険組合との診療契約締結は県歯会に一任する
9月迄に県下全支部設置済、上都賀支部（足尾地区8名を除く）
- 14年 3月27日 第14回定時総会 会長：黒崎 博
出席者数：68名／会員数234名 会場：県教育会館

日歯議員 長井末吉 予備議員 黒崎 博
 国民健康保険診療始まる 1点10銭
 帝国製麻との保険契約は1点9銭の定額式とした

昭和14年 6月11日 臨時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：50名 会場：県教育会館
 県歯の支部設置は厚生省に認可されず、1郡支部に2支部（上都賀郡支部、足尾分区）

15年 3月24日 第15回定時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：186名／会員数227名 会場：県教育会館
 皇紀二千五百年記念事業として歯科医師会館を設立する

6月22日 臨時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：87名／会員数225名 会場：
 会費12円となる

16年 3月30日 第16回定時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：78名／会員数234名 会場：県教育会館
 4月1日より会館建設積立金を置く 会費15円となる
 日歯議員に駒橋寅春 予備議員松原広三郎

17年 3月30日 第17回定期総会 会長：推見敏郎
 出席者数172名／会員数238名 会場：県教育会館

8月21日 歯科医師会及医師会令公布

11月 1日 国策集団となる

18年 4月20日 第1回定時総会 会長：推見敏郎
 出席者数／会員数：不明 会場：栃木県商工奨励館

19年 3月30日 第2回定時総会 会長：推見敏郎
 出席者数：29名／会員数242名 会場：栃木県商工奨励館

20年 4月13日 第3回定時総会 会長：推見敏郎

3月 7日 勅令102号、戦時特例により総会を召集せず

3月10日 役員会に諮り県知事に認可さる

7月12日 宇都宮、鹿沼空襲さる

12月30日 臨時総会 会長：黒崎 博
 出席者数／会員数：不明 会場：県教育会館

21年 3月30日 第4回定時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：8名／会員数363名 会場：宇都宮市二条町1280
 入江参太郎方
 2月10日事務所宇都宮二条町1280 入江参太郎方に移転す

22年 2月 3日 臨時総会 会長：黒崎 博
 出席者数：10名／会員数423名 会場：入江参太郎方
 事務所狭小につき会館建設したい、会館積立金は1,100円

3月29日 第5回定時総会 会長：黒崎 博

- 出席者数10名／会員数423名 会場：入江参太郎方
副会長 駒橋寅春他役員人事のための総会
- 昭和22年 6月 7日 県歯会館起工式（借地）
- 7月31日 第1回臨時総会 会長：黒崎 博
出席者数：13名 会場：入江参太郎方
会館内診療所開設について
- 8月26日 第2回臨時総会 会長：黒崎 博
出席者数：11名 会場：入江参太郎方
会館を栃木県歯科医師会直営歯科診療所と改名
- 10月30日 第3回臨時総会 会長：黒崎 博
出席者数：7名 会場：入江参太郎方
栃木県歯科医師会歯科診療所落成・式典
住所 宇都宮市埜田町583番地
本会に代議員会を置く、会員20名に1人 端数15名毎に1人
国民医療法廃止（医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律、第3条の規定により）
- 11月 1日 社団法人 栃木県歯科医師会申請認可さる
- 11月 5日 代議員会及び選挙管理委員会開催 宮川 勇会長に公選さる
- 11月15日 第4回臨時総会（解散総会） 会長：黒崎 博
出席者数：6名 会場：塩谷郡藤原町 川治温泉一柳閣
会館建設資金として共済会より借入した7万5千円の債権を新生歯科医師会に寄附する
- 23年 3月28日 第1回総会 会長：宮川 勇
出席者数：70名／会員数420名 会場：栃木県商品陳列所県公会堂
- 3月17日 代議員会で宮川勇会長に選任さる
7月社会保険診療報酬支払基金法公布 このため支払が遅延している
- 24年 3月27日 第2回総会 会長：宮川 勇
出席者数：66名／会員数421名 会場：県教育会館
3月17日代議員会で宮川勇会長に選任さる
怪文書（全解散に伴う共済金粉飾に関し）についての議事あり
- 25年 3月25日 第3回総会 会長：宮川 勇
出席者数：53名／会員数401名 会場：県教育会館
昭和24年11月26日今市地震、今市・日光支部へ32,000円
ほとんど旧会館問題の審議
- 26年 2月 3日 第4回総会 会長：築瀬眞策
会場：県公会堂
昭和25年11月21日 宮川勇一身上の都合により辞任
12月10日 築瀬眞策 会長に就任
- 11月11日 旧第5回臨時総会 黒崎博

- 出席者数：9名 会場：宇都宮市大工町460 黒崎博宅
旧会館清算の件
- 昭和26年11月18日 第1回臨時総会 会長：築瀬眞策
出席者数：102名／会員数380名 会場：宇都宮市昭和小学校
- 12月25日 最終的に会館清算妥結
- 27年 3月 5日 第6回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：66名／会員数380名 会場：県教育会館
保険講習会（保険医の指定前に講習を受けないと指定されない）
- 28年 3月29日 第7回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：99名／会員数：379名 会場：県教育会館
3月2日代議員会で築瀬眞策会長に選任さる
各支部を11支部とする 那須北部と西部を一体化する
- 29年 3月29日 第8回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：70名／会員数：376名 会場：県教育会館
日歯定款改正、日歯会一県歯会一郡市支部はどの会にも加入すること
昭和28年1月20日会館移転地敷地として埴田町380番や田中要次郎
所有の66.66坪を買収
5月19日 会館建築着工
7月31日 〃 竣工
11月17日 〃 落成
敷地買収費 226,600円 総額費 485,000円
建物2階建瓦葺、1階20.125坪、2階15坪、計35.125坪
会員1人2,000円徴収
- 昭和30年 3月27日 第9回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：112名／会員数：376名 会場：宇都宮市中央小学校
3月9日 選挙会（立会人会）で築瀬眞策無投票当選
2月20日 第30回代議員会で保健所の行政区域とする支部設置
県内11支部 宇都宮、上都賀、今市、下都賀、小山、
安蘇、足利、芳賀、塩谷、那須、那須南市（上都賀と今
市支部分離）
- 31年 3月30日 第10回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：329名：会員数390名 会場：県教育会館
保険医総辞退届出を会長に一任する
- 6月 3日 第11回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：184名／会員数：390名 会場：宇都宮市東小学校
保険医総辞退届出を日歯会長に一任する
- 32年 3月23日 第12回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：73名：会員数：397名 会場：県教育会館
3月18日 国際スタジアムで健康保険法改悪反対全国大会開催

- 昭和32年 3月31日 健康保険法等一部改正案両院通過成立
5月 3日 第13回臨時総会 会長：築瀬眞策
出席者数：258名／会員数397名 会場：宇都宮市西小学校
- 33年 3月30日 第14回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：106名／会員数：387名 会場：県教育会館
- 10月24・25日 鬼怒川公開堂で全国学校歯科医大会開催
7月26日 第15回臨時総会 会長：築瀬眞策
出席者数：268名／会員数：387名 会場：作新学院
社会保険一点単価問題について
- 34年 3月22日 第16回総会 会長：築瀬眞策
出席者数：124名／会員数：396名 会場：県教育会館
2月25日 会長選挙で築瀬眞策会長就任
1月6日 会館増改築工事着工
1月18日 〃 上棟式
- 35年 3月27日 第17回総会 会長：田野井重男
出席者数：95名／会員数：401名 会場：県教育会館
昭和34年10月25日 築瀬眞策会長辞任
11月2日 補欠選挙で田野井重男会長に就任
- 36年 3月26日 第18回総会 会長：田野井重男
出席者数：110名／会員数：405名 会場：県教育会館
2月19日 全国一斉休診実行
2月20日 東京九段会館で、医療保険改革全国歯科医師総決起大会
開催 51名参加
- 37年 3月29日 第19回総会 会長：田野井重男
出席者数：162名／会員数：414名 会場：県教育会館
3月25日 支部長会議で国保連合会の支払基金制に協力すること
になったと報告あり
- 38年 3月24日 第20回総会 会長：田野井重男
出席者数：119名／会員数：425名 会場：県教育会館
- 39年 3月29日 第21回総会 会長：田野井重男
出席者数：140名／会員数：432名 会場：宇都宮中央小学校
会館住所 宇都宮市塙田町38番地より宇都宮市本町11番13号と住
所変更
- 40年 3月28日 第22回総会 会長：大塚 禎
出席者数：111名／会員数：437名 会場：県教育会館
- 41年 3月27日 第23回 会長：大塚 禎
出席者数：147名／会員数：441名 会場：朝日生命会館ホール
- 42年 2月19日 第24回臨時総会 会長：大塚 禎
定款一部改正 安蘇郡支部を安佐支部に

昭和42年 3月26日 第25回総会 会長：大塚 禎
出席者数：116名／会員数：439名 会場：足利銀行本店

43年 3月31日 第26回総会 会長：大塚 禎
出席者数：97名／会員数：444名 会場：日本生命ビル4階
昭和42年11月23日 第60回代議員会で会館建設が決議さる
43年2月11日 会館建設特別委員会設置

44年 3月30日 第27回総会 会長：大塚 禎
出席者数：127名／会員数：447名 会場：朝日生命ビル6階

45年 1月25日 第28回臨時総会 会長：大塚 禎
会場：第一生命ビル7階
会館建設について
敷地 宇都宮市一の沢町508-1栃木県食品工業指導所敷地の一部
使用許可（昭和44年7月6日、栃木県知事より）
設計 株式会社中山安三建築事務所
建物 敷地1階、地上1階、2階建て1棟延1,391.5㎡（421坪）
肢体不自由児歯科診療及び口腔保健事業の併設施設
地下1階、地上2階建、1棟延388.8㎡
資金 会員負担金 20万円（死亡、大会時75%相当額を償還する）
建設費 107,864,000円

3月29日 第29回総会 会長：大塚 禎
出席者数：296名／会員数：455名 会場：第一生命ビル7階
怪文書出回る、所謂第一生命医師会問題起こる

46年 3月28日 第30回総会 会長：大塚 禎
出席者数：197名／会員数：452名 会場：栃歯会館2階

1月26日 県歯科医師会館落成記念式典
6月11日 肢体不自由児歯科診療所開所式
10月 5日 “ 診療開始

7月1日～13日 中医協における「審議用メモ」に端を発し保険医総辞退問題で保険
医登録抹消届をまとめて保管中

7月30日 取下げ

47年 3月26日 第31回総会 会長：大塚 禎
出席者数：198名／会員数：455名

48年 3月25日 第32回総会 会長：大塚 禎
出席者数：111名／会員数：458名

49年 3月31日 第33回総会 会長：大塚 禎
出席者数：134名／会員数：462名

鹿沼歯科医師会 村本 明：記

第3章

鹿沼歯考・アンケート 受賞(章)者一覧 上都賀歯科医師会史寄贈後の 礼状及び寄贈依頼

鹿沼歯考・アンケート



畑 二郎

(大正13年8月3日生)
東京医科歯学専門学校
昭和23年卒

[アンケート]

趣味：読書



高崎 道子

(昭和5年2月22日生)
東洋女子歯科医学専門
学校 昭和25年卒

夢や希望

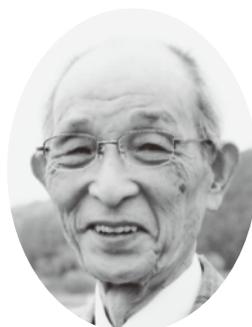
今年2月で85才となり、鹿沼歯科医師会の中で2番目の高齢になってしまいました。

終戦後のきびしい時代に東洋女子歯科専門学校に入りましたが、1学期は食糧難で2ヶ月弱で、夏休みに入りました。今でこそ都会ですが、学校は千葉県の習志野、軍隊の兵舎でした。教科書もガリ版刷りのもので醜いものでした。そんな状態でしたが、なんとか4年間で卒業。国家試験も受け、20歳で歯科医となり、今日まで65年歯科界に、お世話になりました。そんな事ですから、女学校時代は戦時中軍事工場（富士重工）に動員され終戦後も農業の時間が何回もあり、学力はまことに貧弱なものでした。（そんな事は言い訳にならない。）と叱られますが、こんな貧しい者を会員の皆様に支えられて来ましたこと感謝いたします。この年齢になると、皆様が親切にして下さり、旅行の時も、早朝の出発には車でお迎えがあり、（それ

には、（ハプニング4時集合に目覚しをかけた筈が鳴らずに、お迎えの畑先生にハラハラさせたり）楽しい旅行も1人ではとうてい行く事の出来ない素晴らしいところでおいしい最高の食事に、満喫させて頂き、皆さんにお世話になって、年一度の旅行を楽しみにして居ります。最近役所や県からの書類の報告など大変です。そんな状態で常会に行きましても、時々佐川会長の高崎先生解りますか？何んと愛情！を注いで下さったり、まことに、鹿沼歯科医師会は、和やかな中に楽しく過ごさせて頂いています。どうかこの様な老人、今後とも宜しく願います。今世の中、自然災害や、世界中で危険な醜い戦いがあり心配です。戦争だけは絶対のない平和な世界でありますように、鹿沼歯科医師会の上に祝福祈ります。

[アンケート]

趣味：旅行、おいしいもの食べ歩き



茂呂 允

(昭和11年4月10日生)
日本大学歯学部
昭和37年卒
同大学院口腔外科学教室

子供の頃は新島貫一先生がピッチャー私の父がキャッチャーで県の常設球場に於いて県歯科医師会野球大会に父親に連れられて参加とゆうか見学と応援に行ったことが子供の頃の思い出です。今度は昭和37年に歯科医師として入会をし一番若い駆け出しの歯科医師ですから歯科医師会のあるときは30分前に会場（埼玉銀行）に会場の設営とお茶の用意をするのが若い会員の仕事始めでした。当時の先輩の先生方は一言居士が多く議論百出でなかなかことが進まず支部長の先生は大変

だったろうと思っています。もちろん私のような若い会員の発言等は無し。こんな昔のことを考えると歯科大学も29校を数えるようになるとさぞかし大変だろうと思いますが、あにはからんや平和で静かな支部になり一入の思い。こんな支部長中心の良い会になったと約53年前を振り返りながら私も数え80歳になり、先輩の先生方も畑先生と高崎道子先生の2人が残っている今日この頃です。

[アンケート]

趣味：盆栽

特技：空手道 五段（師範）

取って置き：

秋田犬保存会において 名誉賞（最高賞）
2回受賞、その内1回は 犬名 ハッ房号にて幼犬、若犬、状犬、成犬の4つ完全制覇は保存会で初めて



茂呂 周

（昭和14年9月9日生）

日本大学歯学部

昭和39年卒

[アンケート]

趣味・特技：

音楽鑑賞（デキシールランドジャズからクラシックまで）

私の取って置き之物：

メンデルメダル（メンデル受賞時に授与）

ガーネット付きネクタイピン（ガーネット免疫グロブリン受賞時に授与）

私の取って置き之場所：

私の研究上のボスはチェコの春の事件でアメリカに亡命し34歳でアラバマ大学の教授になった秀才である。私が留学した時にはう蝕ワクチ

ンの開発に携わっていました。私が日本に帰国後も家族ぐるみで交際しています。

1985年、チェコのプラハで微生物学会があり、初めて共産主義時代のチェコにボスの代理で参加しました。当時、共産主義国の荒廃し悲惨な状態のプラハに行きましたが、その時、唯一の楽しみは研究ではなくクラシック音楽で、プラハ城内のセント・ジョージ教会でモーツァルトの曲が聞けたことでした。以後10数回プラハに行きましたが、メイン・ストリート、ヴァーツラフ広場の突きあたりにあるエステート劇場でオペラや交響曲等を聞くことにしています。この劇場はモーツァルト自身が指揮し、ドン・ジョバンニを演奏した場所です。ここは世界でただひとつ、モーツァルトが指揮した当時のまま現存している劇場です。映画“アマデウス”の撮影場所でもあります。一見に値すると思えます。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

当時、私は肺癌の治療のため日大の板橋病院に入院中で、テレビを見ておりましたが、テレビが部屋中を動き回っていたのには驚きました。病院のナースステーションにはテレビが無く、看護師長が小生のテレビから情報をとっていました。初めの‘揺れ’の後、次の余震の時は看護師全員が病室の入口のドアに椅子を挟んでいつでも退避出来る様にしたことには感激しました。

90周年にあたり思うこと：

継続は力なりといいますが、本会がこれから100年、200年と発展し続けることを祈っています。



木村佐智子

(昭和16年6月29日生)
東京歯科大学
昭和41年卒

最近思う事を少し……

カルテ書きに追われて、文章を書く事から遠ざかった生活をしています。

これから医療はどう変わるのでしょうか。たとえ、どう変わったとしても、人間の手で行う事の貴重さは、変わりありません。

患者さんの個性を大切に、口腔の現状をあまり大きく変革しないよう心がけてきました。口腔内はバランスだと思います。その人にあった状態にするよう気をつけてきました。いろいろ問題はあるけれども、自分の仕事を持たせしあわせを感じる昨今です。あと何年も仕事にたずさわることには出来ませんが、出来る限りやってみたいと思っています。患者さんから、たくさんたくさん、多くの事を学ばせていただき、教えられてきました。患者さんに感謝です。

[アンケート]

趣味・特技：合唱団の一員（アルト）



金子 智英

(昭和19年1月1日生)
日本大学歯学部
昭和43年卒

間もなく歯科人生半世紀

私の歯科人生現在47年目、金子歯科医院、創業94年、あと6年でオリンピックの翌年に100周年を迎える。そこで約半世紀をふり返って見る事にした。

1964年(昭和39年)最初の東京オリンピックの開催の年、この頃の日本の歯科環境は今思うと惨さんたるもの患者数に対し歯科医師の数が少なく、3時間待って3分治療といわれ、コーラ、乳酸飲料が大はやり、治療内容は抜髄は亜比酸で失活、根充はワッテ根充、クラウンは前歯は開面金冠、白歯はサンブラの無縫冠、歯槽膿漏になったら抜くしかない、3万回転の電気エンジンで歯を削りの診療をしていました。

1947年日本歯科医師会が設立

1951年米国歯科医師会の使節団は日本の現状開面金冠とバンドクラウンを見て、金歯の廃止の勧告を日本歯科医師会に対してしているという歴史があります。それからもう1つの亜比酸は日本の近代歯科医療に多くの影響を与えてくれたビーチ先生はこのバンドクラウンと亜比酸をやめましようとして以前から唱えていた。当時私が大学にいた時、日大歯の臨床教授であった日大歯は亜比酸とバンドクラウンをやめた最初の大学となった。

1960年(昭和35年)ビーチ先生と日米歯科医院の峯田拓弥先生はCDCとリラスタディクラブを設立。ビーチ先生は1963年(昭和38年)にスペースラインをモリタでつくられ、水平診療が始まった。ビーチ先生のモダンデンティストリー

が導入され、そのカルチャーショックは大変なものでした。

患者管理はアポイントシステム、一口腔単位の計画診療、抜髄は麻酔抜髄で前歯はポーセレンジャケットクラウン、白歯は鑄造冠、30万回転のタービンとバキュームという時代に入った。

1968年（昭和43年）日大歯学部卒業、父が高齢のためすぐ家業を継ぎながら大学に研修に通っていた。

1969年（昭和44年）あるついで神戸で〇〇RG（大阪のスタディクラブ）総会に出席、その後CDCに入会

1972年（昭和47年）研修ブームが始まる。

1974年（昭和49年）熱海のビーチ先生の研修センターHPIの3dayコースを受講、今まで一番印象に残っていて一番勉強になったコースであった。

1981年（昭和56年）最後の例会発表でCDC退会。

2010年（平成22年）CDC50周年記念誌発行。

2021年当院の100周年を当面の目標として精進してまいりたいと思います。

〔アンケート〕

趣味・特技：音楽、スポーツ

私の取って置きの物、場所：

取って置きの物 益子焼の花瓶

場所 那須の真庭牧場からの景色

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

当日は治療中で患者さん2名。少し揺れが大きく、長いので外に避難。被害はなかった。



中田 嘉之

（昭和19年6月22日生）

東京医科歯科大学

歯学部

昭和77年卒

海外旅行の楽しみ

私は知らない地方や国を旅する事が大好きです。初めて海外を旅行したのは、23歳の時の昭和42年7月～8月の約2か月、医学部の友人と2人で東南アジア8か国を貧乏旅行した時でした。安い宿に泊まり、船や電車やバスで移動し、地元の方々との温かな触れ合いは、旅の素晴らしさを強く感じました。美しいアンコールワットやベトナム戦争さなかのサイゴン市内など強烈な印象を受けました。大学卒業後、研修時代、開業、結婚と旅する余裕が一時持てなくなりました。子供が小学生になった頃から、子供達に旅行の素晴らしさと、異文化を体験させようと、再び東南アジアやハワイなどに毎年旅行するようになりました。仕事もスタッフも安定してきましたので、従業員旅行を海外旅行にして、スタッフにも異文化の体験や旅行の楽しさを味わってもらいました。香港、台湾、タイ2回、シンガポール2回、ハワイ2回などに行きましたが、スタッフ達も仕事を辞めてからも、旅行の楽しかった思いでは持ち続けているようです。2001年銀婚式の記念に家内と2人だけでスイスを旅行しましたが、それから年1回か2回、主にヨーロッパ方面の旅行をするようになりました。昨年はハンガリー、チェコ、オーストラリアに行きました。今年は3回目のスイス旅行を計画しています。過去の旅行の記憶を辿ると合計55回、28ヶ国を旅しました。旅の楽しさは、まず仕事を完全に忘れる事が出来る事、海外の文化や歴史的遺産を直接体験出来

る事、自然の美しさに感動出来る事、美術館で素晴らしい原画を見て感動出来る事、それぞれの国の美味しい食事を頂き、ワインやビールを楽しむ事などです。現地の言葉を勉強して行くと楽しいですね。英語やドイツ語だけでなく、フランス語、イタリア語、スペイン語、タガログ語など勉強しましたが、簡単な挨拶が通じるだけで、現地の人の対応が良くなり、旅は更に楽しくなります。



鯨原 公子

(昭和27年7月4日生)

鶴見大学

昭和52年卒

この度は、鹿沼歯科医師会創立90周年おめでとうございます。

私は、日々の診療を終え、一日の終わりに飲むビールを楽しみに生きています。休みの日には、お手頃な食材や少し値が張っても好物のものなどを買い求めに外出します。還暦も過ぎ、遠出はあまり得意ではありませんが、国技館で行われる大相撲にはよく繰り出します。一昨年には、一緒に診療している長女が結婚し、家族が一人増えました。今年は次女が結婚し、嫁に行くことになりました。欲を言えば、長女がもう少し熱心に働いてくれるといいのですが。旅行はあまり好きではないので、夢はというと、ちょっと働いて食事を作ったり庭仕事をしたり、母のように認知症にならずに生きていきたいです。

[アンケート]

趣味・特技：スポーツ観戦

私の取って置き：2人の娘達です。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

診療中でした。総義歯のImp中でした。(時計をながめながら) スタッフはプロパンの元栓を止めに走りました。待ち合い室のドアを開け走りました。被害無し、ありがたい事でした。



川嶋 仁一

(昭和26年2月6日生)

日本歯科大学

昭和50年卒

[アンケート]

趣味・特技：旅行、ゴルフ

私の取って置きの場所：

米国オレゴン州ポートランド

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

米国のDr達から多くの安否確認のメールを受信し、規模の大きさを実感しました。

また、米国による友達作戦の迅速な対応には、感銘を受けました。



村本 明

(昭和21年4月14日生)

九州歯科大学

昭和47年卒

30代

獨協医大口腔外科を辞し古里鹿沼に帰る。

伝統ある上都賀支部に入会する。趣味「歯科医師会」という人達に逢う。

県歯の広報編集室員となる。多才な趣味の先輩

方がいた。

生涯の友と出会えた。

趣味「京都」「加仁湯」のオジさんとお付き合い始まる。

「原始林窯」と「紺屋」と友達になる。

食（美味、珍味）と器（ぐい呑、徳利、食器）の師匠と仲良くさせてもらう。

40代

生命保険の契約更新で糖尿病発覚。浴びる程呑んでいた日本酒を芋焼酎に変える。

紺屋新兵衛さんに藍染で円相の掛軸を造らせてもらう。

鹿沼中央小の同窓会「昭和34会」を結成。個性的で異業種の仲間ができた。現在迄日常生活で助け合うことができる友達集団となっている。

美術館、博物館、窯元等を巡る。

50代

娘が結婚する。ほとんどの歯が動揺し抜ける。

「あづま寿司」と「やきとり枝」「みしま」の暖簾を紺屋さんに作ってもらう。

韓国の窯場「利川（イチョン）」、国立博物館を巡る。

京都天竜寺の法堂の杉山画伯が描いた、竜を見学した時、僧侶が一行4人を質問責め。ある時最後に質問はと聞いたので「逆鱗」はどこにありますか、僧侶……。別院に招待され抹茶をいただいた。

60代

父永眠。母脳梗塞で左半身不随。息子結婚。娘韓国へ移住。

県歯百周年記念誌、上都賀歯科医師会史刊行に参加する。色紙に絵を書き始める。

瓢箪、徳利、貝を彫刻した。

息子長男誕生。我家で唯一血液型が同じ、妙にうれしい。

（IPS細胞）（スタッフ細胞はあります）が必要な眼の病に罹患する。

眼の心が見えず周囲が見える為、白杖をついて歩行することができる。ありがたいと思えるのに1年かかった。

孫3首

この空は 続いているのか 韓国（からくに）へ
入道雲よ 孫は元気が
木の芽時 異国に移住 孫達は
苦楽とともに 三ととせぞ過ぐ
古刹にて そっと寄り添い 手を握る
孫と二人で 明日を語らん

酔摩仙人

70代

長野出身の嫁の両親とお互いに同い年なので、長野の家族と我家と韓国の娘の家族と共に古希の祝いを企画中。

〔アンケート〕

趣味・特技：絵画、陶芸、印刻だった

私の取って置き：

大沢住 故宝龍齋秀延（湯沢秀男）作鯉節削り器と印刻刀

黒羽住 故紺屋新兵衛（小沼寅三郎）作柿渋の屏風

大田原住 故八十沢啓造作竹細工背負子の花入

善峰寺の吹雪と紅葉、真如堂に敷きつめられた紅葉葉。

夢でみた天国。糖尿病も眼病もすっかり全快し待っていた友人と朝から酒飲み放題。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

宇都宮駅東に住んでいた嫁は孫を抱いて14階の非常階段を2往復し、6時すぎやっとタクシーで鹿沼にたどりついた。

いざという時に役にたたない携帯電話や電話は何の為に存在するのか。

計画停電は先ず国会議員と東京都民に是非プレゼントを…。



小林 幹夫

(昭和29年1月22日生)

日本歯科大学

昭和53年卒

夢や希望について

この原稿の依頼が届いたのはくしくも小生が県議会議員の選挙4期目の当選を果たすことが出来た翌日のことでありました。鹿沼歯科医師会の全面的なご支援で今回の選挙を勝ち抜くことが出来ました。市議会議員を4期県議会議員を4期合計8回目の選挙の中で最も厳しい選挙に勝利できました。後援会の総連合会長に県歯科医師会の常務理事を務めています瓦井先生に4期連続で就任していただき今回は大変なご心配をおかけしましたが無事当選でき大変感謝申し上げます。そして佐川鹿沼歯科医師会会長には社会的立場が大変難しい(鹿沼市教育委員長)でありながら会を統率いただき大変な大きな票を歯科医師会の皆様からご協力頂きました事にも感謝申し上げます。県歯科医師会におきましても柴田会長を先頭に全県下の会員の先生方からも多くのご支援を頂きました。その結果この勝利は歯科医師会の組織力の結集による勝利であるといっても過言ではありません。市議会議員に初当選以来今年で28年になります。当時は医療界からの議員は県内の市議では私一人であり県議は足利の吉谷先生一人という状況でした。私が政治の世界に入るきっかけはその吉谷先生の歯科医院に勤務したことがこの始まりであったと思います。歯科医師と医師の格差の是正や校医手当の格差、検診に対する自治体の認識の低さ、など挙げれば枚挙の暇がないほど歯科医師を取り巻く環境は大変厳しい状況からのスタートであったことを覚えています。そして歯科医師の急増による供給過剰による問題はさらに深刻の

度合いを深めていったと思います。そんな中歯科医師会の先生方に支えられてよくも28年の長きにわたり地方議会の一員として活動できたのかなと改めて感謝申し上げ初心を忘れずに今後の4年間を会の発展のために微力ではありますが先生方のご指導の下で活動して行こうと思っています。目前に迫った超高齢化の問題は避けて通ることの出来ない問題であり今年から始まる地域包括ケア制度の確立に向けての仕事が最初の大きな仕事になると思います。

[アンケート]

趣味・特技

趣味は読書、旅行、ゴルフ(どれも時間が無く何々無理)

特技は、いつでもどこでも寝る事が出来る。

私の取って置きの話:

市議会議員4期、県議会議員4期目で約30年近く地方政治の最前線に居たので信じられないような、又、後から考えるとおもしろい話がたくさんありますが個人のプライバシーもあり話をする事が出来ないのが残念ですが……。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が?

県議会議員の選挙期間中で個人宅でミニ集会をやっている時に地震があった。選挙カーが自粛で使用出来ず、メガホンを使用して歩きお願いをさせて頂きました。貴重な経験が出来ました。



佐川 徹三

(昭和28年8月28日生)

日本歯科大学

昭和54年卒

「鹿沼歯考」に寄せて

『桜の花に思いを寄せて』

物心がついた頃から桜の花が無性に好きで、季節到来すると気もそぞろに訳もなく胸が踊ると同時に、むしろ余りにも愛おしく感傷的になるのは何故だろうと、考えることがある。

記憶は定かではないが、恐らく三、四歳の頃、自宅の裏庭に桜の木があり、大きな犬(シェパードらしい)と歳の離れた姉と、それこそ桜舞い散る中で戯れていたという心象風景が昇華され、心に残っている。

それと重なるように、亡くなった兄の事が思い出されるが、長じていつの間にか桜の木は庭から消え去っており、生前祖母から聴いた話では、迷信だろうが「桜の木があると長男が育たない」という事で寄贈移植してしまったらしく、そんな事が桜に対する複雑な感情を醸成させているのかもしれない。従って桜を見ると顔も知らぬ兄を思い浮かべ、幼き頃の自分を俯瞰するのだ。

因みに、その「兄の桜？」は家近くの雲龍寺の閻魔堂前にあり、毎年少し控えめの涼やかな花を咲かせ、訪れる市民の目を楽しませている。

桜花の季節。日本列島は南北に伸びているため、見頃を過ぎるところもあれば、これから開花を迎えるところも、というように桜前線は北上する習いだ。その為に桜にまつわる言葉も数え切れない程あり、皆趣きがあるように思う。花冷え、初桜、桜雨、桜狩、桜風、花明り、花吹雪、花霞、花時、花筏、桜影、桜陰そして花見…「花見酒花びら一つに願をかけ」何れにしても満開を愛

でられる時は短く、数日も経てば風花となって、散り行くのもこれまた定めでもある。

だが、桜の花は散るからこそ一層美しく、人々の心を惹きつける。人はつかの間の花の盛りを楽しむと同時に、その散りゆくさまを見て、様々な思いを巡らせるのではないか。

その時にこの世は常に移ろい、人も物もすべては何れ消えてしまうのだと無常観にとらわれると心は沈み、厭世的になるのかもしれない。逆に、儚いからこそ今のこの時、この瞬間が大切なのだとプラス思考に考えられれば、心がひらけ、すべてのものが愛おしく思えてくる。

また、桜の散り際の潔さを、日頃から様々な執着が生じ、自我や欲更には色々な煩惱を断ち切れない自らの姿に重ね合わせ、身の処し方、生き方を正す事も出来るだろう。

とは言うものの、出来ない自分があるのも、また事実だが…

同じものを見ても、見る角度によって、心のありようが随分違って来る。日々の何気ない些事も同じではないか？春爛漫、散りゆく桜に我が身、我が心を添わせ、明るく確実に明日を生きる力にしたい。同時に交通事故で夭折した兄と桜をよすがとして語り合えればと願っている。

風誘う花の行方はわからねど惜しむ心は身にとまりけり
西行

[アンケート]

趣味・特技：

読書(特に歴史物) 美術鑑賞(特に焼き物、仏像)

食べ歩き(三ツ星からB級まで許容範囲広し)

旅行(京都や金沢、温泉巡り) 焼酎・スコッチウイスキー

特技(無芸大食)

私の取って置き物、場所、話 etc :

1、里山の風景、特に青葉若葉の新緑の頃

2、菖蒲の花咲く薫風の青い空

- 3、紺碧の空を背景に下から見上げる満開の桜
- 4、好きな肴と取って置きのぐい呑で遣るひと時
- 5、晩夏の夕暮れ時の蝸（ひぐらし）の声
- 6、水中眼鏡をつけて澄んだ川の潜水
- 7、馥郁たる薔薇や百合の香り
- 8、秋祭りにおける神社繰り込み後の灯の入った彫刻屋台
- 9、温泉に浸かつて何も考えないで頭の中をリセットしている時
- 10、家族や仲間と非難や中傷無しの和気藹々とした飲み会

私の東日本大震災 3.11 私の周りでは何が？

忘れもしない2時46分、歯周外科を始めた時で、患者さんにしがみつかれ皆んなで固まってしまった事をよく覚えている。あたかも時が止まったかのようだった。また、倅は大学の卒業式の日で夕刻から予定の謝恩会の為に着替えてアパートに戻った時に大地震！当然謝恩会は中止となったようだ。



菊地 香

(昭和25年1月25日生)
東京歯科大学
昭和50年卒

[アンケート]

趣味・特技：

病気で入院等をしてから、大好きだったゴルフや釣りも断念。

私の取って置きの物：

海水魚の飼育とマリンアクアリウムにはまっている。現在までに20数種類、しかも日本では大変貴重な海水魚等も飼っていた。何れにしても毎日癒されており、現在かけがい

のないモノになっている。

私の東日本大震災 3.11 私の周りでは何が？

頰椎ヘルニアで東京歯科大学市川総合病院に入院中に大震災が発生した。

その時、6階の病室に居たが、病棟全体が大きなうねりのような揺れを体感。

通常は6階から地面は見えないが、揺れる度に地べたが視野に入った時は、本当に肝を潰したのを、昨日の事のように覚えている。



田辺 章

(昭和30年3月12日生)
城西歯科大学
昭和54年卒

[アンケート]

趣味・特技：鮎釣り、植木の手入れ

私の取って置きの物：

自作の鮎たも網

今年咲いた白花アカヤシオツツジ

私の東日本大震災体験 3.11私の周りでは何が？

翌日、駐車場と車庫のコンクリートに地割れが有った。地盤の弱さにびっくり。



茂呂 兀

(昭和16年5月31日生)

日本大学 歯学部

昭和43年卒

旅の思い出 (43年前の出来事)

昭和47年4月公園のベンチに座ってキラキラ輝やいているドーム型の金箔屋根のあるCity Hallを背景に写真を撮っていた。ベンチの前を中年の中国人らしき人が行ったり来たりしていた。教授と会話中突然その人がベンチの前に立ちはだかり、お前は日本人か。ハイそうです。

どこから来た。東京から来ました。なんの目的でここに来たか。全米矯正歯科学会出席のため、目の前のデンバーヒルトンホテルに来ました。

Oh!そうか、お前は吉田松陰を知っておるか。少しですが知っております。俺は松陰の親族である。名前は佐々木正助と自己紹介された。その後お話を聞いてみると、1ヶ月前に奥さんを亡くし子供はいない。ハミルトン保険会社を定年退職後、妹の住んでいるシアトルに行くとのこと、父親は捕鯨船に乗っていてカナダより脱走して、アメリカに来て土着する。気骨のある人らしく、ある国会議員が来て、あなたを“Japs”と呼んでいいかと聞かれ“Oh Yes!”と答えたそうです。“Japs”という言葉は日本人に対する侮辱的な言葉で、猛然と抗議して新聞社に謝罪させた。戦後日本に来て、松陰先生との書簡集の半分を山口県の博物館に寄付した。残りの半分は自分が持っている。

その当時の記事がのっている新聞をみせてもらった。松陰先生のふるさと一維新の里をめぐりーの本によると、藩士、佐々木孫左衛門さんの妻は松陰の叔母で正助さんの父親は松陰先生と従兄弟同士となる。その子小次郎(松陰の兵学門下生)は維新後徳島県へ奉職する。デンバー滞在中はほ

ぼ毎日夕食を共にした。佐々木さんの休日に、昔金が産出した当時のOld townやRed Rocksという観光地にもつれていってもらった。この当時の日系人は日本が敗戦国で、まだまだ貧しかったので、面当をみてやろうという気持が多くあったのではないかと思う。その後シアトルに移っても、手紙のやりとりは続いた。私の甥がニューハンプシャー大学院を卒業するのだが、その前に英会話学院のあるシアトルに行っていた。老人ホームに入っていた正助さんとお会いすることが出来て、元気であったとのこと。その後、手紙のやりとりは途絶え、多分亡くなってしまったと思う。偶然とは言え、すばらしい出会いに遭遇し、お世話になった吉田松陰先生の甥・佐々木正助さんには今でも深く感謝している。現在放送中のNHK大河ドラマ“花燃ゆ”では松陰先生・妹(文)の物語で、その夫小田村伊之助は維新後官吏となり群馬県・県令(知事)として活躍し、貴族院議員など歴任する。ドラマに対して、興味津津と感じ見入っている。多分誤りはないと思うが佐々木さんの言葉と資料などから判断して書いてみました。その正確性については確認されていない。

代が変わっても親戚のご家族は存続しているものと思われる。機会があればお会いしてお話しでも出来れば幸いです。

[アンケート]

趣味：

盆栽一般(さつき、水石を含む)、(月刊)近代盆栽(近代出版)、(月刊)さつき研究(枳の葉書房)愛読中、その他植木鉢収集など。取って置き物

大震災後、生き残った(朱泥)外縁雲足長方鉢、[子林仿古型]、大昭渡支那鉢、少しずつ数年かけて集めて来た支那鉢は今回の地震によって、観賞用棚段より落下して粉粉になってしまった。ショックを受け、ただ茫然としている。再度集める気力なし。今ではもっぱら安和鉢(3000円前後)鶴萌清湖鉢とか、越前文山鉢

など、買って楽しんでいる。

私の東日本大震災体験 3.11私の周りで何が？

震災体験はそれぞれ各自、多方面にわたり多く経験されたと思う。今回は家の状態のみ報告する。昔は山だった所を造成して宅地化したので、地盤が弱い、従って強烈な地震波を受けた。大谷石の門柱は前かがみになって前傾してグラグラ状態（危険なので撤去）、外壁のコンクリートに亀裂が入ったりまたコンクリートの壁も落下した。1階と2階との接合部も垂直的に破断、家本体と地面との間に10cm程度の間隙が連続的に生じた。当然家の内部も破壊された。

地震保険の保険金が認められる程度のかかなり大きな破壊状況でした。しかし保証金は息子の大学の授業料に化けてしまった。現在でもそのままの状態、修理しなければならないと思っている。



鈴木 節雄

(昭和25年8月18日生)

日本歯科大学

昭和51年卒

あと15年で平均寿命に

1983年3月18日 ディズニーランドが竣工式を迎えた。——開園は4月15日——そして4月1日 僕の診療所もオープンした。ディズニーランドはその後バブルの波に乗り、そして巧みな経営手腕により業績を伸ばし、行ってみたいテーマパーク1番手になった。開園10周年、20周年、30周年その節目ごとに、また何かのイベントごとにマスコミ等で報道され、国民の耳目を集めてきた。

目を転じて、我が診療所を向いて見ると、ディ

ズニーランドのような華やかさはなく、今にも切れそうな絹糸のごとくであった。TV等でディズニーランドの雄姿を見るとこちらも頑張らなくては、ディズニーランドが続く限りこちらも続けなくてはと 小さな闘争心を持ったが…でも冷静に考えて見ると、比較対象とする事物との次元が違いすぎ、そんなことは意味の無い事のような気がした。

開業してから30余年が過ぎた。生を受けてからのそれと開業してからのそれとでは時間の速さがあまりにも違った。今は1週間があつという間に過ぎ1ヶ月、1年と光陰矢のごとし。年齢が増すごとに時の過ぎる速さも増すようだ。このまま加速度のついた時間に乗って人生終焉に向かっていくのか？

さて、今年の8月で僕は65才に。平均寿命男性80.2才（2013年）までは15年。あと15年も有ると思うか15年しか無いと思うか、人様々。只

現実に15年は存在する。その時間をどうするか？無為に過ごすか 有為に過ごすか？

僕は生来高い所が性（しょう）にあっているようだ。そこで眼下を見おろし快感を得る。高い山より、高層ビルより、飛行機から、そして、パラグライダーに乗って。ただ未だ経験していない物も有る。熱気球、バンジージャンプ、スカイダイビング、軽飛行機etc。これらの中でスカイダイビングを次にやって見たいが…、もし下降中パラシュートが開かなかつたら？高い高い所に有る（？）黄泉の国に行ってしまうのか？そこで現世を見おろすのか？…それは本望だが…。ただ何かの手違いで、あるいは普段の行状の当然の結果として、深い深い怖い所に行って闇夜しか見られなくなってしまうのか？危惧している所有る。そうならないようにこれから言動を悔い改めたいと思っているが、少し遅いかな？

〔アンケート〕

趣味・特技：

アウトドアスポーツ

私の東日本大震災体験 3.11私の周りで何が？

予想だにできなかった「3.11大地震」いつ何が起こるかわからない。不測の事態に備え常に準備をしておくことが必要と認識。



瓦井 昭二

(昭和25年8月18日生)
東北歯科大学
昭和53年卒

上都賀歯科医師会が一般社団法人鹿沼歯科医師会と名称が変わり、任意団体だった本会が一般社団法人に変わり、さらに鹿沼歯科医師連盟の設立という激変の時期を乗り越えてくれた執行部の皆様の努力に心より感謝を申し上げたいと思います。

創立85周年記念の上都賀歯科医師会史が発刊されてから5年、再び原稿を書く機会を与えていただきました。

私も歯科医師会に入会させていただいてから32年もたってしまいました。診療に会務にそれなりに頑張ってきましたが、平成21年12月、山陰の支部旅行から帰ってきてから血圧が上がり1週間ほど入院しました。肉体にはそれなりに自信を持っていた私でしたが、もう少しまともに生きていたいなら節制をなさいと医者から言われてしまいました。1年365日ほとんど酒を飲まない日がなかった私が、半年間1滴も飲まず暮らしました。なるべく酒を遠ざける日々は現在も続いています。それなりに体調も戻りつつあり、何とか頑張れる状態になってきました。新入会員が少なく、若手会員が少ない現状の中、60代70代の先生方も現役として会をひっぱっていかねばならないと思っています。私も60代の一人としてお手伝いをさせていただければと思っています。

会員のみなさんが、参加し、意見を交わし、お

たがいを尊重しながら協力することでいい会ができていくのではないかと考えています。今後ともよろしくお願いします。



瓦井 紀子

(昭和29年4月9日生)
東北歯科大学
昭和55年卒

〔アンケート〕

趣味・特技：ピアノの練習、ガーデニング
私の取って置き：

プリウスで音楽を聞きながらドライブすること。取って置きというより、毎日の日課のようなものだが、大好きな時間です。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

給油のために何キロにもわたって車の行列ができていた。私は偶然運良く前日に給油していたし、夫も12日に給油したので、行列しなくてすんだけど。



石崎 誠

(昭和32年1月1日生)
城西歯科大学
昭和56年卒

〔アンケート〕

趣味・特技：ゴルフ、旅行、絵画
私の取って置きの物、場所、話 etc：
赤倉観光ホテル 127号室

シギラベイヤラマンダスイート

ボナリ高原

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

大切にしていたランプが壊れてしまった



菊地 均

(昭和27年1月24日生)

東北歯科大学

昭和54年卒

[アンケート]

趣味・特技：映画鑑賞。

私の取って置き物、場所、話 etc

たくさんありすぎ、筆記できず。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

日常が日常で無くなる事の恐さ、自然の大きさにいとも容易く潰される小さな人間…。謙虚にならねばと感じ入る。

執着せず、潔さを心情に孤高に老いる事の大切さを学んだ。又、たたかれても起き上がり、前を向く人々に、心からのエールを送りたい。



斎須わか子

(昭和24年1月1日生)

岩手医科大学歯学部

昭和48年卒

鹿沼歯科医師会90周年によせて

鹿沼歯科医師会が先輩の先生方により立ち上げられ、早や90年。長い歴史を経ているようです

ね。

私の開業している西方町が栃木市に合併という行政の大改革が4年前にありました。支部入会をどちらにするのかという時、今さら他の支部への入会も大変であろうと、これまで通り鹿沼歯科医師会に入会していいという特別の計らいをしていただきました。本当にありがとうございました。

鹿沼歯科医師会では、他の支部では味わうことができないであろうことをたくさん経験させていただきました。その中でも私にとってピカイチなのが、年1回行われている支部旅行です。決して一般人は踏み入ることのできない場所、歴史的・伝統的な催し物などの見学、そして、この旅には欠くことのできない極上の食事は、とても思い出深く楽しいものでした。

今、私がやりたいことのひとつに、“健康に”ということがあります。現在、主人を介護している最中ですが、いかに健康が大切か、老いといかにつきあっていくかということ日々考えさせられています。健康というものを考えた時に、他人さまのお口の健康の手助けをさせていただきながら、一方で自分の口をおろそかにしてきたことは、手落ちであったと言えます。自分がやることのできなかった治療を、やれなかった治療を、今我が身に体験しなければならないのは、勉強になるといえばそうですが、反省と不安でいっぱいです。

私の残る人生は、健康を考えた生き方かけようと思っています。

[アンケート]

趣味・特技：読書、食べ歩き

私の取って置き話：

今年の3月私の主人は7年半の悪性神経膠腫との戦いののち天国にめされました。脳以外全く悪いところはなかったのですが、脳からの指令に障害がおきると、最後には目が見えなくなり歩いたり話したりすることができなくなりました。でも幸いなことに痛いとか苦しいということがなく幸せでした。

見栄とか世間体などで制約されない自由に自分の生き方を貫いた人でした。臨終の時でしたが、過去にどのようなことがあれ、お互いに話しあい、手をとりあって別れるべきだと思い、「お父さん」と声をかけると「にこっ」と笑い、緊張感がふきとんでしまいました。そして又「にこっ」と笑い、さらにもう1度とびっきりの笑顔で「にこっ」と笑っていきました。

私の東日本大震災体験 3.11私の周りでは何が？

私の主人の故郷が福島でしたので震災時福島から親戚や子供の大学の友達が数人避難して、ワイワイ3週間すごしました。地区では炊きだしでカレー、豚汁などを大鍋でつくり公民館にいらした方々に食べていただいたのを覚えています。

知人に地震による被害をうけた人はいなかったのですが、放射能汚染は長期にわたる問題がたくさんあるので考えさせられますね。福島の若い先生方でお子さんが小さい方々は東京、横浜などに奥さまとお子さんは暮らし、先生は福島で診療と、別居生活をしているようです。



新島 康夫

(昭和31年9月25日生)

日本歯科大学東京校

昭和56年卒

無 題

鹿沼歯科医師会創立90周年、誠におめでとうございます。

私個人としましては、昨年に父を亡くしその後かたづけにバタバタと終始した2014年が終わりに、新たな希望を持った2015年にしたいと思う大切な1年の始まりだと思っています。

私の祖父が大正6年に鹿沼で開業して西暦2017年で開業100周年になると聞いております。その時まで元気に仕事をさせていただいて、長男が嫁さんを連れて帰って来た暁にはちょっと早いけど、悠々自適なおジサンになるのが夢ですね。

全然関係無い話ですけど、今年から日光カンツリー倶楽部のハンディキャップの審査基準が変わり、7からいきなり10に大幅ランクダウンしてしまいました。

まあ、去年は父の入院さわぎから始まる諸々の事情で良いスコアが出せていなかったのも、仕方がないかと思っておりますがこれは神様がもう一度シングル入りに挑戦しろよと、弛んだ私に課題をくれたものと思っております。

人は誰でも食べて寝て、泣いたり笑ったり、辛い時も楽しい時も有ると思っておりますが、何か目標を持って日々精進していく事が大切なのだと感じる今日この頃であります。

今年新たにシングル入りを目標にあわよくば片手シングル(5)下????を狙って貧欲にゴルフ三昧の一年にしたいと思います。

多分、親父も応援してくれると思うから…。

[アンケート]

趣味・特技：

趣味 へたなゴルフ。

特技 毎日酒飲みと、仕事を休まず続けられる事は特技だと思います。

私の取って置きの話：

昨年末より、タバコを止める事ができました。

少し太ってしまいましたが、タバコの無い生活も良いものだと思える自分に驚いています。

私の東日本大震災 3.11 私の周りでは何が？

常に車のガソリンを満タンにしておくようになりました。



福嶋 隆夫

(昭和31年10月1日生)

日本歯科大学

昭和56年卒

私とそば打ち

私の趣味は「そば打ち」です。木村立男先生のそば打ちをみて、うまいそばが食べたい一心から始めたのが平成8年、いつの間にか20年近くになります。

うまいそばはなんといってもそば粉が第一。はじめは全国からいろいろなそば粉を取り寄せて、そばを打っては食べる、の繰り返しでした。「もっと美味しいそば粉はないかな?」と。

当時、名を馳せた高橋名人の山梨「翁」を筆頭に自家製粉の名店が全盛期。「よし、玄蕎麦を買って自分で製粉しよう。」早速、会津高畑スキー場の知り合いから玄蕎麦1袋を取り寄せて家庭用の製粉機でそば粉を作りました。同じ頃にそば打ちを始めていた相馬先生と一緒に拙い技術で打ったそばは短くボキボキの失敗作でしたが、食べてびっくり! 鮮烈な香り、腰があってしかもなめっこい、それまで食べたなかでダントツのうまさです。これをきっかけに畑を借りて玄蕎麦の栽培、舶来の電動石臼を仕入れて製粉の勉強、そば粉のうまさを損なわないそば打ち技術の習得、旨いそばつゆ作り等々。私はすっかりそば打ちの魅力に取りつかれてしまったのです。

その後、蕎麦打ちブームが到来します。その火付け役となった「全麺協素人そば打ち段位認定制度」、「全日本素人そば打ち名人大会」この二つの大会に向けて私のチャレンジ魂は燃え上がりました。仕事が終わった後、夜な夜な練習に励み、平成17年全国最難関の関東予選を勝ち抜き福井の名人大会本選に初出場を果たします。そのまま

の勢いで平成19年には四段位認定大会で最優秀賞をいただき晴れてそば打ち四段に昇段、その後も名人位を目指し5度福井に挑戦しますが収穫は自前で買った越前ガニのみ、あえなく撃沈してしまいました。さすがに寄る年波かチャレンジ魂も燃え尽き、ようやく重い熱病から回復したようです。

近年は、蕎麦打ちを生かしたボランティア活動にいそしんでいます。そばサミット in 鹿沼、さつきマラソンそばチャリティ、福祉施設の慰問、青林寺花祭り、西中家庭教育学級蕎麦打ち教室等々。なかでも東日本大震災で被災した方々を鹿沼フォレストアリーナに慰問した経験は感慨深いものでした。大芦川漁協とのコラボで供した、温かい掛けそばとヤマメの塩焼きを本当においしそうに食べていただきました。避難されていた飯館村役場の方と話した中で「鹿沼のフォレストアリーナは日本一の避難所だ。」とお褒めをいただきました。市民挙げての温かいもてなしはもちろんのこと、なによりも避難所生活の中にずかずかと上り込む心無いマスメディアから体を張って守ってくれた市職員、ボランティアの方々の対応に心から感謝されておりました。鹿沼市民として誇らしく思えたと同時に自分自身も覚醒した瞬間だったのかもしれない。

いずれにせよ、最初はどうせそば打ちをするのだったらついでにボランティア、なんて軽い考えから出発した活動でしたが、実際に救われて元氣をもらったのは私自身の心だったようです。これからは市井の人々のため、実は私の心身の健康のため、そば打ちをとおしたボランティア活動を続けて行ければと願っています。

[アンケート]

趣味・特技：そば打ち

私の取って置きの話：

誰も知らない栃木県出身の総理大臣の話

小磯國昭(こいそ くにあき) 1880~1950

栃木県宇都宮市出身

陸軍大学卒業、陸軍省軍務局長、関東軍参謀長などを歴任後予備役入りした。その後拓務大臣を経て第9代朝鮮総督を務め、太平洋戦争中にサイパン失陥をうけ辞職した東条英機の後継として1944年7月22日第41代内閣総理大臣に就任した。小磯は陸大での成績が55人中33番目であり、20番以下の成績の物で小磯ほど出世した者は他にいない。若い頃はエリートコースを歩んでおらず陸軍内での人気は高くはなかった。1930年軍務局長に抜擢されると、人付き合いの良さや耳学問と読書で吸収した知識を活かし頭角を現した。その演説は理論構成もしっかりし、表現力も豊かで一級品といわれた。栃木県出身者として初めての首相となった小磯國昭であったが、昭和天皇は東条の後継者候補の中で小磯を低く評価していた。また、首相就任時には予備役となって7年もたっており戦況に疎く、大本営の会議にも規則により出席できなかった。軍だけでなく、近衛文麿、木戸幸一も小磯への不信感が強く、近衛の発案で元首相で海軍の重鎮である米内光政を入閣させ事実上の「小磯・米内連立内閣」とした。

小磯は米軍に一撃を加えた上で対米講話を図ることを意図していた。しかし陸軍は小磯の意向通りに動かず、陸軍省内では「この内閣は2ヶ月でつぶす」という放言がまかり通っていた。レイテ沖海戦では手痛い打撃を受け、さらにレイテ決戦を断念したという陸軍の決定を伝えられておらず、「レイテ決戦は天王山」と呼号していた小磯は昭和天皇から作戦中止を聞かされ大恥をかいた。さらに悪化の一途をたどる戦局の挽回を果たせず中華民国との単独和平交渉も頓挫し、1945年4月7日には辞任し鈴木貫太郎に後を譲った。東条の後継の適任者がなく「消去法」で選ばれたような状態であり周囲には小磯に不信感を持つものが多かった。最後まで指導力は発揮できず、正確な戦況も知らされない四面楚歌の中で内閣はわずか8か月で総辞職となった。こんな実情でも戦後はGHQに

よりA級戦犯として起訴され東京裁判で終身刑の判決を受け服役中に死去した。

小磯は山形県士族で警察官僚の家に生まれた。父は山形県内外を転勤したため明治13年に宇都宮で生まれ、そのため小学校もいくつか変わった。その後、山形県中学校から陸軍士官学校にすすみ、軍人の道を歩んだ。山形県新庄市上西山の桂嶽寺西側の小高いところに小磯國昭のお墓と大きな石碑が立っており新庄が生んだ山形県ただ一人の内閣総理大臣「小磯國昭」と説明されている。拘置所内で判決書の裏紙に鉛筆書きした自叙伝は現在新庄市立図書館に文化財として保管されている。多くの資料では小磯は栃木県出身と記されているが、本人も周りも山形県出身と疑いなく思っていたであろう。宇都宮で生まれ何歳まで暮らしたのかは不明であるが、栃木県で小磯を知る者はあまりいなかったと思われる。小磯が稀代の名総理大臣であれば、栃木県、山形県唯一の首相として「小磯國昭」争奪戦が繰広げられたのかもしれないが、現在は多くの人に知られることもなく歴史の狭間に埋もれているかの様である。小磯は戦争末期の混乱の中で踊らされた被害者だったのかもしれない。

近い将来、少子高齢化で閉塞感の漂う日本を一新する救世主のような名宰相が栃木県から出現することを熱望する今日この頃である。

私の東日本大震災体験 3.11私の周りで何が？

地震の間中ただ茫然と立ち尽くしていた。いざとなると何もできず情けない限りだった。幸い患者さん、スタッフをはじめ何の被害もなくホッとしたのを覚えている。

ただ、東京で就活中だった娘は面接のため原宿に行ったところで震災にあい、当然面接は中止、一時退避させてもらった会社の方と一緒に帰宅難民になってしまい、最寄りの避難場所「代々木体育館」の観客席で眠れない夜を過ごす事となった。不幸中の幸いで館内は停電もなく温かかったそうで、翌朝には一緒に避難した

方のご厚意で下赤塚のアパートまで送って戴いた。他人のやさしさに感激、心から感謝したことが印象に残っている。

被災地で長い避難生活を送る方たちが1日も早く平穏な生活を取り戻せるよう少しでも協力したいと思う。



木村 立男

(昭和29年9月4日生)

東北歯科大学

昭和55年卒

[アンケート]

趣味・特技：三味線（太棹）

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

特別何も無し

放射線がいや！



田代 高志

(昭和33年5月27日生)

日本歯科大学歯学部

昭和58年卒

私の趣味は“パソコン”と“ラジコン”です。

小さい頃から機械いじりが好きで、時計を分解して元に戻せなかったり、テレビを分解しようとして感電したり。。。(^_^)

小学生の頃はプラモデルに夢中になり、その模型が空を飛ぶのに憧れ、ラジコンに興味を持ちましたが、子供の小遣いでは高値の花で、歯科医院を開業して自分で稼いだお金でまずラジコンヘリコプター一式を買いました。ホバリング（空中停

止）に数か月。まともに上空飛行が出来るまでに1年。ループ（宙返り）とロール（横転）が出来るまでに3年ほどかかりました。（図1）墜落回数は数知れず。。。(^_^)

ほぼ、ラジコン歴＝開業期間ですのでラジコン歴は30年ほどになります。



図1

もう一つの趣味、パソコンは大学時代にコンピューター同好会を作り、私が初代会長となりました。従って、パソコン歴は歯科医師歴より長かったりします。最初買ったパソコンはシャープのMZ-80Kというキットでした。（図2）始めた当時は「マイコン（マイクロコンピューターとMy（私の）コンピューターの意味）」と呼んでいました。CPUは8Bit、メモリはKB単位、ディスプレイは白黒、音は単音、5インチFDは1枚2,000円もしました。その頃は「パソコンなんて何に使うの？」というマニアックな世界でしたが、今ではパソコンを使えないと時代遅れ（デジタルデバイド）になってしまう世情になりました。



図2

私は現在、WindowsのPC 5台をすべてネットで繋ぎ、iPadやiPhoneを携帯端末として使い、自作PCにLinux (Ubuntu) を入れ自宅サーバも運用しております。

おそらく、これからもこの2つの趣味は続けていく事と思います。

[アンケート]

趣味・特技：

ラジコン (ヘリ・飛行機・ドローン)

パソコン

私の取って置きの物：

自作パソコン (Linuxサーバー)

Apple Watch (数年経てば陳腐化するでしょうが、新しモノ好きです)

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

診療中でしたが、すぐに治療を中止し患者さん、スタッフと共に外に待避しました。棚の上のものはすべて落ち、母が作ったロマンダール (陶器製の人形) も全壊。

鹿沼市でも私の地区は高台だったので中心街より揺れが大きかったようです。隣の家の大谷石の塀も崩れたり、屋根の瓦が落ちた家も散見されました。しかし被災地に比べれば全く問題ない程度です。

最近、また各地で地震頻度が増えている気がします。きちんと震災に備えねばと思います。



相馬 英人

(昭和31年4月10日生)

東北歯科大学

昭和56年卒

「そば打ち全麵協平成26年度四段位に挑戦」“みごと散る”

私が蕎麦打ちを始めたのは、現在大学生の息子が、小学生の低学年の頃ではなかったかと思えます。家族ぐるみで付き合いをしていた親友と、素人ながらも蕎麦パーティをしようという事になり、蕎麦打ちの本を読み漁り、蕎麦粉は農家から玄蕎麦を譲ってもらい、小さな玩具のような石臼で粉にしました。蕎麦のつゆは「かえし」を作り鰹節で出汁を取り、蕎麦は見様見まねで二八で打った記憶があります。

そして悪戦苦闘の末、出来上がった蕎麦は太くて不揃いの、しかもボロボロでした。しかし食べて驚き、今まで食べたそばで一番旨いそばでした。あの時の舌の記憶は今でも鮮明に残っています。私の蕎麦打ちの原点でもあります。地元の蕎麦打ち団体に入り蕎麦博覧会、蕎麦祭りの出店や準備の手伝い、自治体やチャリティー蕎麦店等々を通して多くの仲間も出来、交流を図ってきました。

—中略— そんな小さな喜びや感動から蕎麦打ちを少しでも極めたいと思うようになりました。それは段を取得する事で技術を磨き、蕎麦の知識を深め、仲間を作りかつ絆を大切にすることに他ならず、ひいては全麵協の精神を多方面で活かせるような活動をして行ければと願っています。

現在、我が国は過疎化、高齢化が進み限界集落が増えている、という話もよく耳にするようになりました。集落の再生という取り組みを各地域で、色々行われているようですが、全麵協の目指す、多くの人に蕎麦に親しんで戴き環境を共通にする

地域同士が横の繋がりを持ち、蕎麦をテーマに情報交換を深め、地域起し、地域づくりに取り組む事は大変素晴らしい事であると思います。そして、これらの地域には美しい山、川、緑があります。又素朴な人間性もあります。その地域の住民と私達が力を合わせ、蕎麦の種まき、収穫と、製粉、蕎麦打ち等を行う場を提供し幅広い年齢層と交流が図られ、ひいては地域の発展に寄与出来ればと願ってやみません。

又私は歯科医療を生業としていますが、健康寿命の延伸や生きる力を育む「食育」という観点からも、各地の蕎麦文化や食の伝統を全麵協を通して、後世に守り伝える努力を微力ながらもして参りたいと誓いを新たにしています。

四段位の受験には書類審査と技能審査があります。書類審査は小論文と、そばについての3つの設問があり、上記が私が提出した小論文です。佐川先生に面倒を見てもらい、手直しをしていただき提出しました。そして1ヵ月後にみごと合格の通知をいただきました。そしてやる気まんまんで挑戦した平成26年12月14日の技能審査（鹿沼歯科医師会の市民公開講座を欠席して挑戦）が東京で行なわれました。しかしみごと不合格となり散りました。帰りの電車の中で落ち込んでいました。新鹿沼駅に到着すると、福島先生や歯科医師会の先生が迎えにきてくれていました。たいへん有難く、嬉しかったです。

[アンケート]

趣味・特技：

趣味は鮎釣り、そば打ち、釣りは田辺先生、そば打ちは福島先生に面倒を見てもらい楽しんでます。

私の取って置きの物、場所、話 etc

取って置きの物、場所、話ありません。開業して30年になります。開業してまもなく、ストレス、暴飲暴食、タバコで非常に血圧が高くなり、不正脈も出て大変、不健康な状態でした。そんな時、同級生の友人（医師）とその兄

（現宇賀神内科外科医院の院長）につれられて運動公園にある温水プールに行きました。初めは泳ぎとまではいきませんでした。回数を重ねるごとに100m、500m、1000mと泳げるようになり、タバコもやめ体重も少し減り健康状態は少し良くなりました。週2回の水泳は17～18年続けましたが、今は時間がとれないためジョギングを可能な限り続けています。血圧の薬は飲みはじめて25年になりますが運動の大切さをあらためて実感しています。今までいろいろな方に助けられ仕事ができたと感謝しています。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

東日本大震災の2週間ほど前に福島県いわき市の友人が病気で亡くなりました。大変悲しかったです。私の出身大学は福島県郡山市にありました。休みの日は時々、いわきの青い海、会津の鶴ヶ城、磐梯山や猪苗代湖を見に出かけました。今でもいわきの青い海と白い塩屋崎灯台が目焼き付いています。そして友人の家にもよく遊びに立ち寄りしました。本当に良い所でした。私の妻も福島県田村市の出身です。実家は家を新築してその約半年で震災に合いました。大震災と東京電力福島第一原子力発電所の放射性物質の放出による事故で福島県をはじめ宮城県、岩手県は完全に破壊されました。あれから4年がたちました。復興はまだまだです。長い道のりだと思いますが東北地方が元の生活にもどれることを心より祈っています。



狐塚 行弘

(昭和32年6月1日生)

新潟大学

昭和58年卒

[アンケート]

趣味・特技：

ゴルフ、ビリヤード、映画鑑賞、食べ歩き
私の取って置き場所

自宅の庭 育てている樹木に水をあげている
時、心が安らぐため。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

仙台に居る長男と2日間連絡がとれず、大変
心配しました。後日、話を聞いたところ、停電
でマンションへ帰れず、近くの避難所で過ごし
ていたとのことでした。



石澤 隆之

(昭和35年6月15日生)

日本大学松戸歯学部

昭和60年卒

全身と咬合の関連について考えていること —特に姿勢との関連について—

全身の状態と咬合との関連に関する研究が盛ん
に行われている。全身の状態の評価に立位姿勢を
観察する方法がある。立位姿勢は、高い位置にあ
る体の重心を狭い足底面で支えているため不安定
である。立位姿勢のバランスは、視覚系、前庭系、
体制感覚系情報からの身体動揺フィードバック情
報による運動神経の活動により制御されている。

立位姿勢の状態は体重の分散に客観的に表現され
る。小児期は重心の位置が後方にあり加齢と共に
前方へ移動し、健康な成人では、第1中足骨、
第2から第5中足骨、踵骨それぞれにかかる体重
配分を1：2：3とするモルトン比に近似する。
高齢者は筋力の低下等により重心の位置が舟状骨
の位置から前方に移動し、体重配分に乱れが生じ
モルトン比を維持することが困難になる。また感
覚神経や運動神経の伝達速度が遅延、重心動揺距
離が増加し姿勢がより不安定になる。筋力の低下
による身体のアライメントの変化は、頭位の変化
と下顎の偏位に影響を及ぼし咬合の崩壊を助長す
ることが考えられ、加齢による筋力の低下を防ぐ
必要がある。咬合状態の悪化が高齢者の体力低下
と平衡機能の低下に関与している反面、咬合支持
の回復が全身の平衡機能を改善し、咬合の修正が
良い姿勢の回復に関与している報告がある。した
がって咬合の崩壊を極力予防することが肝要であ
る。また崩壊した咬合は、頭蓋骨に対して歯牙・
歯列を適切に位置付けし、頭頸部周辺の筋骨格周
辺の筋骨格系のバランスに調和した咬合の再構成
を行う必要がある。崩壊した咬合の適切な再構成
により頭位と下顎の偏位が修正される。それに伴
い悪い姿勢の改善、高齢者の身体活動の向上と健
康寿命の延伸に寄与することが期待できる。歯科
疾患と様々な全身疾患との関連も解明されており、
今後さらに全身の状態を考慮した歯科治療が必要
になる。歯科界には明るく輝かしい未来が待っ
ている。

参考文献

- 1) 神崎素樹：姿勢制御「立位平衡機能の評価と
その加齢変化」．トレーニング科学、2006；
18,201-209
- 2) Diener HC, Dichgans J, Bruzek W,
Selinka H. Stabilization of human posture
during induced oscillations of the body.
Exp Brain Res. 1982;45:126-132
- 3) Diener HC, Dichgans J, Guschlbauer

- B, Bacher M. Role of visual and static vestibular influences on dynamic posture control. Hum Neurobiol. 1986;5:105-113
- 4) Fitzpatrick RC, Gorman RB, Burke D, Gandevia SC. Postural proprioceptive reflexes in standing human subjects: bandwidth of response and transmission characteristics. J Physiol. 1992;458:69-83
- 5) Kapteyn TS, de Wit G. Posturography as an auxiliary in vestibular investigation. Acta Otolaryngol. 1972;73:104-111
- 6) Kouzaki M, Masani K. Reduced postural sway during quiet standing by light touch is due to finger tactile feedback but not mechanical support. Exp Brain Res. 2008;188:153-158
- 7) Kouzaki M, Masani K, Akima H, Shirasawa H, Fukuoka H, Kanehisa H, Fukunaga T. Effects of 20-day bed rest with and without strength training on postural sway during quiet standing. Acta Physiol. 2007;189:279-292
- 8) Nagasawa H, Ohashi N, Watanabe Y, Mizukoshi K. The contribution of proprioception to posture control in normal subjects. Acta Otolaryngol Suppl. 1993;504:112-116
- 9) Morton DJ. The human foot. Its evolution, physiology and functional disorders. New York; Columbia University Press. 1935;99-112
- 10) Ishizawa T, Xu H, Onodera K, Ooya K. Weight distributions on soles of feet in the primary and early permanent dentition with normal occlusion. J Clin Pediatr Dent. 2005;30:165-168
- 11) 石澤隆之、室野井基夫、小野寺健、大家清：足底体重配分の加齢的变化。Health Sciences, 2002, Vol.18,348

- 12) 奥山奈保子：日本人高齢者の体力低下における咬合の影響。新潟歯科学会誌，2012，42(1)，51-52
- 13) 吉仲正記、吉野仙峯、前田芳信。姿勢の変化および義歯による咬合支持の回復が全身の平衡機能に及ぼす影響。第23回日本スポーツ歯科学会学術大会、2012，〇-10
- 14) 室野井基夫、清水良央、浅井澄人、斉藤浩二、大家清。咬合の改善により不定愁訴の消退と姿勢の回復をみた1例—特に4分割体重計での解析。東北大学歯学誌，1998，17，71-78

〔アンケート〕

趣味・特技：

ルアーフィッシング、フライフィッシング

私の取って置きの物：

カランバ 50mm 3.0g 朽葉色

50cm以上のヤシオマスをほとんどこのルアーで釣りました。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

大震災による直接的な被害はほとんどありませんでしたが、電力の供給不足による計画停電で日常生活に大変不自由しました。



金子 實

(昭和29年5月16日生)

東北歯科大学

昭和55年卒

私は20年有余、障害発達支援学級の歯科検診と口腔衛生指導に携わってきました。この学級は、障害児が健常児と同様の施設で、自立した生活が送れるように指導教育するための施設です。障害児と家族が参加しています。かつて障害児の教育

は大半が入所型の施設で行われてきましたが、施設の定員オーバーで受け入れが困難になりました。最近是在宅型の施設での対応が一般的です。入所型の障害者施設では早期に毎日の歯磨き指導がおこなわれています。それに比較して、在宅の障害児は家庭で過保護になることが多く、甘味食品の過剰摂取や口腔清掃の不徹底など歯科治療の非協力に結びつくような療育が先見されます。また、障害児は医療にかかわる機会が多いにもかかわらず、彼らの周囲の人達の関心は主たる障害にばかり注意がゆき、不規則な日常生活や食事の偏食等なかなか改めようとしません。これら多くの問題を改善するためにも、施設の指導者だけでなく家族の協力がが必要です。障害児の身の回りの世話だけでは精いっぱい生活に歯みがきを組み込ませるには困難がありますが、やらなくてはなりません。歯みがき導入の一步として恐怖心の強い障害児は、その恐怖心を少しずつ取り除くために、口腔周囲筋の緊張を和らげるマッサージが有効です。口腔周囲筋の脱感作をすることで歯みがきが可能になります。歯みがきを習慣化することで、よりリスクの高い歯科治療を回避させることができます。歯みがき習慣が定着したことで施設内の悪臭が消失したことは驚きでした。

毎年新入生が入学してきます。指導教諭の移動もありますが、今年も新たな指導の始まりです。

学級を卒業した子供たちは小中学校、職業訓練をへて社会人の一員と働いています。今後も独り立ちした彼らの健康維持が行われるよう見守っていきたいと思います。



鈴木 宏彦

(昭和31年7月31日生)

北海道大学

昭和58年卒

[アンケート]

趣味・特技：山スキー、植物観賞、庭木

私の取って置き：ホ・ジュン

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

鎮魂



小川 哲弥

(昭和32年9月29日生)

鶴見大学

昭和58年卒

歯科業界の苦境 国際経済のまじかな崩壊 社会的モラルハザード 厳しさ身にしみだまだやれます。死ぬまでやります。

長女も歯科医師国家試験にやっと合格し親の後など見てやるものかと言っていた長男も順天堂大学医学部4年生になりました。逝く事など考えもしなかった私も大病を得て時の流れを感じている初夏です。

「夢は見るな！ 希望を持つな！ 今にベストを！」が今日の志です！！

妻には合掌！！

[アンケート]

趣味・特技：読書、旅行

私の取って置き：

場所 秋葉原の路地裏のジャンクショップ

話 最近夢の中で神様に会いました。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

地震の4時間前に大きな地震が来る事を妻に予言しました。



山本 浩

(昭和34年5月10日生)
鶴見大学
昭和59年卒

趣味のエレキ

「え、今からはじめるの？遅いんじゃない？」
中学の友人が言った。
「いや、今から始めるよ！」
40歳を過ぎた頃、エレキギターを再開しようと決心した。
再開というのは大学で軽音楽部に所属していたからだ。
バンドを組んだ経験はあるがギターはコード弾きで終わってしまっていた。
数年が過ぎ、ある程度弾けるようになったので学生時代のクラブの仲間に連絡してみた。
ベース、ドラム、ボーカルに声をかけた。
どんな風になるか全く予想もつかなかったので「バンドをやるから」ではなく、「スタジオ借りて雑談会をやるから」と言った。そんな感じでスタートしたがバンド結成の噂？は広がり、「歌わせろ」、「ギター弾かせろ」の先輩が加わった。参加希望は続いたがさすがにこれ以上の大所帯は無理と断った。活動は2ヵ月に1回の予定だったが「夏は暑い、冬は寒い」で結局、年に数回の練習である。
加えて「人前で演奏する事を目的としないバンド」なのでかなりユルイ。
練習後は居酒屋に直行。同じ大学の歯科医師同士、雑談はいつまでも続く。
ギターを再開したことで趣味は充実した。何を始めても年齢的に遅いことはないだろう。流行の「いつやるの？今でしょ」ではないが「今が一番若い」ということはまぎれもない事実なのである。

〔アンケート〕

趣味・特技：音楽
私の取って置き場所：自宅にいるのが一番です。
私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？
自宅、診療室共に被害はありませんでした。



駒橋 一永

(昭和28年10月9日生)
神奈川歯科大学
昭和54年卒

一般社団法人鹿沼歯科医師会創立90周年記念誌発刊おめでとうございます。

私が入会したのは、およそ30年近く前の事です。一番の思い出は中央小学校などに出向いて上都賀歯科医師会統一刷掃指導ビデオを作った事です。資料採取のため会員一同が染色剤と熱意に赤く染まりながら奮闘しました。今でも小学校で刷掃指導ビデオを利用してくれているとの事、大変だったがやってよかったなと思える仕事です。そんな事を考えながらいつの間には眠ってしまい夢の中にいます。西暦は2050年、鹿沼市では刷掃指導ビデオのおかげで、50歳未満の市民に虫歯はなくなりました。刷掃指導どころか歯磨きをする必要がなくなり、今ではマウスクリンという機械で口腔清掃と歯周疾患予防が出来てしまうのです。虫歯や歯周病用ワクチンの開発でこれらの疾患が無くなる時代が来ました。また、ips細胞を応用した人口歯球根ができ歯を抜いたところに植え込めば天然歯に似た歯が出来上がります。その結果、義歯やブリッジも激減し、いまやインプラントも取って代えられる勢いです。さらに少しだけ薬の味がしますが、虫歯にならない食べ物も開発されました。これでは歯科医の仕事がなくなってしまうとお思いでしょうが世の中うまくし

たもので、50歳以上の平成世代は相変わらず、砂糖、塩分、油分を多く含んだ食事を多用しそれなりに歯科治療があります。長生きできる薬の発明で私も90歳代で現役です。仕事は、治療はしないデンタルマスターをしています。若い先生が、すぐに歯を抜いて人口歯球根を植えたがるところ、医療費抑制の為私たち老歯科医が診断し適切な処置を計画、若い先生に仕事のお願いをします。私のすばらしい技をお見せ出来ないのが残念などと思っていたら突然声が聞こえました。「先生、患者さんです」びっくりして夢から覚めました。その時、思ったのです、「ああ、仕事がまだあつてよかったな」と。

[アンケート]

趣味・特技：

ドライブ、旅行、温泉、読書、映画・演劇鑑賞。

私の取って置き場所：

平凡な人生なので、あまり多くはありませんが、趣味のドライブ、旅行、温泉から一箇所を選べます。

私は海大好き人間なので休日によく海にドライブします。好きな場所は茨城県の伊師浜海水浴場と言う海岸と、そこにある日帰り温泉です。併設している国民宿舎（国民宿舎鶴の岬）は日本一予約が取れないことで有名です。大変、気持ちが良い温泉です。東日本大震災以後、原発で心配する方もいらっしゃるかもしれませんが、私の取って置き場所には変わりありません。ただ、年齢とともに足が遠のいているのが残念です。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

2011年3月11日14時46分に地震が発生しました。治療中でしたが、従業員の日ごろの訓練のおかげか、診療室担当、待合室担当、連絡、機材担当にそく別れ、患者さんを安全な場所に誘導してくれました。屋内は危険と考えた従業員は、即座に患者さんの頭に座布団をかぶせ、前の中央小学校校庭に避難させました。その直

後近くの家の側壁が「ザー」という音とともに崩れ落ち、これは大変だと次の行動をどうすればよいか無い頭を絞った記憶があります。この時、患者さんが地震の影響も省みず、何人もの患者さんが予約時間に来ていただいた事に本当にありがたいと感じた事を思い出します。話は変わりますが、映画で東日本大震災を題材にした「明日への十日間 遺体」という西田敏行さんを主演にした映画があります。この映画に稲葉敏郎さん演じる歯科医と栃木県出身の酒井若菜さんと言う女優さんが歯科助手の役で出演され、一緒に遺体の検死（歯）を必死に行った場面が多数出てきます。モデルとなった。

この歯科医は釜石市で開業しており私と保存科で同門です。

そのような縁があり、機会があればぜひ皆さんにもこの「遺体」と言う映画を見ていただきたいと思います。

(映画館での上映は終わってしまいましたがレンタルでぜひ)



鈴木 裕之

(昭和36年9月17日生)

昭和大学歯学部

昭和61年卒

2012年10月・11月に邨内の医療機関にて造血幹細胞移植を受けた際の体験をまとめてみました。

移植を受けたこの医療機関では、血液内科のみならず、化学療法科、輸血・細胞治療科、呼吸器科、消化器科、循環器科、皮膚腫瘍科、歯科、耳鼻咽喉科、神経科等によってトータルケアできる体制が確立されていました。

私の場合、移植前に、複数回にわたり行われていた化学療法により心臓の機能の低下がおきまし

た。そのため、抗がん剤、全身放射線照射による移植前処置を通常の場合よりも弱くした方法、骨髄非破壊的前処置を用いた移植（ミニ移植）が行われました。2012年10月23日にHLA(白血球の型)が一致した姉がドナーとなり、末梢血幹細胞移植を受け、移植当日から退院までの5週間、入院日から退院日までの通算8週間において、複数の専門職者から構成される医療チームの支援を受けました。

骨髄移植というとドラマや映画でみた完全防備に身を包み、無菌処理をしたものしか触れない息がつまりそうな病室を想像していました。しかし、実際には移植に際しては、個室で、無菌アイソレーターが24時間作動しているクリーンルームで過ごし、中学生以上の家族は病室での面会も出来、服装もコートなどは別室で脱ぐ必要はあるものの、普段着で、マスク、手洗いをしたうえで入室可能でした。携帯、パソコンの使用も可能でした。感染症対策が確立してきた現在、以前のような完全防備はいらなくなったとのことでした。ペーパータオルの補充や、定期的な空調チェックなどが定期的に行われ、病室の掃除や、ドアノブ、手すりの消毒も毎日のように行われ、水道も滅菌機能が付いていました。食事は、生もの、納豆、丸ごと食べる果物などは禁止されていましたが、無菌処理された温泉卵やミカンなどを食べることができました。

チーム医療では移植コーディネーターによる説明。血液内科専門医、循環器内科専門医が全身状態を管理しながら歯科医、耳鼻科医が移植を行う前に、感染源になる可能性の高い副鼻腔炎や齲歯などがないかを診察し、入院直後に、精神科の医師と臨床心理士が訪室し、心理状態を把握していつでも、訪室できる体制があると伝えてくれました。臨床心理士は、入院期間中複数回、訪室し、話をすることができました。薬剤師が定期的に訪室して、移植前処置から使われる様々な薬剤の作用や、作用に伴う不快さなど、また、今後、使用される薬剤などについて説明してくれました。放

射線技師は全身照射する前日に照射する部屋にてセッティングを行い本番の説明をしてくれました。移植病棟の看護師は、ほとんどが移植に精通したベテランのナースで、様々な質問に答えてくれ、動悸や疼痛に対しては、迅速に対応してくれました。ナース間の連携もとれていて、全身管理、治療の遂行、日常生活の継続を支援してくれました。

治療中一番つらかったのは、移植後、白血球数が減少するとともに、粘膜がただれ、下痢をおこしたり、口腔内に発赤や潰瘍がみられ、激痛が生じたことでした。中心静脈ラインから麻薬製剤を注入するのですが、耐えがたい痛みでした。口腔ケアがそれまでうまくいけていたので、多少の口内炎ならなんとかなると思っていました。しかし想像を超える痛みで、歯科衛生士が、口腔内の状態を観察しつつ、口腔ケアを行う器具や口腔内の湿潤を維持し、痛みを緩和するスプレー溶液（オリジナル）やリドカインゲルを適宜、提供してくれましたが、それでもその痛みが治まる数日間のうち潰瘍部を表面麻酔しても全く食べられないこともありました。口腔ケアが難しい患者さんだったら摂食できない期間も長くなり体力も相当落ちるだろうと思われました。われわれ歯科医師がこの分野に積極的に関与することが非常に重要であることを身をもって知りました。

またこの病院には栄養サポートチーム NST (Nutrition Support Team) があり医師、看護婦、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士などが各専門領域から支えています。食べるという行為を栄養状態を良くするだけではなく生きる喜び、生きるための意欲を与えることと考え取り組んでいました。食べ物の制限がある入院患者にとって食べるということは重要な、ある意味生きがいともなり出来るだけ摂食できるメニューに食事の内容や形態を変更してもらえたのも、大変重要であったと思います。

入院中患者は、身体的、精神的、社会・経済的、多面にわたり色々な不安、苦痛、苦悩が生じやすく、治療やケア以外に治療に専念できる環境を作

ることが大切だと思います。幸い私は、移植のドナーも姉と一致し、移植治療も受け入れ病院に空きがあったので待たされることなくすぐに治療に入れました。療養中は弟が代わりに診療を約1年引き受けてくれ、仕事の心配もしなくて済みました。いとこが看護師のため、都内に入院中は、毎日のように見舞いに来てくれ、身の回りの世話を細部にいたるまでやってくれました。身内がいつも近くにいるという安心が心理的安定にもつながったと思います。

不安な気持ちに押しつぶされそうになり、激痛と倦怠感による苦痛は耐えがたいものでした。しかし、多くの医療スタッフと、家族の支えによって移植が無事終わられたことに感謝、そして、現在、地元のかりつけの医療機関で慢性GVHD（移植片対宿主病）の経過をみながら通院を継続しながらも、仕事にも復帰できたことが大きな喜びです。

主治医は、私と同年齢でした。入院時に、”子供も小さいんだから、今、移植を受けて頑張らないでどうするんだ”とってくれました。数週間後、多くの人々に支えられて退院の日を迎え、主治医は自分のことのように嬉しいと言ってくれ私と握手を交わしました。



手塚 忠雄

(昭和37年1月23日生)

鶴見大学歯学部

昭和63年卒

[アンケート]

趣味・特技：

ゴルフ

私の取って置き：

私の取って置きですが、一つ上げるとしたら

5年前に肝臓の手術をした時のお腹の傷だと思います。開腹手術により、約35cmの切開の傷跡が残っております。今でも、腹筋が攣れたりし、その時の手術の思いでが、蘇ってきますので、これが一生涯の取って置きになるでしょう。私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

診療室が大きく揺れた時は、栃木県に大地震がきたと思ったくらい衝撃的でした。家の大谷石の塀が少しくずれて、修理したことを思い出しました。また、車にガソリンを入れにいった時に、1時間程度またされたことを思い出しました。さらに、技工所に義歯を頼んだときに作業場が仙台だったので、一週間以上出来上がらなかったこともありました。今後、また同じ様な大地震が起きない様願っています。



田島 雅哉

(昭和36年5月15日生)

東北歯科大学

昭和63年卒

～夢や希望について～

私には、今年大学三年生になる一人娘がおります。親としては、子供の成長を見て、彼女がどんな大人になるか、どんな生き方をしていくのか楽しみであります。その話はまた別の機会にお話ししたいと思います。

今回は、もう二人の娘のことをお話ししたいと思います。彼女たちの名前はボーダーコリーの“そら”とトイプードルの“うみ”と申します。そうですペットの犬達です。

私は、幼い時から生き物が好きで、いろいろな種類の動物を飼ってきました。文鳥、インコ、ハムスター、熱帯魚、星カメ等々多くの種類を飼っ

て来ましたが、犬はまだでした。

私には、一つの夢がありました。自慢の愛犬と旅に出て、いろいろな所にいき広い所で一緒に走り回り、時にはまったりとした時間を過ごすという事でした。

彼女を迎えたのは、八年前の夏でした。そして、半年ぐらいのときついにその時が訪れて入念なりサーチの上、那須にあるとあるペンションに泊まりに出かけることができました。そして、彼女とのまったりとした時間を過ごすことが出来たのですが、まったりとした旅はそれ一度きりでした。

彼女が一歳のころから私のしつけの悪さから他の人に吠えたり、御近所の犬に唸ったりするようになり、さらにしつけを厳しくしようとする家族にまで唸ったり時には噛みつかれたりするようになってしまいました。しつけ教室にも通いましたが、あまり効果はありませんでした。そのため、彼女とのまったりとした旅はその後実現しておりません。

そんな彼女ですが、機嫌の好い時は私や家族に笑いながら「お腹をなでてくれ」とよってきます。噛みつかれても、そんな彼女を可愛がる私を妻は冷めた目で見ている今日この頃です。

[アンケート]

趣味・特技：ゴルフ

私の取って置き物：昼寝に最高のソファ

私の東日本大震災 3.11 私の周りでは何が？

鹿沼においては、津波の被害もなく、家の壁紙が少しづれただけでしたが、原発の放射線の被害においては、風向や放出量が違っていれば、このあたりも避難地域になった可能性があったと思うと、本当に運が良かったと思います。



畑 健一

(昭和33年9月12日生)

鹿児島大学

昭和61年卒

私は子供の頃から、体を動かす事が好きでした。小学生の時は野球に熱中し、放課後は近所の神社の境内に集まり町内の子供達と毎日遊んでいました。中学校では東中でバスケット部に入り、定期テスト休み以外毎日練習し、県大会で優勝したこともありました。大学でもバスケットを続け、歯科医師となり鹿沼に帰ってからも暫く市役所のバスケットチームに入れてもらい市民大会などには参加していました。

しかしながら、この当時より美味しい？妻の料理のおかげ？もあり体重が75kgになってしまい、宇都宮のスポーツクラブに入会しジムのトレーニングと水泳を始め減量を試みましたが、72kgまでにはなりましたが、子供の誕生があり通えなくなりました。

もう一つその頃にゴルフを始めました。歯科医師会に入会した当時は、非常に多くの先生方がゴルフをされており、歯科医師会のコンペも5組くらいの参加があり盛況でした。

ゴルフだけは飽きることなく現在まで続いており、年間30から40ラウンド位コースに出て楽しんでいます。一緒に回るのは歯科医師会の先生方が一番多く、田島先生、手塚忠雄先生、石崎先生（時々奥様も）などです。

その他にも医師会や薬剤師会の先生方、他の歯科医師会の先生、中学の先輩後輩、練習場で知り合った方々とご一緒させていただいて、職種や年齢を超えて、楽しくラウンドしています。

緑の中をラウンドするとストレスの解消になり、リフレッシュできます（スコアが悪いと逆もありますが）。

これから趣味のゴルフを何年できるかわかりませんが、最低20年は続けることを目標にして好きな運動を元気に続けられればと思っています。

[アンケート]

趣味・特技：ゴルフ

私の取って置き場所：

北海道カントリークラブ大沼コース9番ホール
630ヤード Par 5

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

少しだけ自分の時間を人のために提供させていただくことができればと思うようになりました。(実際はなかなかできていませんが)



畑 和美

(昭和37年12月29日生)

鹿児島大学歯学部

昭和62年卒

ピアノを再度習い始めてから、早いもので15年になりました。きっかけは、息子がピアノを祖父母に購入してもらい、音楽教室へ付き添いで行ったことです。子供の頃10年くらい習っていたのに、へ音記号が読めなくなっていて、また左手もうまく動かないことにショックを受けました。私が習っていたことに比べ音楽教室の雰囲気が楽しかったことも再チャレンジの背中を押してくれました。息子の音楽教室は途中で終わりになりましたが、何とか私は続いています。おかげでピアノは無用の長物にならずに今に至っています。

ピアノを習いに行っているのか、先生と雑談をしに行っているのかわからない状況ですが、簡単な曲でも毎週二曲を先生に聞いてもらうことを自分へのノルマとして、毎日昼休みに練習をしています。

職住同じで、ともすると緊張の連続となることもあります。なるべく非日常の時間を作ることを心がけています。ピアノの他にも習い事があり、「どれだけストレスがたまっているのか？」と指摘されたことがあります。子供の手が離れたので、また何か始めたいと思案中です。

仕事も趣味も細く長く続けて行きたいと思っています。

[アンケート]

趣味・特技：

ピアノ、ケーキ作り、筋トレ

私の取って置き場所：

故郷鹿児島島の錦江湾と桜島の雄大な景色
私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

自分にとって大切な物がみえてきました。



大貫 真裕

(昭和32年7月13日生)

日本大学歯学部

昭和57年卒

夢や希望というのは、若い人はあれもしたいこれもしたいと色々なことを思うかもしれませんが、誰でも年を取ると若い時のようには夢や希望を持ってなくなるようです。たまたま私は縁あって鹿沼高校の目の前で開業しましたが高校生はやっぱり若くて輝いています！夢と希望に満ちあふれています。

私は歯科医師会の役員を長いことやらせて頂いていますが、20年ほど前に理事になりたての頃は歯科医師会の先輩の先生方はもちろん鹿沼市の行政の皆さんや警察署長さん、学校の校長先生方にお会いする機会があると「自分はまだまだひよっこだなあ、さすがに50歳代も後半の方々是人

生経験も豊富だし言動にも重みがあるなあ。」と
思っていました。ところが、自分では気持ちは今
でも30歳代のつもりでいますがいつの間にか50
も後半57歳になってしまいました。毎年人間
ドックで健診を受けていますが先ず身長が少しづ
つですが縮んでいます。それに反して腹囲は増し
ています。様々な病気にも気を付ける年齢になっ
てきました。一昨年からは遠近両用のコンタクト
にしましたし昨年からは降圧剤も飲むようになり
ました。歳を重ねると肉体の衰えは誰にでもある
のは当然のことです。いくらお金があっても健康
でないと何もできません。実は昨年1月2日より
可愛いトイプードル（平成25年11月8日生：
雄）我が家の一員になりました。休みの日や時間
がある時には私とその子犬（名前はエルメスで
す）と近くの星の宮公園まで散歩しています。適
度な運動を続けたいと思います。

そして「後輩の先生方のお手本になれるような
先輩になりたい。人間的にも大きくなれるように
頑張っていきたい。」また、最近S会長が事ある
ごとにおっしゃられています。私も「鹿沼歯科
医師会も世代交代が必要、後輩に託していきた
い。」と思っています。

昨年久々に従業員と旅行しました。少し長めの
休みを取って家族で旅行に行きたーい！

[アンケート]

趣味・特技：

趣味はドライブ・車・旅行・音楽・映画

車の運転は好きです。現在はBMW525i・
BMW330ci（こちらは私の奥様のお父さんから
数年前に譲り受けたものです）・Honda
N-ONEの3台に乗っています。

子供たちが小さい頃はよく家族でスキーに行
きました。（その当時の車はHondaオデッセ
イ2台目）毎年、大学の同級生の仲間4家族で
国内外に旅行に行きました。

特技という程のものではありませんが鹿沼西
中学校の時にはオーケストラ部に在籍しフルー

トを演奏していました。宇都宮の個人の先生に
もレッスンを受けていてフルートは好きな楽器
でした。昔ほど指は動きませんが今でも吹けま
す。音楽はジャンルを問わず好きです。先日も
東京ドームにサザンオールスターズのコンサ
ートに家族で行ってきました。

もっと映画館で映画を見たいのですが時間
がないので映画はブルーレイやDVDでよく見
ます。

私の取って置き：

物：取って置きということはやはり大切な、大
切にしたいものだと思いますのでどちらかとい
いいわゆる物ではなく、奥様、家族、親戚、友
人、仲間、先輩、後輩、もちろん患者さん、歯
科医院のスタッフ、私の周りの全ての人です。
それと昨年平成26年の1月2日から家族の一
員となった我が家のアイドル犬、トイプードル
のHERMES（エルメス、エル）君（♂）です。
最近エル君を連れて奥様とドックランに行っ
たり犬カフェめぐりをしています。

場所：取って置きの場所はほっとできる場所
ですかね……？おいしい料理が食べられておい
しいお酒が飲めるお店です。自宅ではリビングの
パーソナルチェア、お風呂です。

話：取って置きの話というと2つあります。

1つめは茂呂周先生の話です。私は日本大学
歯学部卒業ですが学生時代から開業するまで
の間、鹿沼歯科医師会の大先輩でもある茂呂允
（まこと）先生・周（いたる）先生・兀（たか
し）先生には大変お世話になっていました。私
が学生時代、周先生は病理学教室の助教授をさ
れていました。その後アメリカアラバマ大学に
留学され帰国後教授とされました。平成9年
には名誉あるメンデル賞（そうです！あのメン
デルの法則で有名なメンデルに因んだ賞です）
を受賞されたのには本当にびっくりしました。
その後、周先生は病理学会、歯科にとどまらず
日本消化器免疫学会でもご活躍されています。

2つめは大塚吉兵衛先生の話です。学生時代、

私はラグビー部に所属していましたが、当時ラグビー部の顧問をされていたのが宇都宮高校の先輩でもあり生化学助教授大塚吉兵衛先生でした。（吉兵衛先生のお父様は長年栃木県歯科医師会会長をされた大塚禎先生です。）

私がお世話になった大塚先生がその後日本大学歯学部歯学部長、さらに第13代日本大総長（現在平成25年からは学長）になられたというのは本当に素晴らしいことです。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

東日本大震災の日、私は自院で午後の診療をしていました。

地面から突き上げるような強烈な縦揺れ、この揺れが長く続いたら危険だと思わせるそれまでに経験をしたことのない本当に凄い揺れでした。治療中の患者さんはもちろん待合室で待っておられた患者さんにもいったん玄関の外に出ていただきました。

自院の前の鹿沼高校前の道が「これが本当にあのいつもの固い道なのか？」と思うほど海の波のように激しく波打って動いていたのを恐怖の思いで見たのを鮮烈に覚えています。

その日はちょうど長女が帰省していて、いつも2階の自宅にいる私の母を（そのころから少しずつ階段の上り降りに介助が必要になっていましたので）1階の院長室まで一緒に介助して降ろしてくれました。

14:46分に地震が発生し余震も頻繁に続いたのもう午後にはもう患者さんは来ないかなと思っていましたが、ほとんどキャンセルなしで来院されたのでびっくりしました。ある年配の患者さんは「今市地震の時は小学生で鹿沼にいたけどその時の方が凄かった。」といわれました。おそらく私が思うに子どもの時の体験だったのでより恐怖に強烈に感じたんだと思って聞いていましたが……それだけ鹿沼は実際の被害は少なく済んだということかと思えます。

震災後4年3か月が経過しましたが未だに震災による全国の避難者数は22万9千人（平成

27年2月現在）とのこと。本当に大変なことです。いずれにしても地震国、火山国の日本では原子力発電は非常に危険です。原子力発電は徐々に止めてドイツの様に原発に依存しないエネルギー政策が必要です。



藤榮 昇次

（昭和27年3月26日生）

日歯日本歯科大学新潟歯学部
昭和55年卒

春に

2月に、都内へ数人で出掛けたことがあった。私達はその時、20歳を少し過ぎたばかりだった。夜の8時は過ぎていただろう。生暖かい風にふと空を見上げると、雲が出ていて、その淵は赤かった。もう冬の厳しい空の様子ではなかった。数歩前に行く先輩に、「今夜は暖かいですね。少しずつ春が近づいてきているんですね。」と声をかけた。すると先輩は立ち止まり、「匂いが春だ。」とぼりと言った。北国の人だった出身地は雪の少ない所だと聞いていたが、メガネの奥の目を細め、少ししゃくれ気味の顎を上げて、まるで花の香りを胸いっぱい吸い込むような仕草を見せた。整った顔だちで、ともすると冷たい印象を与えがちだったその横顔が、柔らかく微笑んで、同行していた私の友人達も、以外なものを見たという顔をしていた。たぶん先輩は「春」が連れて来る期待のようなものを吸い込んでいたのだろう。先輩は包いで、私は空で、各々の春を迎え入れた。

あれから多くの年月を経て、春は期待の他に、一株の寂しさをも連れてくるようになった。

東日本大震災から四年

被災地の方々は、そして戻れない方々にはどの

ような春なのだろうか。

倉本聰氏が、
「早くも風化しつつある震災や原発事故」と発言
されている。

[アンケート]

趣味・特技：読書

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

津波で流された。(知り合いの車も流され
た。)これ以上は書くことが出来ません。



本島 栄人

(昭和34年4月29日生)

日本大学歯学部

昭和62年卒

私の夢

「私の趣味」というタイトルで昨年、栃歯会報
に載せていただきました。その続きということで、
今度は鹿沼歯科医師会史に「私の夢」として載せ
ていただきたいと思います。

私は生涯の趣味として、写真を考えています。
歯科医にならなかつたら、写真家になりたいと
思った時期もありました。インドア(スタジオ)
でも写真は撮れるのですが、できればアウトドア
(大自然の中)で撮りたいと思っています。しか
し、仕事や雑用に追われる毎日で思う様にはいき
ません。還暦をむかえる頃までにはひとつの区切
りをつけ、あくまで夢として、もう一度大学で学
べればと考えています。それは歯科大で勉強し直
しと言うわけではなく、日本大学芸術学部いわゆる
ニチゲイで写真を基礎から勉強したいと思っています。

そして、別の趣味として海外旅行もあるので、

スナップ写真とは一味違いのある撮影の旅がした
いものだと考えています。それを実行するにはな
かなか心の余裕がなく(懐の余裕も)、実現でき
るかわかりません。しかし、スイスの山、湖、高
山鉄道、さらには南米ボリビアのウユニ塩湖での
白昼の水鏡、また、夜の星空のインターバル撮影
を目標として頑張っていきたいと思っています。
とは言いつつも写真と言うものは奥が深いので、
そう簡単には撮れないのです。

現在も写真クラブの門を叩いてみようと思っ
ているのですが、活動時期がなかなか合わず所属
することができません。そのため自分の空いている
時間を探して、自分なりに行動するしかありませ
ん。それは自己流と言うか、色々な本を参考にし
ながら独学で学ぶしかないのです。より一層進め
るところまで頑張っていきたいと思っています。
そしていつかは私の夢を実現させたいと考えてい
ます。

[アンケート]

趣味・特技：写真



岸野 昌彦

(昭和42年6月2日生)

日本大学歯学部

平成4年卒

将来について思うこと

最近になって非常に頻繁に思いを巡らすことが
多くなったことがあります。

それは「心安らかに、静かにしている時間をで
きるだけ長く保ちたい」と言うことです。まだ今
年で48歳になる鼻たれ小僧ではありますし、まだ
まだ現役歯科医師として地域に貢献していく気持

ちはいささかも衰えてはいませんが、まあ、そうはいっても将来は必ずやってくるものですし、夢を持って生きていくのも日常に張りを持たせる意味ではとても重要なことかとも思います。

私はほとんど趣味らしい趣味を持っていません。特に何かに没頭したり、休みなどの特定の時間を仕事で疲れた体や心のリフレッシュのために使うという概念があまりなく、心が仕事やそれ以外の活動をはっきり区別していることが疲れや不満の原因になるのだと個人的には考えています。

たまに仕事人間が「仕事が趣味であり、生き甲斐である」ということをおっしゃることがあると思いますが、あれが典型的な（こだわりの枠が外れた理想的な状況）に近いのだと思います。（私は現在もそのようにはなっておりませんが…すみません。）

そういう心の活動を見つめる一環として、近い将来あるいは遠い将来でも、瞑想や禅などをかじってみたいという気持ちがあり、そういうことを突き詰めるための静かな環境と、老後に必要以上に働かなくてもいいようにということの両方が実現可能な方法はないかと思案していたころ、偶然ですが最近マレーシアに老後に移住する日本人が非常に増えているという見出しの雑誌の記事が目が止まりました。

興味を持っていろいろとネットで調べてみると、マレーシアという国は気候が一年中温暖で冬がなく、かといって日本のような猛暑でじめじめすることもなく快適のようです。物価も大変安く、特に居住費が日本の3分の1以下で暮らせるそうです。

また、治安も大変よく医療水準も高く、しかも親日国家であり日本人は大変歓迎されているようです。税金も日本に比べて大変低く、年金だけでも十分な生活を送れる可能性があり、それを反映するようにマレーシアに移住する日本人数は去年1年間だけで約10,000人から倍の20,000人強に倍増していて、この日本人の伸び率は昨年世界第1だったようです。

できれば日本とマレーシアの両方で、仕事も両立できるような生活ができれば本当にありがたいのですが、さあ、うまくいきますかどうか。

〔アンケート〕

趣味・特技：

趣味 気功、瞑想、読書

特技 物事を人とは違った見方で見る事が出来る。

私の取って置き物：

父が愛用していた抜歯挺子（エレベーター）。形見のつもりで1つとっておいたのですが、試しに使ってみたところ他のどの挺子よりも使いやすく、今ではほとんどの抜歯に使っているなくてはならないアイテムとなっています。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

停電がしばらく続いた時があったので、ローソクをともして家族で過ごしたことが、電気や水など、普段あたりまえと思っているもの、事が大変ありがたく思え、子供達への教育的にも今思えば非常に意味のある出来事であったと思います。



鈴木 定幸

（昭和41年5月12日生）

日本歯科大学

平成3年卒

—法人化を振り返って—

前回記念誌に寄稿してから早や5年。この間に私が担当した最大の業務は上都賀歯科医師会の法人化に関する件でした。この件では（関連事項を含め）数十万字？分の文章を作成したはず…（が、この800字足らずの作文は締め切り過ぎまくりで、担当の先生すみません）そこで法人化

業務を行う上で、私にとってひとつの契機となった思い出を少々記したいと思います。

法人化が動き出したのは平成22年末。最初の課題となったのは特別会計の処理（分配）でした。この分配方法について方向を定めたのは第3回法人化検討委員会だったのですが、この委員会に提出した分配案のレポート（「法人化」の項に載っているものの初期版）を作成し、まず最初に相談したのは駒橋武先生でした。西茂呂の居酒屋で呑みながら始めて、途中から「これは手塚史雄先生にも話しておこう」と当時まだ理事に就いていなかった手塚先生も急遽呼び出して3人で検討しました。2人に意見を求めたのは、法人化検討委員会において私は最年少の委員であったので、「私の意見」ではなく「若手の意見」を委員会に提出したかったのです。

両先生は年齢・入会時期とも近く、私にとっては「同期の桜」的感覚で語り合える大切な仲間です。この日、両先生に分配案への賛同を得るとともに、我々世代の考える歯科医師会の形についても遅くまで語り合いました。また、その後も随時（まあ、飲み会のついで…とも言いますが）法人化への諸問題について意見を交換し、その内容は定款作成、規則・規定作成の際にも委員会での協議において私からの論点として提示していきました。

全く起承転結になっていませんが、もう800字になるので強引に纏めます。「法人化への仕事を通して駒橋先生、手塚先生との絆？がより深まった。若手？の意見もある程度できたはずだ。これからも3人で協力して頑張っていきたい。そして次の記念誌にはもう少しまとめた文章を期限内に？書きます（汗）。」…以上

[アンケート]

趣味・特技：

とてもここには書けないなあ…

私の取って置き：

「パリのムーランルーージュって分かる？そうそう、ロートレックの絵画で有名なあそこ。オ

レ、実はそこの舞台上に立ったことあるんだよね、うん…」⇒飲み屋で語る、とっておき？の与太話（でも事実）です。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

数日後が娘の小学校の卒業式予定日だった。体育館が被災し、開催されるのかさえ分からない状況だったが、結局、宇都宮大学の講堂を借りて実施された。



手塚 史雄

（昭和40年11月28日生）
鶴見大学歯学部
平成2年卒

愛車遍歴

私の愛車は、RG50Eから始まりました。中型二輪免許をとるための練習用で購入したのですが、横浜から実家まで帰省にも使いとても楽しいバイクでした。しかし、その頃は、バブル景気が始まる頃であり、見窄らしさは否めず、RZ250等考えたが、（因に、RZ125を借りて乗ってみると2スト特有のトルクの立ち上がりがあり、RZ250を購入しても乗りこなせない）土日のバイト代で、同級生からGSX250を購入。しかし、既にそのバイクも型落ち（それなりに楽しかった）、また他の同級生から、FZ250を購入、それは水冷4気筒DOHC、1気筒あたり4バルブ、18000回転のタコメーター、モノクロスリアサスペンション、やっとその当時の流行のバイクに乗れた感がありました。6年生になる頃（卒試、国試絶対落とせない）、そのバイクは手放し、卒後GSX-R250R（Rがふたつも付いてる）を購入それは、アルミフレームにリアに、ディスクブレーキ、自分にとってはすごく安定したバイクに感じ、

車体が沈みこむ様に制動してくれました。バイクライフは、このバイクで終わり、やっと四輪を購入できるようになり、日産パルサーGTI（シビックSIRも候補にあった）を購入、地味な存在でしたが、車重の割りに1.8Lのエンジン、FFで直進安定性（シルビアより良かった）がよく、勉強（日産ドライビングレッスンに参加）になった車でした。その頃、一時ですが、友人とスターレットでダートトライアルに参加、楽しい思い出になりました。

その後結婚により、スープラ（かなり乗り込んだ、ターボがきいてない）が増車、そのスープラからユーノス800（結構良かった）。お気に入りのパルサーから、RX-7（インテグラ タイプRも候補）を購入、この車（トウコントロールが良くも悪くも、肝）は、スポーツカーの教習車の様な車で、今はなき仙台ハイランドサーキットや菅生サーキット、もてぎでのドライビングレッスン等、楽しんだ車でした。その後、中古のハイエース（ある意味名車）、ネットで購入したBMW740i（高級セダンはリアオーバーハングがあった方が格好いい）、メルセデス500E（高速道路最高！）を所有、現在は2台目の740i、M3（何時までたっても乗りこなせない）、ジープグランドチェロキー（アメ車もグローバル化で良くなった）を所有（外車はいずれも中古購入）しています。

わたしにとって車とは、大好きな遊び道具です。

[アンケート]

趣味・特技：片手腕立て伏せ

私の取って置き物：

ドライブの砂（ルブアルハリ砂漠の砂）

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

非常時に備える様になった。



駒橋 武

（昭和39年12月3日生）

鶴見大学歯学部

平成2年卒

私の夢

まずは90周年おめでとうございます。一時はどうなるかと思った本稿の原稿も、村本相談役、佐川会長、福島委員長のご活躍によって、何とか間に合うことができました。良かった、良かった。

私の夢、目標は、若い頃自分勝手に生きてきたので、人生の後半戦は少しでも人の役に立つことだと考えている。

歯科医療を通じ、また歯科医師会としての業務を通じ、少しは人の役に立てればと願っている。

個人的な事でいえば、まず第一には、現在もバンドをやっている（人の注目を集めたいので）後楽園スタジアムとか、横浜アリーナでライブをやりたい。ただし条件がある。満席の観客で。（現実的には不可能なのでこの話題はここまで）

第二に…（回想シーンに入ります）…あれは25歳の春だったろうか。その当時私は横浜市鶴見区の駒岡町というところに住んでおり、大学までの道中、県立三ツ池公園横を通ったものだった。

（三ツ池公園は日本の「さくら名所100選」に選ばれている。78品種およそ1600本のさくらが咲き乱れる）大学の卒業試験で徹夜して三ツ池公園の横を通り試験に向かった。確か朝の8時半頃だったと思う。カーブを曲がると突然鮮やかなピンク色の桜が咲き乱れ、寝不足でエンドルフィンが脳内に多量に出ていたせい、涙が溢れて止まらなく止まらなくなった…それ以来桜が大好きになった。

と、言うわけで、歯科を引退した暁には、南か

ら北へ、全国縦断桜見の旅を必ずしたいと思っている。これは多分、実現可能であろう。これは必ずしたいと思っていることである。

第三には、これも実現可能かどうか分からないが、ぴんぴんころりですごしたら良いなと思っている。

[アンケート]

趣味・特技：

バンド、自転車、草むしり、草刈り、薪割り

私の取って置き：

自分と係りののある全ての仲間。ウォーターフォードの「トリニティー」（薪ストーブ）。スペシャライズドの「シラス」（自転車）

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

その日の夜は、歯科医師会の役員会がありました。こんな日だから中止かと思いつながら出かけたのですが、ほぼ（いや全員だったか？）全員出席だったのには驚きました。恐るべし鹿沼歯科医師会！



茂呂 祐康

(昭和43年7月20日生)
日本大学歯学部
平成6年卒
日本大学大学院
平成12年卒

[アンケート]

趣味・特技：ドライブ、釣り

私の取って置き：仲間かな？

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

東日本大震災当日、僕は午後の患者さんの治療中でした。

いつものように患者さんと楽しく会話をしながら治療をしていると、地震が発生！いつもの地震の揺れとは違う気がしたため、即座に治療を止め、スタッフとともに患者さんと非常階段

で屋外に避難し、駐車場から地震で揺れる建物を見ながら全員の安全を確認し、“ホッ”としていたとかなり前に治療が終わった患者さんが建物から出てきました！1階のトイレに入っているときに地震にあったようです。とにかく全員無事だったことが幸いでした。

30分程して地震が落ち着いたので患者さんを帰宅させ、診療室に入ると、足の踏み場もないほど物が散乱していたが、すぐにスタッフ全員が散乱した器具を片付け、いつでも患者さんを受け入れられる体制を取ってくれたのを覚えています。

地震当時、家族の心配をしながら職場に残ってくれた、当院スタッフ全員には“感謝”の一言に尽きます。今でもこれからも心から“ありがとう！”の感謝の気持ちでいっぱいです。また、東日本大震災で亡くなられた方、その家族にお悔やみの申し上げるとともに、この悲惨な災害を忘れずにいたいと思います。



茂呂 英運

(昭和44年12月10日生)
奥羽大学
平成8年卒
同大学院口腔解剖学第2講座
平成12年卒

鹿沼歯科医師会について

自分が入会したときは、まだ上都賀歯科医師会でしたが今は、鹿沼歯科医師会に変更になりました。この歴史的な変化が起こった時に此の歯科医師会に在籍し、また歯科医師会の中で編纂事業に携われたことが誠に有意義で楽しいものでした。

僕は、三世代にわたり歯科医を生業にしている家系に生まれました。しかし、生まれた時には、すでに祖父は、亡くなっており、その人柄や、人物像などは、父親に聞いた話でしか知りえないも

のでしたが、この編纂事業を行っていくにつれ祖父の人物像や人柄が聞いていた話以外にもたくさんわかり新しい発見がありとても身近に祖父を感じることができました。それ以外にも、歯科医師会の表に出せないような裏話や、時代や社会的背景によって、その役割が変わっていくところなどが、とても興味深くまた、考えさせられるものでした、しかし先人たちの時代より変わらないものもあり

皆その時代時代で楽しみながら歯科医という職を全うしていたのだなあーと考えさせられるものがありました今の自分に置き換えてみると自分もその当時の祖父の年齢に近づいてきていますが、その足跡は、足元にも及ばないと思うとまだまだ精進しなければならないと思うところでもあります。

これからも、すべてにおいて一生懸命にやっつていこうと思いますのでよろしくお願いします。

[アンケート]

趣味・特技：

スキューバダイビング 日曜大工

私の取って置きの物：

コレクション

*ホンダ モンキー &ゴリラ&モトコンポ

*昭和44年製造 三菱ミニカ 360

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

2011年3月11日私は、日光街道を車で今市から鹿沼に向かって走行し文挾農協の交差点に差し掛かった時に震災にあいました。

車が左右にふられたのでバンクをした者と思いき車路肩に停車したのですが揺れが収まらず前方の信号機が大きく揺れて、そのうち車も激しく揺れるのを感じ瞬間的に地震が起きていることを理解しました。ですが、何を思ったのか私は『このままでは杉並木街道が倒木によって通行ができなくなってしまうのではないか？』と思い急いで車を走らせたの今でも覚えてます。

鹿沼の街中に入ると当時幼稚園生だった子供

たちのことが気になって幼稚園に行く子供たちは帰宅したと聞き急いで家に帰ろうとすると、その途中の家々の屋根瓦がすごい勢いで滑り落ちていたのを見て、これは大変なことになったと思いました。

自宅に到着し家族の無事を確認して、テレビをつけると東北の悲惨な状況が画面に映しだされその映像の中で石巻港が津波に襲われる映像が流れその映像の中で石巻に住む大学の友人の家が流されるのがはっきりと確認でき、友達の安否が心配になってできる限りの手を尽くし行方を探したのを思い出します。

それからほどなく福島原発事故の一報が入り義父母をこちらに避難させようとしたりして大変でした。その後の計画停電の時は子供たちを怯えさせないようにするために部屋の中にテント張りキャンプをしているつもりになって家の中で過ごしました。

そんなことをしているうちに大変だった時期も過ぎあの時のことが記憶の中で薄れていっているようですが、子供たちも私も地震が来るたびにあの時のことを思い出します。妻といつもあの時のことを思い出しては、良いことも悪いことも紙一重なんだと思い、毎日を家族と楽しく過ごせる幸せを日々感謝しています。



岡本 真利

(昭和50年3月25日生)

奥羽大学

平成11年卒

[アンケート]

趣味・特技：

海釣り、トライアスロン、楽器、サーフィン、スノーボード

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？
仕事してました。その際娘を実家に預けていた
ので、救命用具持参で迎えに行きました。



齋藤 由昭

(昭和48年11月13日生)
日本歯科大学新潟歯学部
平成10年卒

[アンケート]

趣味・特技：

ゴルフ、DIY (日曜大工)

私の取って置き：

大学時代を過ごした新潟とその仲間

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

長男が、妻のお腹の中に (妊娠初期3ヵ月)
地震の揺れに驚き、色々ありましたが、明る
く、元気にすくすく成長しています。



村本 創

(昭和49年1月25日生)
神奈川歯科大学
平成11年卒

[アンケート]

趣味・特技：映画鑑賞

私の取って置き：

最近は“打ち合わせ”ばかりしていて、それ以
外の印象がありません。一段落したら家族でい
ろいろ遊びにいきたいです。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

すごく覚えているのが、当日キャンセルが1
人だけだった事と待合室の玄関で患者さんのセ
メント除去を立ったままやった事です。



星 雅朗

(昭和47年5月15日生)
奥羽大学
平成10年卒

趣味について考えてみました

自分には、人に誇れる様な趣味はありません。
今までの人生がまったくの無趣味であったかとい
うとそうでもなく、どちらかといえば多趣味で
あったのかなとは思いますが、どれも長続きは
しませんでした。

小学生の頃にスイミングスクールに通い始めま
した。当時のコースでは最速を自負しており、
コーチとも今後は選手コースに進むべきか、相談
をしておりました。参考にとのことと選手コース
を見学にいったのですが、一目で自分とのレベル
の違いを痛感し、見事に天狗の鼻を折られました。
他人よりちょっと上手くなって自己満足で終了で
す。今後これを繰り返すのです。

基本的に体を動かす事は嫌いではなく、大学生
時代にはよくスキーをしていました。福島県に住
んでいたという事もあり、結構スキー場に足を運
んでいたのですが、歯科医師になったと同時に
「手を怪我したら一大事だ！」と思い、止めてし
まいました。今年の冬は、子供も大きくなったの
で雪山を見せてあげようと、17年ぶりにスキー
をやりました。子供より楽しんでしまったので
すが、「運動会のお父さん」にならなくてよかった
です。

代診時代には、ジョギングにはまっていた時期

が2回ほどありました。この頃は一人暮らしでもあったので、自由に走れてダイエットも成功したのですが、2回とも冬の到来と共にあえなく終了となりました。

筋トレもやっていました。一時は腹筋がうっすらと縦に割れ始めて大喜びをしたのですが、今では完全に横です。しかも2段…

こんな自分ですが、歯科診療は良い意味で楽しませてもらっています。父が仕事人間で、その影響を受けたのでしょうか。高校生の頃は「仕事人間にはならない!」と決めていたのですが、諦めました。そして今決めました。

趣味は歯科医です…いや、遊びで仕事をお行っていると思われたくないので、もう暫く無趣味という事にしておきます。

[アンケート]

趣味・特技:

ドライブ、公園でまったりとすごす(家族と)

私の取って置き場所:

上三川町方面の公園(複数あります)

我家では何故か?毎年1月1日はその公園で遊んでいます。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が?

DCの大きなガラスが波打つを見て「ああ1枚ウン万円のガラスが…」とってしまった自分が情けなかったです。



三浦 秀憲

(昭和45年12月23日生)

東京歯科大学

平成9年卒

創立90周年おめでとうございます。

今後ますますの発展をお祈りいたします。

自分は祖父の後を継いだ叔母のもとで勤務医として一緒に働かせて頂いています。

毎日いろいろなことがあり、日々精進しなければならないのですが現実逃避しながら働いているのが現状であります。

今後何があるかわかりませんが、一日一日を大切に努力していきたいと思えます。

ご迷惑をかけることもあるかと思いますが、これからもよろしく願いいたします。

[アンケート]

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が?

今後なにもないことを願います。



鰐原 治子

(昭和56年12月19日生)

鶴見大学

平成18年卒

まずは、鹿沼歯科医師会創立90周年おめでとうございます。まだ歯科医師になって10年も経たない私が、のびのびと診療していけるのも、鹿沼歯科医師会あってのことと思っております。

さて、私は一昨年に結婚し、日々愛しい人と幸せいっぱいイライラ少しで過ごしておりますが、

新婚旅行の際に気球に乗れなかったことが心残りではあります。ですので、治安が改善した頃にもう一度トルコに行き、気球に乗りたい！！と思っています。また、家族が元気なうちに世界遺産を巡る旅に、国内外を問わず出掛けることを目標にしたいと考えています。父母は近頃老け込んできたとは感じますが、まだまだ元気に過ごしていただけること、当たり前ですが感謝せにゃいかんとたまに思います。

そして、作った料理をまずくても美味しいと喜んでくれる人のためにも、料理のレパートリーを増やし、料理の腕を上げることも目標にしたいです。まだまだ心に秘めた夢も沢山あります。思いは大小ありますが、ゆっくりとでも形にしていければいいと思っています。

[アンケート]

趣味・特技：読書、DVD鑑賞など。

私の取って置き：

今まで出会ってきた人達。家族。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

一瞬停電し（診療中でした）、棚から物が飛び出すことはなかったものの、別の所の本棚の上の物が落ちていたりしていました。生きてきた中では一番恐怖を感じた地震でした。



茂呂 尚紀

（昭和51年10月19日生）

奥羽大学

平成14年卒

我が家の犬

我が家には私以上にだらけた駄犬がいる。「ラッキー（幸運）」と父が名付けたなんちゃってゴールデンレトリバーだ。ちなみに私は愛称を込めて「ラッキ〜（ゴールデンバカリバー）」と呼んでいる。

このワン子だが、母の暴挙により大型犬なのに座敷犬化してしまい家猫4匹（以前弟が拾ってきた）と共に我が家を盛大に毛だらけにしてくれる上、犬猫臭も充満させてくれる少し困った存在だ。

ご飯のときでもこの犬は父のそばでオカズの残りをねだり、母が飲んだ後のビール缶を咬んで遊び、気がつけばビールの酒気にあてられダウンしている。私には「僕達（私と犬）の境界線」と呼ばれている一足一刀の間合のような空間があり被害は少ない。だが、それでもたまにこんな私にも健気に伏せをしてちらちらご飯をねだる姿を見るとついつい骨や犬用おやつをあげてしまう。「名は体を表す」というがこの駄犬に関しては「ラッキー（幸運）」と言う名前がよく似合っていると思う。

こんな駄犬だが、見知らぬ人にはもう1匹の老犬（黒柴犬）と共に一応吠えて警戒してくれるので一応番犬？として仕事をしていることと、毎日の散歩で運動療法による父の糖尿病の改善がはかれたことはこの犬のおかげではあると思う。

日々の散歩もこの犬はゴールデンレトリバーという犬種の性質なのか？それとも我が家のいい加減な生活環境にもよるものか？自分より小さいものには非常に鷹揚でご近所の親や子供さん達には

「ラッキーちゃん♪」と親しまれ、幼児達に頭や鼻先をぺしぺし叩かれてものんびり尻尾をゆらしされるがままの自然体なのである。

普通の犬なら見知らぬ子供達には警戒して唸るのにこの犬は尻尾を振って唸ったことは一度も無い。

そんな我が家のワン子を見ると「お前は大物だな」と感じてしまう。そんな今日この頃。

[アンケート]

趣味・特技：旅行、散策等

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

震災後、防災グッズ等に入っている長期保存可能な水とは別に災害時に多目的で使用できるよう、ある一定量の水を自宅に保管し、定期的に交換するよう心がけています。



和久井崇大

(昭和46年10月20日生)

鶴見大学歯学部

平成9年卒

最近の趣味

平成27年4月に獨協医大より上都賀総合病院 歯科口腔外科に赴任して参りました。鹿沼歯科医師会の会員の先生方には日頃多くの患者さんをご紹介頂き、大変お世話になっております。お陰様で赴任しておよそ3ヶ月が過ぎようとしていますが、毎日が忙しく振り返ってみるとあっという間の3ヶ月でありました。これからも微力ながら皆様のお力になれるよう努めて参りますので今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。さて、先日、本原稿の執筆のお話を頂きました。若いころは色々と趣味もありましたが、今は仕事

や子育てに追われ、趣味といえるものがなくなっていることに気がつき、何を書こうかなと悩みました。考えた結果、しいていえばドライブや旅行が趣味といえるでしょうか。なかなかまとまった休暇がとれないので遠出はできませんが、ドライブは良い気分転換になっていると思います。また、数年に一度ですが、子供たちの夏休みにあわせて、家族旅行に出かけています。海で泳いだり旅先での名物を食べたりと、子供たちも楽しみにしていますが、自分自身も家族と過ごす貴重な時間を楽しんでいます。今は子供たちの成長が一番の楽しみでもあります。あと数年で子供たちも子離れしていくのかなと考えると寂しい気もします。そこで、何か趣味を作ってみようと、この原稿を書きながら考えました。最近、息子が釣り竿を買ったので、息子と釣りに出かけました。小学生のころに近所の川へ魚釣りに出かけて以来、数十年ぶりに釣り竿をにぎりました。結果は一匹も釣れませんでしたでしたが、童心にかえて楽しむことができました。これまで2度しか行っていませんが、自然のなかで過ごすのはとても楽しいことなのだと思改めて再認識しました。若いころの趣味はインドアなものであったので、これからはなにかアウトドアなことを趣味としていきたいと思っています。

[アンケート]

趣味・特技：ドライブ

私の取って置き：

北海道産ししゃもの刺身。

上都賀総合病院8階からの眺め。

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

①自宅に帰ったら買って間もなかったプラズマテレビが倒れ画面が割れて見られなくなりました。

②地震の翌日からオーストラリアで国際学会がありました。参加する医局の先生たちは混乱のなか、成田までタクシーで行き学会に出発したそうです。



泉 さや香

(昭和51年1月2日生)

神奈川歯科大学

平成12年卒

[アンケート]

趣味・特技：ドライブ

私の取って置き：

趣味 食べる事。 特技 どこでもすぐねれる。

私の取って置きの場所：

私のとっておきの場所は、京都市太秦にある「広隆寺」ですが、このお寺には国宝「弥勒菩薩半跏思惟像」があり、不思議なお顔で、思索しているのです。その正面にすわり頭の中をからっぽにしてぼーっと座っているのが、何よりも心地いいのです！！

私の東日本大震災 3.11 私の周りで何が？

東日本大震災のあった日、私の祖父は海の上にいました。というのも和歌山で漁船となりうる船を購入し、沖永良部島（沖縄の近く）まで、自分で操縦しながら帰ってくる途中だったので。津波の影響を心配し、何度も連絡を試みましたが、洋上だったせいか、または地震のため電話回線が寸断されていた為か、無事を確認する事ができなかったのを覚えています。幸いにして祖父は瀬戸内海を航海しており、被害をまぬがれました。船も沖永良部島に到着し、リニューアルされ、父と祖父をのせ、今日も沖にでています。

受章(賞)者一覧

鹿沼歯科医師会各賞表彰歴一覧 (平成27年度現在)

平成 21 年度 (49 回)

知 事 賞	川 嶋 仁 一		
大 会 長 賞	菊 地 香		
センター所長賞	畑 和 美	大 貫 真 裕	
鹿沼市功労者	佐 川 徹 三		

平成 22 年度 (50 回)

大 会 長 賞	田 辺 章		
センター所長賞	本 島 栄 人	駒 橋 武	
鹿沼市功労者	菊 地 香		
県 歯 大 塚 賞	木 村 佐智子		
学 校 保 健 賞	佐 川 徹 三		

平成 23 年度 (51 回)

知 事 賞	鰐 原 公 子		
大 会 長 賞	鈴 木 節 夫		
センター所長賞	手 塚 史 雄		
鹿沼市功労者	田 辺 章		

平成 24 年 (52 回)

大 会 長 賞	菊 地 均		
センター所長賞	鈴 木 定 幸		
鹿沼市功労者	茂 呂 兀		

平成 25 年度 (53 回)

知 事 賞	佐 川 徹 三		
センター所長賞	岸 野 昌 彦		
鹿沼市功労者	鈴 木 節 夫		

上都賀齒科医師会史寄贈後の礼状及び寄贈依頼

0000014040

322-0057
栃木県鹿沼市寺町1346
佐川徹三様方

上都賀齒科医師会 御中

平成23年 9月20日
国立国会図書館

お礼状

この度は、別紙の刊行物を御寄贈いただき、厚く御礼申し上げます。
今後も国立国会図書館の事業に対し、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

御寄贈いただきました刊行物は、当館ホームページ上の『日本全国書誌』に書誌情報を掲載いたします。『日本全国書誌』は、当館が収集整理した国内出版物及び外国刊行日本語出版物について標準的な書誌情報を編集し、広く国内外に速報するものです。検索をしたい場合や詳細な書誌情報をお知りになりたい場合にはNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）やアジア言語OPACを御利用ください。

『日本全国書誌』 http://www.ndl.go.jp/jp/publication/jabw/jab_top.html
NDL-OPAC <http://opac.ndl.go.jp/index.html>
アジア言語OPAC <http://asiaopac.ndl.go.jp/>

なお、刊行物を御寄贈いただいた際に当館が取得した個人情報、当館の収集業務のみに利用し、他の目的のために利用することはありません。

別紙の取り扱い区分について

- ・空欄のもの（例も記載のないもの）……… 単行資料として受入れをいたしました。
- ・「逐次刊行物」と記載のあるもの……… 当館では、継続的に刊行されるものは、逐次刊行物として取っております。逐次刊行物扱いとさせていただきます場合は、誠に勝手ながら初期のみのお礼状を差し上げ、次回以降は省略させていただきます。また次回以降は、資料を「逐次刊行物・特別資料 譲受入庫」あてに御送付くださいますようお願いいたします。
- ・「執務参考用資料」と記載のあるもの……… 当館では、整理対象外のため、執務参考用資料等として利用させていただきます。

御不明な点につきましては、下記係まで別紙の「資料問い合わせ番号」で御照会ください。

〒100-8924
東京都千代田区永田町1-10-1
国立国会図書館 収集部誌部 国内資料課 収集第二系
Tel. 03 0560 5111（直通）

国立国会図書館

平成 23 年 9 月 11 日

上都賀齒科医師会 様

栃木県立図書館長

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、貴重な下記資料を御寄贈くださいまして、誠にありがとうございました。
御寄贈いただいた資料は当館に保存して利用に供し、御厚志に報いたいと存じます。
今後とも御協力くださいますようお願い申し上げます。

記

上都賀齒科医師会史-創立85周年記念- 計3部

この度は貴重な資料をご送贈いただき、誠にありがとうございました。
当館の所蔵資料として活用させていただきます。
今後ともよろしくお願いたします。

〒320-0027 宇都宮市瑞田 1-3-23
栃木県立図書館
資料課
TEL 028-622-0105
FAX 028-624-7855
佐川 幸平

栃木県立図書館

2012年 1月 12日

〒322-0043
栃木県鹿沼市万町9 3 1-1
鹿沼市総合福祉センター内
上都賀齒科医師会
総務部総務課 御中

大阪経済大学
中小企業・経営研究所
所長 藤本 寿良 謹

資料のご寄贈依頼について（お願い）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、弊研究所では、各界のご理解をえて、社史、団体史を積極的に収集してまいりました。貴ご刊行の下記資料は、まことに貴重な内容と存じますので、弊研究所の社史・団体史関係コレクションに永く保存し、研究資料として内外の利用者に提供したいと願っています。
つきましては、まことに恐縮でございますが、もし、残余がありましたら一部をご惠贈賜りますようお願い申し上げます。
なお、送料につきましては、寄払いでお送り頂いても結構です。
ご多忙のところ、お手数をおかけいたしますが、よろしくお願申し上げます。

敬具

記

◎ 上都賀齒科医師会史
(創立 85 周年記念 上都賀齒科医師会、上都賀齒科医師会創立 85 周年記念誌編集委員会編 2011.3発行)

1部
以上

追伸 上記の貴ご刊行資料につきましては、国立国会図書館の「日本全国書誌」に掲載されている出版情報に基づいています。

【ご案内】
弊研究所は、1983年に設立して以来、国際的視野での中小企業研究、産業構造・政策研究、並びに、企業研究の重要性を認識し、活動を促進している研究機関です。専門分野の職務は、創業者から深い評価を受け、内外の方々からの利用が多くあります。また、研究活動の社会的貢献という観点から、研究者のみならず、産業界、行政機関の方々との交流の輪を広げ、知と情報の広場を構築したいと願っています。

大阪経済大学 中小企業・経営研究所
〒539-8538 大阪市東淀川区大綱二丁目2番8号
電話 06-6329-2431 FAX 06-6329-2643
担当：野田

大阪経済大学 中小企業・経営研究所

付 録

研修会・講演会等一覧

歯科保健指導者講習会

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共催 市民公開講座

鹿沼地区歯科医師警察連絡会総会特別講演会

臨床研修会(調査委員会担当…平成25年より企画広報委員会)

公衆衛生研修会

県央四歯科医師会合同学術研修会

研修会・講演会等一覧

歯科保健指導者講習会

昭和60年8月23日（金）PM2:00（幼稚園・保育所合同歯科研修会）

上都賀歯科医師会 金子 智英 先生 「就学前児童のむし歯予防について」

上都賀衛生士会 中田 和子 先生 「就学前児童のむし歯予防について」

昭和61年8月20日（水）PM1:00（学校歯科研修会）

上都賀歯科医師会 高崎 道子 先生 「ブラッシング指導の実際」

上都賀衛生士会 保坂弥生子 先生 「ブラッシング指導の実際」

養 護 教 諭 福田 君枝 先生 「歯みがきテストの結果について」

昭和62年8月25日（火）PM1:30（幼稚園・保育所合同歯科研修会）

もみやま保育所主任保母 鈴木富美子 先生 「おやつについてのアンケート調査結果報告」

上都賀歯科医師会 佐川 徹三 先生 「おやつと小児の健康について」

上都賀衛生士会 荒井 妙子 先生 「ブラッシング指導の実際」

昭和63年8月25日（火）PM1:30（学校歯科研修会）

上都賀歯科医師会 齊須わか子 先生 「小学校低学年への歯科衛生講話」

上都賀歯科医師会 石崎 誠 先生 「小学校高学年への歯科衛生講話」

上都賀歯科医師会 鈴木 節雄 先生 「中学生への歯科衛生講話」

上都賀歯科医師会 田代 高志 先生 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング法について」

上都賀衛生士会 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング法について」 実習

平成元年8月24日（木）PM1:30（幼稚園・保育所合同歯科研修会）

中央保育所主任保母 福田 勝枝 先生 「保育所における虫歯予防の実際」

上都賀歯科医師会 福嶋 隆夫 先生 「乳幼児の虫歯予防」

上都賀衛生士会 梅野 悦子 先生 「乳幼児の歯みがき指導法」

平成2年8月23日（木）PM1:30（学校歯科研修会）

上都賀歯科医師会 中條佐智子 先生 「小学生の歯列の特徴について」

上都賀衛生士会 「上都賀歯科医師会統一ブラッシング法について」 デモ

平成3年8月19日（月）PM1:30（幼稚園・保育所合同歯科研修会）

藤田保健衛生大学 口腔外科 桑原未代子 先生 「咬むことについて」

平成4年8月21日（金）PM1:30

宇都宮市立明保小学校養護教諭 鈴木百合子 先生 「学校における歯科保健」

平成5年8月24日（木）PM1:30（幼稚園・保育所等合同歯科研修会）

上都賀歯科医師会 金子 實 先生 「子供の歯の発達とむし歯予防」

平成6年8月18日（木）PM1:30

藤田保健衛生大学 医学部 桑原未代子 先生 「子供の口腔内軟組織疾患について」

平成7年8月24日（木）PM1:30

日本大学歯学部小児歯科学教室 講師 中島 一郎 先生 「子供のそしゃく能力と食生活」

平成8年8月21日（水）PM1:30

日本大学歯学部矯正学教室 非常勤講師 坂入 博 先生 「歯の外傷について」

平成9年8月20日（水）PM1:30

昭和大学歯学部小児歯科学教室 講師 向山賢一郎 先生 「乳幼児の口腔内環境について」

平成10年8月20日（木）PM1:30

栃木県歯科医師会 学校歯科担当常務理事 岡本 全宏 先生 「学校歯科保健 -CO, GO中心に-」

- 平成11年8月19日(木) PM1:30
栃木県衛生福祉大学校 佐藤 栄子 先生・久保井久子 先生・佐藤 妙子 先生・小川 洋子 先生
「乳幼児のブラッシング指導」 実習「ブラッシング指導のポイント」
- 平成12年8月22日(火) PM1:30
歯科医師〔東京都開業〕倉治ななえ 先生
「キレル理由は歯にあった」 -美しい歯と心を育てる歯科を目指して-
- 平成13年8月23日(木) PM1:30
歯科医師〔東京都開業〕倉治ななえ 先生 「子育て歯科で美しい歯を育てましょう」
-パーフェクト歯磨きレッスンとキシリトールを使った新しいむし歯予防-
- 平成14年8月22日(木) PM1:30
明海大学歯学部口腔衛生学講座 教授 安井 利一 先生 「生きる力と学校歯科保健活動」
-歯・口腔から学ぶ児童生徒等の健康づくり-
- 平成15年8月21日(木) PM1:30
歯科医師〔東京都開業〕グリーンンせつる 先生 「未就学児童のための実践的な歯科口腔保健指導」
- 平成16年8月26日(木) PM1:30
東京歯科大学教授スポーツ歯学研究室主任 石上 恵一 先生 「スポーツ外傷とマウスガードの有効性」
- 平成17年8月4日(木) PM1:30
昭和大学歯学部小児成育歯科学教室 助教授 井上美津子 先生
「口から育つ子どものこころと身体」 -“食べる”の発達と口の健康-
- 平成18年8月24日(木) PM2:00
(社)日本学校歯科医会・(社)東京都学校歯科医会理事・品川学校歯科医会長・医療法人アリスバンビーニ小児歯科
医学博士 丸山進一郎 先生 「学校歯科保健からみた『食育』の意義」
- 平成19年8月9日(木) PM2:00
社会福祉法人子ども虐待防止センター評議員・練馬保健所嘱託医・とよたまこころの診療所長
精神科医 鷲山 拓男 先生 「幼児・児童の虐待について」
- 平成20年8月21日(木) PM2:00
前東京都中央区立泰明小学校校長・東京都教職員研修センター研修指導員
木暮 義弘 先生 「学校歯科保健の発展のためのアプローチ」
- 平成21年8月27日(木) PM2:30
(財)児童育成協会 こどもの城 小児保健部 技術主任 太田百合子 先生
「離乳食から乳幼児への咀嚼の重要性と小児メタボリックシンドロームについて」
- 平成22年7月29日(木) PM2:30
(財)ライオン歯科衛生研究所 口腔保健部 チーフ歯科衛生士 黒川亜紀子 先生
「学校歯科保健の実際 -現在取り組んでいる事例紹介-」
- 平成23年8月25日(木) PM2:00
日本歯科大学 生命歯学部 准教授 小児歯科科長 田村 文誉 先生
「乳幼児期において上手に食べるために」 -乳幼児の摂食指導を中心に-
- 平成24年8月23日(木) PM2:00
栃木県歯科医師会 学校歯科委員会 委員長 菊地 英世 先生
「学校歯科検診におけるCO・GOの考え方」 -事後措置を含めて-

平成25年8月27日（火）PM2:00

宇都宮大学 教育学部 特別支援教育専攻 教授 梅永 雄二 先生

「一緒に考えてみませんか？ 発達障害や特別支援のこと」

－ 少子高齢社会の中、共に生きる道を求めて－

平成26年8月24日（日）PM2:00

東京大学 先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 准教授 近藤 武夫 先生

「障害のある児童生徒・学生への合理的配慮とは」

－ 学びの困難にどのように取り組むべきか テクノロジーを活用した学習の支援も含めて－

鹿沼市・鹿沼歯科医師会共済 市民公開講座

平成19年12月9日（日）PM1:30（口腔ケア研修会）於）鹿沼市消防本部大会議室

日本歯科大学 歯学部 准教授・口腔介護リハビリセンター長 菊谷 武 先生 「口は元気の素」

平成20年10月5日（日）PM1:30（鹿沼市 市制60周年記念）於）市民情報センター マルチメディアホール

日本歯科大学 歯学部 准教授・口腔介護リハビリセンター長 菊谷 武 先生

「口をまもる。暮らしをまもる。命をまもる口腔ケア」－口の中から全身の健康を考える－

平成22年2月21日（日）PM1:30 於）市民情報センター マルチメディアホール

米山歯科クリニック院長 医学博士 米山 武義 先生

「口は長寿の門…正しい口腔ケアでQOLの維持と介護予防」

平成23年2月11日（金）PM2:30 於）市民文化センター 小ホール

日本歯科大学歯学部教授・附属病院口腔介護リハビリテーションセンター長・大学院生命歯学研究科
臨床口腔機能学 菊谷 武 先生

「命を守る。暮らしを守る口腔ケア Part II」－単に長命というだけで良いのですか－

平成23年12月11日（日）PM2:30 於）市民文化センター 小ホール

日本歯科大学 附属病院 准教授 原 節宏 先生

「食は地球とコミュニケーション」－世界で一番おいしさがわかる日本人の噛み合わせ－

平成24年12月9日（日）PM2:30 於）市民文化センター 小ホール

岡山大学 小児歯科 講師 岡崎 好秀 先生

「クイズで語る おもしろ食育 最前線」－健口から健考、健幸へ－

平成25年12月8日（日）PM2:30（鹿沼市 市制65周年記念）於）市民情報センター マルチメディアホール

日本歯科医師会 常務理事 倉治ななえ 先生

「歯がいい人はボケにくい」－元気でハツラツとした生涯をおくる為に－

平成26年12月14日（日）PM2:30 於）市民文化センター 小ホール

日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座 主任教授 沼部 幸博 先生

「歯周病予防で健康寿命アップ！！」－全身の健康はお口の中から－

鹿沼地区歯科医師警察連絡会総会特別講演会

第1回 平成4年2月24日（月）PM3:00

東京歯科大学 法歯学教室 主任教授 鈴木 和男 先生「歯科的身元確認について」

第2回 平成4年10月31日（土）PM3:00

東京歯科大学 名誉教授 鈴木 和男 先生「法歯学の現場」

-
- 第3回 平成5年11月12日(金) PM4:30
東京歯科大学 名誉教授 鈴木 和男 先生「死体に歯あり」
- 第4回 平成6年11月15日(火) PM4:00
獨協医科大学 法医学教室 助教授 高橋 雅典 先生「法医学及び捜査における歯科医学とその実態」
- 第5回 平成7年11月15日(水) PM4:00
東京歯科大学 特任教授 鈴木 和男 先生「死体に歯あり」
- 第6回 平成8年11月8日(金) PM3:00
東京歯科大学 特任教授 鈴木 和男 先生「人の命」
- 第7回 平成9年11月13日(金) PM3:00
獨協医科大学 法医学教室 助教授 高橋 雅典 先生
「法医学及び捜査における歯科医学とその実際」－最近のDNA鑑定について－
- 第8回 平成10年11月12日(木) PM3:00
獨協医科大学 法医学教室 助教授 高橋 雅典 先生
「法医学及び捜査における歯科」－最近の事例を中心に－
- 第9回 平成11年11月11日(木) PM3:00
東京歯科大学 法歯学教室 特任教授 鈴木 和男 先生「人の命の大切さ」
- 第10回 平成12年11月29日(水) PM3:00
獨協医科大学 法医学教室 助教授 高橋 雅典 先生
「法医学における個人識別」－その方法のあれこれ－
- 第11回 平成13年11月14日(水) PM3:00
元東京都監察医務院長 上野 正彦 先生「逆さの視点」－死から生を見る－
- 第12回 平成14年11月7日(木) PM3:00
栃木県カウンセリングセンター 所長 日野 宜千 先生
「異常心理学について」－人間の心の光と闇－
- 第13回 平成15年11月13日(木) PM3:00
元東京都監察医務院長・医学博士 上野 正彦 先生「逆さからの視点PartⅡ」－死から生を見る－
- 第14回 平成16年11月18日(木) PM3:00
獨協医科大学 法医学教室 助教授 高橋 雅典 先生
「身元確認における歯科鑑定の意義」－歯科所見かDNAか－
- 第15回 平成17年11月9日(水) PM3:00
上智大学 名誉教授 福島 章 先生「少年犯罪の変化とその背景」
- 第16回 平成18年11月9日(木) PM3:00
東京工業大学 健康管理センター 教授 影山 任佐 先生「空虚な自己の時代とのび太症候群」
- 第17回 平成19年11月8日(木) PM4:00
総合研究大学院大学 教授 長谷川真理子 先生
「日本人の殺人：戦後50年の変化」－人はなぜ人を殺すのか－
- 第18回 平成20年11月13日(木) PM3:00
帝塚山学院大学 人間文化学部 教授 小田 晋 先生「現代の犯罪とプロファイリング」
- 第19回 平成21年11月11日(木) PM3:00
東京歯科大学 法歯学講座 准教授 花岡 洋一 先生
「歯科的個人識別」－その落とし穴と最新技術－

第20回 平成22年11月18日 (木) PM3:00

総合研究大学院大学 教授 長谷川真理子 先生

「家族内の対立と葛藤」－家族の絆とセイフティ・ネット－

第21回 平成23年11月10日 (木) PM3:00

東京歯科大学 法歯学講座 准教授 花岡 洋一 先生

「歯科的個人識別 実習編」－東日本大震災における活動報告とともに－

第22回 平成24年11月1日 (木) PM3:00

東京歯科大学 法歯学講座 准教授 花岡 洋一 先生

「歯科界の新たな役割」－子ども虐待の根絶といじめへの取組み－

第23回 平成25年11月7日 (木) PM3:00

法政大学 文学部 心理学科 教授 越智 啓太 先生

「犯罪心理学を使った犯人の行動パターンの分析と予測」－大量殺傷事件と「黒い未亡人型」連続殺人－

第24回 平成26年11月12日 (水) PM3:00

奥羽大学 歯学部 生体構造学講座 法歯学 教授 花岡 洋一 先生

『大規模災害時における歯科界の活動と新たな留意点～地域防災計画と死因究明関連2法の成立を受けて～』

臨床研修会・調査委員会担当 (平成25年より企画広報委員会)

第1回 平成11年10月26日 (火) PM7:00

上都賀歯科医師会 総務理事 田代 高志 先生 「歯科におけるコンピュータの利用法」

第2回 平成12年10月25日 (水) PM7:00

上都賀歯科医師会 田代 高志 先生 鈴木 裕之 先生 「パソコン講座 第2回」

～ パソコンの操作と実践 ～

第3回 平成13年3月10日 (土) PM7:00

上都賀歯科医師会 田代 高志 先生 鈴木 裕之 先生 「パソコン講座 第3回」

～ Word の操作とインターネット接続 ～

第4回 平成13年5月23日 (水) PM7:00

上都賀歯科医師会 田代 高志 先生 鈴木 裕之 先生 「パソコン講座 第4回」

～ エクセルの操作とインターネット接続 ～

第5回 平成14年10月29日 (火) PM7:00

小野内科循環器科医院 小野 彰史 先生 「高血圧症について」

第6回 平成14年11月11日 (月) PM7:00

上都賀歯科医師会 総務理事 田代 高志 先生 「パソコン講座 第5回」

～ Power Point を使ったスライドの作り方 ～

第7回 平成15年2月17日 (月) PM7:00

小野内科循環器科医院 小野 彰史 先生 「心電図の読み方・考え方」

第8回 平成15年7月16日 (水) PM7:00

上都賀総合病院 内科 中村 晋 先生 「糖尿病について」

第9回 平成15年10月27日 (月) PM7:00

上都賀総合病院 副病院長 一戸 彰 先生 「B型・C型肝炎について」

第10回 平成16年2月24日 (火) PM7:00

小林産婦人科医院 院長 小林 一彦 先生 「知っておきたい性行為感染症」

-
- 第11回 平成16年7月26日(月) PM7:00
鹿沼病院 院長・理事 駒橋 徹 先生「老人の特性について」～痴呆を中心に～
- 第12回 平成16年11月24日(水) PM7:00
池田脳外科 院長 池田俊一郎 先生「脳卒中について」
- 第13回 平成17年3月10日(木) PM7:00
キンダーケア動物病院 獣医師 村井 妙 先生「動物由来感染症について」
- 第14回 平成17年7月25日(月) PM7:00
上都賀総合病院 内科部長 駒場 明 先生「中高年が注意しなければならない疾患」
- 第15回 平成18年3月15日(水) PM7:00
吉沢眼科医院 院長 吉沢 徹 先生「加齢に伴う眼疾患について」
- 第16回 平成18年9月20日(水) PM7:00
奥山医院 院長 奥山 明彦 先生「血液疾患について」
- 第17回 平成18年10月17日(火) PM7:00
足利赤十字病院 口腔外科 部長 山根 伸夫 先生「歯科診療における救急処置と救急薬品の使い方」
- 第18回 平成19年3月20日(火) PM7:00
藤沢皮膚科医院 院長 藤沢 崇行 先生「皮膚疾患について」
- 第19回 平成19年8月27日(月) PM7:00
細川医院 細川 朋子 先生
「耳鼻咽喉科の疾患について(歯科関係)」～歯性上顎洞炎・睡眠時無呼吸症候群について～
- 第20回 平成20年2月12日(火) PM7:00
竹村内科腎クリニック 院長 竹村 克己 先生「腎不全患者の歯科治療」
- 第21回 平成18年10月17日(火) PM7:00
足利赤十字病院 口腔外科 部長 山根 伸夫 先生 講演：「日常行われる小手術の実際と救急蘇生について」 実習：「心肺蘇生・AED・血管確保について」
- 第22回 平成20年6月27日(金) PM7:00
いとうこどもクリニック 院長 伊藤 直実 先生
「夏に向かってよく見る小児疾患」～顎・顔面領域を中心に～
- 第23回 平成20年11月26日(水) PM7:00
鹿沼整形外科 院長 大西 正康 先生「スポーツ医学」
- 第24回 平成21年6月12日(金) PM7:00
上都賀歯科医師会 専務理事 田代 高志 先生「パワーポイントの使い方 Part 1」
- 第25回 平成21年8月10日(月) PM7:00
老人保健施設 かみつが 施設長 須田 啓一 先生「老健からみた高齢者医療と介護保険」
- 第26回 平成21年10月26日(月) PM7:00
いとうこどもクリニック 院長 伊藤 直実 先生「新型インフルエンザについて」
- 第27回 平成23年1月19日(水) PM7:00
上都賀総合病院リウマチ膠原病内科 院長 花岡 亮輔 先生「リウマチ膠原病について」
- 第28回 平成24年4月28日(木) PM7:00
上都賀歯科医師会 専務理事 田代 高志 先生「パワーポイントの使い方 応用編」
- 第29回 平成23年5月10日(火) PM7:00
大井田医院 院長 大井田宗継 先生「放射線被曝 今せまる危機」

第30回 平成24年2月15日(水) PM7:00

特定医療法人 清和会 鹿沼病院 院長 駒橋 徹 先生

「心の闇について考える…実は精神科医もよくわからない」

第31回 平成24年11月5日(月) PM7:00

上都賀歯科医師会 専務理事 田代 高志 先生「無料で簡単なホームページの作り方」

第32回 平成25年2月13日(水) PM7:00

上都賀総合病院 リウマチ膠原病内科 部長 花岡 亮輔 先生・上都賀総合病院 歯科口腔外科 泉 さや香 先生「誤嚥性肺炎の予防に必要な歯科的アプローチ」

第33回 平成25年11月11日(月) PM7:30

倉持整形外科 星野 亮一 先生「骨粗鬆症の診断と治療」～歯科との関連性について～

第34回 平成26年3月6日(木) PM7:00

県西健康福祉センター 生活衛生課 副主管 戸室健太郎 先生「食中毒について」

第35回 平成26年8月26日(火) PM7:00

(株)大塚製薬工場 OS-1 事業部 大宮支店 サプリメントアドバイザー 別島 徹憲 先生

「熱中症とは？」～熱中症の対応と対策について～

第36回 平成27年2月10日(火) PM7:00

医療法人天貴会 大野医院 大野 貴史 先生

「妊娠時における歯科診療の留意点について」～歯科医師は特にどのような点に配慮すべきか～

公衆衛生研修会

昭和61年2月23日(火) AM10:00 (予防研修会)

丸森 賢二 先生「成人の為のブラッシングについて」実習・講義

昭和62年8月22日(土) PM6:00 (研修会)

獨協医科大学口腔外科 講師 笠倉 達雄 先生「全身疾患と歯科治療」

昭和63年1月23日(土) PM2:00 (予防研修会)

花王第一研究所 副主任 辻田 敏 先生「刷掃用器具の基礎知識」

平成2年6月17日(日) AM10:00 (予防研修会)

東京都立老人医療センター歯科口腔外科部長 渡辺 郁馬 先生

「高齢者(寝たきり老人を含む)の歯科医療」

平成10年2月19日(木) PM2:00

日本歯科大学 高齢者歯科診療科 助教授 鈴木 章 先生「天然素材甘味料キシリトールの可能性」

平成11年12月11日(土) PM7:00 (公衆衛生・学術合同研修会)

医療法人 北斗会 宇都宮東病院 理事長 尾崎 史郎 先生

「21世紀に向かって老人問題を考える」－いかに老人問題をノーマライズするか－

平成14年2月28日(木) PM2:00

日本歯科大学 衛生学講座 助教授 福田 雅臣 先生「最近のフッ化物応用の考え方」

平成15年2月27日(木) PM2:00

日本歯科大学 衛生学講座 助教授 福田 雅臣 先生

「健康日本21と歯科保健」－成人歯科保健活動の進め方・とらえ方－

- 平成16年2月11日(水) PM2:00(学術・公衆衛生合同研修会)
自治医科大学 歯科口腔外科学講座 教授 草間 幹夫 先生
「注意して欲しい顎口腔疾患」－口腔疾患の鑑別を中心に－
- 平成17年3月10日(木) PM7:00
キンダーケア動物病院 獣医師 村井 妙 先生「動物由来感染症について」
- 平成18年2月26日(日) PM1:30(学術・公衆衛生合同研修会)
日本歯科大学 歯学部歯周病学講座 教授 沼部 幸博 先生
「命をねらう歯周病」－歯周病と全身疾患との関わり。全身の健康は口の中から－
- 平成19年2月25日(日) PM2:00(公衆衛生・学術合同研修会)
日本歯科大学歯学部助教授・口腔介護リハビリセンター長 菊谷 武 先生
「新しい介護保険は口腔に何を求めているのか？」
- 平成19年7月1日(日) PM1:30(公衆衛生・学術合同研修会)
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授・日本歯科大学院新潟生命歯学研究科
機能性咬合治療学教授 小出 馨 先生 「明日から導入できる顎機能の診査・診断システム」
－チェアサイドで行う簡便で有能な顎関節と筋触診法の実際－
- 平成20年1月27日(日) PM1:30(公衆衛生・学術合同研修会)
日本歯科大学 歯学部 准教授・口腔介護リハビリセンター長 菊谷 武 先生
「後期高齢者医療がもつめる口腔の役割」－その評価と対応－
- 平成20年7月13日(日) AM10:30(公衆衛生・学術合同研修会)
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授・日本歯科大学院新潟生命歯学研究科
機能性咬合治療学教授 小出 馨 先生
「チェアサイドで行う簡便で有能な顎関節と筋触診法の実際 実技編」
- 平成21年1月25日(日) PM1:30(学術・公衆衛生合同研修会)
獨協医科大学 口腔外科学講座 教授 今井 裕 先生
「医療安全管理と最近のトピックス」－改正医療法で求められる医療安全対策を踏まえて－
- 平成21年7月26日(日) PM1:00(学術・公衆衛生合同研修会) 【 】内は担当支部
日本歯科大学 生命歯学部 歯科放射線学講座 教授 代居 敬 先生
「エックス線による画像診断と最近のトピックス」
- 平成22年7月4日(日) PM1:30(公衆衛生・学術合同研修会)
東京歯科大学 市川総合病院 臨床検査科病理 教授 田中 陽一 先生「口腔ガン細胞解説と実技」
- 平成23年7月24日(日) PM1:30(学術・公衆衛生合同研修会)
足利日本赤十字病院 口腔外科 部長 山根 伸夫 先生
「最近の口腔外科のトピックスと日常臨床において注意しなければならないこと」
－医療安全管理を踏まえて－
- 平成24年7月1日(日) PM2:00(学術・公衆衛生合同研修会)
獨協医科大学 口腔外科学講座 教授 今井 裕 先生
上都賀総合病院 歯科口腔外科 開設記念 ①「病診連携の意義と将来展望」 ②「医療安全管理に
ついて」－医療事故防止と医療事故発生時の対応を中心に－
- 平成26年7月27日(日) PM2:00(学術・企画広報合同研修会)
獨協医科大学 口腔外科学講座 特任教授 今井 裕 先生
「口腔外科の最新情報と医療安全における注意すべき問題点について」－骨粗鬆症対応も含めて－

県央四郡市歯科医師会合同学術研修会一覧

- 1 【今市（三支部）】昭和59年10月7日 於）鬼怒川温泉 花の宿「松や」コーヌスクローネについて
日本歯科大学 補綴学第二講座 助教授 稲葉 繁 先生
- 2 【上都賀（三支部）】昭和60年6月30日 於）鹿沼市 ハッピー会館 総義歯におけるオクルージョンについて
阿部晴彦総義歯研究所 所長 阿部 晴彦 先生
- 3 【宇都宮市】昭和61年7月20日 於）宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯科治療に伴う合併症と医事紛争
東京歯科大学 麻酔学教室 教授 久保田康耶 先生
- 4 【芳賀】昭和62年7月12日 於）真岡市 青年婦人会館 口腔領域に現れる症状の診断を中心に
日本歯科大学 新潟歯学部 教授 西村 恒一 先生
- 5 【今市】昭和63年9月23日 於）今市市 木村屋ホテル ペリオの診査・診断を中心として
日本歯科大学 助教授 岡本 浩 先生
- 6 【上都賀】平成元年9月15日 於）鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター 最近の小児歯科の動向について
藤田学園保健衛生大学医学部歯科口腔外科学講座助教授 桑原未代子 先生
- 7 【宇都宮市】平成2年9月9日 於）宇都宮市 センチュリー平安 歯内療法の最新情報について
日本大学 歯学部 教授 齊藤 毅 先生
- 8 【芳賀】平成3年8月25日 於）真岡市 青年婦人会館 歯冠修復（充填）学最近の研究から
東北大学 教授 奥田 禮一 先生
- 9 【今市】平成4年9月15日 於）今市市 木村屋ホテル 日常臨床における有歯顎の咬合の与え方
日本歯科大学 教授 小林 義典 先生
- 10 【上都賀】平成5年9月26日 於）鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター 歯科医療費の現状と歯科界の
将来展望 京都大学 経済学部 教授 西村 周三 先生
- 11 【宇都宮市】平成6年9月24日 於）宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯科医療におけるインフェクション
コントロールについて 神奈川県立こども医療センター 歯科医師 池田 正一 先生
- 12 【芳賀】平成7年9月15日 於）真岡市 グランドホテル静風 顎関節症への対応について
～その病因から治療まで～ 東京慈恵会医科大学 助教授 杉崎 正志 先生
- 13 【今市】平成8年8月25日 於）宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 日常臨床における顎関節症の診断と治療
日本歯科大学 補綴学教室 教授 小林 義典 先生
- 14 【上都賀】平成9年9月28日 於）鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター 歯科界の今後の動向について
野村総合研究所 医療・福祉研究室 室長 宮崎 慶三 先生
- 15 【宇都宮市】平成10年7月5日 於）宇都宮市 グランドホテル 歯科医学から宇宙医学へのアプローチ
神奈川歯科大学 放射線学教室 教授 鹿島 勇 先生
- 16 【芳賀】平成11年9月26日 於）真岡市 グランドホテル静風
より確かな科学的根拠に基づいた補綴治療を求めて ー義歯やインプラントをめぐる最新の動向ー
広島大学 歯学部 補綴学第一講座 教授 赤川 安正 先生
- 17 【今市】平成12年9月15日 於）宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 逆さの視点 ー死から生を見るー
元東京監察医務院 院長 上野 正彦 先生
- 18 【上都賀】平成13年10月7日 於）鹿沼市 栃木厚生年金休暇センター 日本人の清潔がアブナイ
ーアトピーからO157までー 東京医科歯科大学 医学部 教授 藤田紘一郎 先生

- 19 【宇都宮市】平成14年9月8日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ
歯周治療の現状と未来 日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座教授 伊藤 公一 先生
臨床家として明日を拓くための歯周治療 宇都宮市歯科医師会 開業医 阿久津伸明 先生
歯周治療とSPT 宇都宮市歯科医師会 開業医 藤橋 弘 先生
- 20 【芳賀】平成15年9月7日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 矯正歯科における診断と治療の実際
北海道医療大学歯学部歯科矯正学講座教授 溝口 到 先生
- 21 【今市】平成16年9月5日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯周治療の新しい考え方
ー歯肉ポケット(歯周病)と全身疾患の関わりー 奥羽大学 歯学部 病院 教授 岡本 浩 先生
- 22 【上都賀】平成17年9月4日 於) 鹿沼市 ウェルサンピア栃木 咬合・咀嚼が創る健康長寿
日本歯科大学歯学部歯科補綴学第一講座教授 小林 義典 先生
- 23 【宇都宮市】平成18年9月3日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯から読み解く健康長寿
ーバイオフィルム除去の意義と術式ー 国立保健医療科学院 口腔保健部 部長 花田 信弘 先生
- 24 【芳賀】平成19年9月2日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ
命をねらう歯周病 ー歯周病と全身疾患との関わり。全身の健康は口の中からー
日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座教授 沼部 幸博 先生
- 25 【今市】平成20年9月7日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ ニーズに応える新世代接着修復
ーMIとエビデンスを活かしてー 日本歯科大学生命歯学部歯科保存学 講座教授 奈良陽一郎 先生
- 26 【上都賀】平成21年9月6日 於) 鹿沼市 ウェルサンピア栃木
口腔粘膜疾患への対応、口腔ガンを見落とさないために
東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 主任教授 山根 源之 先生
- 27 【宇都宮市】平成22年9月5日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯科臨床における知っておきたい咬合の基本
ーシークエンシャル咬合から咬み合わせリエゾン診療科で患者が訴える咬合までー
神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座 歯科補綴学分野診療科教授 附属病院咬み合わせリエゾン
診療科教授 玉置 勝司 先生
- 28 【芳賀】平成23年9月4日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ
21世紀型-歯科用インプラントに向けた挑戦 ー臨床応用できる歯の再生とはー
日本歯科大学生命歯学部再生・発生医学講座 教授 中原 貴 先生
- 29 【日光】平成24年9月2日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 世界が変わる新しい義歯の考え方
埼玉県 川口市「かめだ歯科医院」 院長 亀田 行雄 先生
- 30 【鹿沼】平成25年9月1日 於) 鹿沼市 ニューサンピア栃木
「食物アレルギー・アナフィラキシー」の対応 ～現代のアレルギーについて考える～
国立病院機構 相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部 部長 海老澤元宏 先生
- 31 【宇都宮市】平成26年9月7日 於) 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ 歯科から発信する再生医療について
東北大学大学院歯学研究科小児発達歯科学分野 教授 福本 敏 先生

編集後記

前回の記念誌に引き続きその後の5年間を記念誌としてまとめました。

この5年分の記念誌は、僕が歯科医師会に入会している間の5年間なので、その歴史をまとめていると、この5年間もいろいろなことがあったなぁと感慨もひとしおでした。また、この先10年、20年と鹿沼歯科医師会が歴史を重ねていくのだなぁと思い。また、その歴史に自分がいつまでかわられるのかなと考えさせられました。これからもできるだけ長く、そして楽しくこの鹿沼歯科医師会の歴史に自分が関わられるよう頑張りたいと思います。

茂呂 英運

この90周年記念誌の編纂の仕事を携わる事の出来ました5年間で、大きな災害や社会情勢の変化もあり、私たちの物事に対する考え方はいつの間にか変わってきたのではないかと思います。また、歯科医師会は法人化となり社会に対するあり方が変化し、歯と口腔の健康づくり推進条例が施行される等、より社会に貢献が出来る環境になったのではないかと感じました。

最後に、上都賀歯科医師会史編纂の仕事に携わる事ができ感謝しております。

手塚 史雄

2015年8月6日、編集後記を書いています。今年の夏は、記録的猛暑、いや酷暑というべき記録的な天候だそうです。今日の最高気温は、36.2度でした。100周年のときは、一体如何なっているのでしょうか？少し心配になってしまふ今日この頃です。

今回の編集作業であらためて歯科医師会の仕事、協力事業、お付き合いの量の多さに驚きました。特に、会長の激務の多さは誰でもこなせる量ではないとおもいます。私には出来ません。これからも陰ながらお手伝いが出来ればと、ちょっとだけおもいます。あっ、今も雷が鳴っています。ゲリラ豪雨になりそうです。そ

れではまたいつか。

田島 雅哉

過去があるから、未来があるのさ!!! 丶(*°▽°*)ノ

駒橋 武

今回は上都賀歯科医師会史、今回は諸事情により鹿沼歯科医師会史の編集となった。前回の発行時と同時期位に視力が低下し、余り手助けになる様な力を発揮する事はできなかった。編集委員は前回と同じスタッフだったので、各年度毎と担当しスムーズに資料の整理やとりまとめができたと思われる。

関係者の皆様に感謝。ごくろうさん、ありがとう。

村本 明

平成23年3月、記念誌「上都賀歯科医師会史一創立85周年記念一」発刊から早や4年が過ぎました。この度、鹿沼歯科医師会90周年記念誌を発刊することが出来、誠に喜ばしい限りであります。

たかが5年と申しますが、されど5年。「上都賀歯科医師会」は法人化に伴い「鹿沼歯科医師会」へと改称し、新たな第一歩を踏み出しました。この間、「東日本大震災」という千年に1度とも云われる未曾有の大災害に見舞われたのは記憶に新しい処であります。一方では、「鹿沼市歯と口腔の健康づくり推進条例」の制定を初めとして、将来につながる多くの新事業が立ち上げられました。正に次から次へと目まぐるしい変化の続いた、90年の歴史のなかでも稀有な激動の5年間であったように思われます。

85周年記念誌を発刊後、委員会内で協議をし、100周年に向かって5年毎に記念誌を発刊することが決定し、理事会における承認を経て、「鹿沼歯科医師会史編纂小委員会」に名を改め活動を継続して参りました。その中でも、編纂にあたってはより詳細に資料を掲載することに

腐心しました。年表に於いては、前回「栃歯会報」からのコピーで、小さく読み辛かった記事を大きく読みやすいものとししました。また、変動の5年間に会員の皆様の視点から語って戴きたく、「鹿沼歯孝」及び趣味や特技、更にはあなたの取って置き等の「アンケート」を掲載しました。様々な観点からの興味深い寄稿が多く、単なる資料集ではなく読み物としても、面白いものになったと自負しております。皆様のご協力に対しまして、改めて御礼を申し上げたいと存じます。

結びにあたりまして、編纂並びに印刷・製本で大変お世話になった松崎工房の松崎社長には心からの感謝の気持ちでいっぱいでございます。また、村本明先生には今回も委員会の後見役のみならず、記念誌の題字を提供して戴きましたが、本当に素晴らしいものが出来たと感激しております。更には強力なリーダーシップで私自身を叱咤激励し、引っ張って戴いた佐川会長ありがとうございました。そして、何よりも前委員会から引き続きご協力戴いた委員の先生方には毎回夜遅くまでの作業や多くの宿題、本当にご苦労様でした。言葉では感謝しても感謝しきれません。最後に本誌の発刊にご協力戴いた全ての皆様に、重ねて御礼申し上げ、編集後記と致します。

鹿沼歯科医師会史編纂小委員会委員長
福嶋 隆夫

鹿沼歯科医師会史 — 創立90周年記念 —

平成27年(2015)12月1日 発行

編 集 一般社団法人 鹿沼歯科医師会
鹿沼歯科医師会創立90周年記念誌編纂小委員会
茂呂英運 手塚史雄 駒橋 武 田島雅哉
村本 明 ○福嶋隆夫 ☆佐川徹三
○…編纂委員長 ☆…会長

発 行 一般社団法人 鹿沼歯科医師会
〒322-0043 栃木県鹿沼市万町931-1
電話 0289-65-7870

印 刷 有限会社 マツザキ工房
〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂4-38-12
